

北 斗 市

矢不來 8 遺跡 (3)

矢不來 9 遺跡 (2)

矢不來 10 遺跡 (2)

矢不來 11 遺跡 (3)

—高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成21年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

北 斗 市

矢不來 8 遺跡 (3)  
矢不來 9 遺跡 (2)  
矢不來 10 遺跡 (2)  
矢不來 11 遺跡 (3)

—高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成21年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター





矢不來11遺跡 遺物集中1（南西から）



矢不來9遺跡 H-5 a-a'土層断面（南から）





矢不來 9 遺跡 調査状況 (南から)



H-4 平地式住居跡検出状況 (北から)



H-4 HP-3 柱穴覆土キセル出土状況 (南から)



黒曜石製石楯出土状況 (南東から)



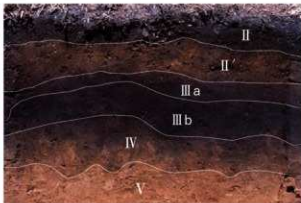
H-3 全景 (東から)



S-2 検出 (東から)



H-3 HF-3 検出 (南から)



矢不來 9 遺跡 土層の区分 (東から)



矢不來 9 遺跡 土層断面 (北から)



J-8 区 II' 層~III a 層遺物の出土状況 (西から)



## 例 言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局函館開発建設部が行う、高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成20年度に実施した、北斗市矢不來8遺跡・矢不來9遺跡・矢不來10遺跡と、平成21年に実施した矢不來11遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は平成20年度に第2調査部第3調査課、平成21年に第2調査部第4調査課が担当した。
3. 本書の執筆は佐川 俊一、袖岡 淳子、佐藤 剛、大森司 統が行い、編集は袖岡が担当した。
4. 文責者は文末に（丸括弧）で記した。
5. 遺物の整理は、一次整理作業の土器を佐藤 剛、石器を袖岡が行い、二次整理作業の土器・石器を袖岡が行った。
6. 現地での写真撮影は矢不來8遺跡・10遺跡を佐藤、矢不來9遺跡を袖岡、矢不來11遺跡を佐藤・大森司が行い、室内での写真撮影は第1調査部第1調査課 吉田裕史洋が行った。
7. 放射性炭素年代測定は 株式会社 加速器分析研究所に依頼した。
8. 調査にあたっては、下記の諸機関及び諸氏に御協力・御指導を頂いた。（順不同・敬称略）  
北海道教育委員会、北斗市教育委員会 三上 順之、森 靖裕、市立函館博物館 田原 良信、  
佐藤 智雄、大矢 京右、函館市教育委員会 野村 祐一、福田 裕二、七飯町教育委員会  
山田 央、厚沢部町教育委員会 石井 淳平、松前町教育委員会 佐藤 雄生、札幌学院大学  
鶴丸 俊明、臼杵 勲、大沼 忠春、横山 英介

## 記号等の説明

1. 遺構は下記の記号を略称として用い、確認順にアラビア数字を順に付した。  
H-：竪穴住居跡  
竪穴住居の付属遺構 柱穴・土坑 HP-： 焼土・灰跡 HF-： 炭化物の広がり HCB-：  
P-：土 坑 F-：焼 土 S-：集 石
2. 土層の表記は基本層序をローマ数字で、遺構の層位をアラビア数字で示した。
3. 遺跡で確認した火山灰は以下の略号を用いた。  
Ko-d：駒ヶ岳d火山灰(1,640年降灰)  
B-Tm：白頭山-苦小牧火山灰(10世紀降灰)
4. 土色の判定については『新版 標準土色帖』(小山・竹原1967)を用い、カラーチャートの番号を示した。
5. 挿図中の方位は真北を示す。
6. 遺跡・遺構の挿図にはすべてスケールを付した。個々に記載する遺構図の縮尺は1/40図である。遺物の出土状況については1/20図を用いた。
7. 遺構から出土した遺物の位置と高さについては、以下の記号を用いた。また、包含層掲載遺物の出土状況図には遺構覆土と同じシンボルを用いた。  
床面・坑底出土の遺物 土器：● 剥片石器：▲ 剥片：▼ 礫石器・礫：■ 磨製石器：☆  
覆土出土の遺物 土器：○ 剥片石器：△ 剥片：▽ 礫石器・礫：□ 磨製石器：☆
8. 遺構の規模については以下の方法で計測しⅧ章2表に示した。攪乱・遺構の重複等で破壊されている場合は現存長を(丸括弧)を付し表示した。(単位：m)  
竪穴住居跡・土坑：確認面の長軸長/床面・坑底の長軸長×確認面の短軸長/床面・坑底の短軸長×最大の深さ  
焼土：確認面の長軸長/確認面の短軸長×最大厚  
集石：確認面の長軸長/確認面の短軸長
9. 遺構の焼土はスクリーントーンで示した。
10. 掲載した遺物については下記の縮尺を用いた。また、各々にはスケールを付してある。  
復元土器・土器拓影図：1/3 剥片石器：1/2 礫石器：1/3 (S-2掲載礫石器は1/4)  
土製品：1/2
11. 復元した土器はすべて掲載した。復元土器については以下の計測を行った。また、復元できなかった部分については現存長を(丸括弧)を付し表示した。  
口径×底径×器高(単位：cm)
12. 掲載した石器・礫石器・土製品は実測図を正面とし以下の計測を行った。破損しているものについては(丸括弧)を付し表示した。  
最大長×最大幅×最大厚(単位：cm)
13. 掲載した石器について、擦り面があるものは|—|、敲痕にはV—Vでその範囲を示した。
14. 掲載した石器で被熱などによる石器表面の色が褐色化したものについては濃度の薄いスクリーントーンを、煤状などの黒い色が着いているものは濃度が濃いスクリーントーンで図示した。
15. 各遺跡の出土遺物は遺構・包含層と分類・器種別に集計しⅧ章2表に示した。

# 目 次

口 絵

例 言

記号等の説明

目 次

表目次・挿図目次・写真図版目次

## I章 調査の概要

1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	2
4 遺跡の位置と環境	5

## II章 調査の方法

1 グリッドの設定と座標値	7
2 発掘調査の方法と経過	11
(1) 矢不來 8 遺跡	
(2) 矢不來 10 遺跡	
(3) 矢不來 11 遺跡	
(4) 矢不來 9 遺跡	
3 整理作業の方法	15
4 遺物の分類	16
5 土層の区分	18
(1) 矢不來 8 遺跡・矢不來 10 遺跡・矢不來 11 遺跡	
(2) 矢不來 9 遺跡	

## III章 矢不來 8 遺跡

概要

1 遺構とその出土遺物	23
(1) 土 坑	
(2) 焼 土	
(3) 土器の集中	
(4) 遺構出土の遺物	
2 包含層出土の遺物	24
(1) 土 器	
(2) 石 器	

## IV章 矢不來 9 遺跡

概要

1 遺構とその出土遺物	33
(1) 住居跡	
(2) 土 坑	

(3) 焼土	
(4) 集石	
2 包含層出土の遺物	85
(1) 包含層遺物の出土状況とその遺物	
(2) 土器	
(3) 石器	
<b>V章 矢不來10遺跡</b>	
概要	
1 遺構とその出土遺物	117
(1) 土坑	
(2) 焼土	
(3) 遺構出土の遺物	
2 包含層出土の遺物	119
(1) 土器	
(2) 石器	
<b>VI章 矢不來11遺跡</b>	
概要	
1 遺構とその出土遺物	129
(1) 土坑	
(2) 焼土	
(3) 集石	
(4) 遺物集中	
(5) 遺構出土の遺物	
2 包含層出土の遺物	140
(1) 土器	
(2) 石器	
<b>VII章 自然科学的分析</b>	
矢不來9遺跡における放射性炭素年代測定（AMS）測定	147
<b>VIII章 総括</b>	
1 矢不來地区と茂別地区の遺跡の土層区分について	151
2 表	152
3 引用・参考文献	180
<b>写真図版</b>	
矢不來8遺跡	
矢不來9遺跡	
矢不來10遺跡	
矢不來11遺跡	

報告書抄録

奥付

## 表 目 次

表I-1	函館江差自動車道にかかる発掘調査の経過	表IV-10	矢不來9道跡	包含層掲載石器一覧	
表III-1	矢不來8道跡	検出遺構規模一覧	表V-1	矢不來10道跡	検出遺構規模一覧
表III-2	矢不來8道跡	遺構出土遺物一覧	表V-2	矢不來10道跡	遺構出土遺物一覧
表III-3	矢不來8道跡	包含層出土遺物一覧	表V-3	矢不來10道跡	包含層出土遺物一覧
表III-4	矢不來8道跡	遺構掲載石器一覧	表V-4	矢不來10道跡	遺構掲載石器一覧
表III-5	矢不來8道跡	遺構掲載石器一覧	表V-5	矢不來10道跡	遺構掲載石器一覧
表III-6	矢不來8道跡	包含層掲載石器一覧	表V-6	矢不來10道跡	包含層掲載石器一覧
表III-7	矢不來8道跡	包含層掲載石器一覧	表V-7	矢不來10道跡	包含層掲載石器一覧
表IV-1	矢不來9道跡	検出遺構規模一覧	表VI-1	矢不來11道跡	検出遺構規模一覧
表IV-2	矢不來9道跡	遺構出土遺物一覧	表VI-2	矢不來11道跡	遺構出土遺物一覧
表IV-3	矢不來9道跡	包含層出土遺物一覧	表VI-3	矢不來11道跡	包含層出土遺物一覧
表IV-4	矢不來9道跡	遺構掲載石器一覧	表VI-4	矢不來11道跡	遺構掲載石器一覧
表IV-5	矢不來9道跡	遺構掲載遺物一覧	表VI-5	矢不來11道跡	遺構掲載石器一覧
表IV-6	矢不來9道跡	遺構掲載石器一覧	表VI-6	矢不來11道跡	包含層掲載石器一覧
表IV-7	矢不來9道跡	包含層遺物出土状況掲載石器 一覧	表VI-7	矢不來11道跡	包含層掲載石器一覧
表IV-8	矢不來9道跡	包含層掲載石器一覧	表VIII-1	矢不來地区と茂別地区の土層区分	
表IV-9	矢不來9道跡	包含層遺物出土状況掲載石器 一覧			

## 挿 図 目 次

図I-1	函館江差自動車道 路線と遺跡の発掘調査	図II-6	矢不來9道跡	土層断面図①	
図I-2	遺跡の位置	図II-7	矢不來9道跡	土層断面図②	
図II-1	遺跡周辺の地形	図III-1	矢不來8道跡	遺構位置図	
図II-2	矢不來8道跡・矢不來9道跡	グリット設定 図	図III-2	矢不來8道跡	P-1とその遺物 F-6・7
図II-3	矢不來10道跡・矢不來11道跡	グリット設定 図	図III-3	矢不來8道跡	CP-2とその遺物 CP-3・ 4・5
図II-4	矢不來8道跡・矢不來10道跡・矢不來11道跡	調査の方法	図III-4	矢不來8道跡	CP-3・4・5の出土遺物
図II-5	矢不來8道跡・矢不來10道跡・矢不來11道跡	土層断面図	図III-5	矢不來8道跡	包含層出土の遺物①
			図III-6	矢不來8道跡	包含層出土の遺物②
			図III-7	矢不來8道跡	遺物の分布①
			図III-8	矢不來8道跡	遺物の分布②



- 図IV-1 矢不來 9 遺跡 遺構位置図
- 図IV-2 矢不來 9 遺跡 II' 層上面の地形と検出遺構・縄文時代後期前葉の遺物のまとまり・遺物集中 1 にかかる土層断面図
- 図IV-3 矢不來 9 遺跡 II' 層上面の地形とH-3掘り上げ土
- 図IV-4 矢不來 9 遺跡 H-3(1)
- 図IV-5 矢不來 9 遺跡 H-3(2)
- 図IV-6 矢不來 9 遺跡 H-3(3)
- 図IV-7 矢不來 9 遺跡 H-3(4)
- 図IV-8 矢不來 9 遺跡 H-3(5)
- 図IV-9 矢不來 9 遺跡 H-3(6)
- 図IV-10 矢不來 9 遺跡 H-3(7)
- 図IV-11 矢不來 9 遺跡 H-3(8)
- 図IV-12 矢不來 9 遺跡 H-3(9)
- 図IV-13 矢不來 9 遺跡 H-4(1)
- 図IV-14 矢不來 9 遺跡 H-4(2)
- 図IV-15 矢不來 9 遺跡 H-5(1)
- 図IV-16 矢不來 9 遺跡 H-5(2)
- 図IV-17 矢不來 9 遺跡 H-5(3)
- 図IV-18 矢不來 9 遺跡 H-5(4)
- 図IV-19 矢不來 9 遺跡 H-5(5)
- 図IV-20 矢不來 9 遺跡 H-6(1)
- 図IV-21 矢不來 9 遺跡 H-6(2)
- 図IV-22 矢不來 9 遺跡 H-6(3)
- 図IV-23 矢不來 9 遺跡 H-6(4)
- 図IV-24 矢不來 9 遺跡 H-6(5)
- 図IV-25 矢不來 9 遺跡 P-21・22とその出土遺物
- 図IV-26 矢不來 9 遺跡 P-23・24・25とその出土遺物
- 図IV-27 矢不來 9 遺跡 P-26・27とその出土遺物
- 図IV-28 矢不來 9 遺跡 F-22・F-24とその周辺遺物
- 図IV-29 矢不來 9 遺跡 F-24 周辺遺物
- 図IV-30 矢不來 9 遺跡 F-25・26・27 F-28とその遺物
- 図IV-31 矢不來 9 遺跡 F-29とその周辺遺物 F-30・31・32
- 図IV-32 矢不來 9 遺跡 F-35(1)
- 図IV-33 矢不來 9 遺跡 F-35(2)
- 図IV-34 矢不來 9 遺跡 F-33・34・36・37・38・51
- 図IV-35 矢不來 9 遺跡 F-40・41とその周辺遺物
- 図IV-36 矢不來 9 遺跡 F-42・43・44・45・46・47・48・49・50
- 図IV-37 矢不來 9 遺跡 S-2(1)
- 図IV-38 矢不來 9 遺跡 S-2(2)
- 図IV-39 矢不來 9 遺跡 S-2(3)
- 図IV-40 矢不來 9 遺跡 S-2(4)
- 図IV-41 矢不來 9 遺跡 S-2(5)
- 図IV-42 矢不來 9 遺跡 S-2(6)
- 図IV-43 矢不來 9 遺跡 包含層遺物出土状況とその遺物(1)
- 図IV-44 矢不來 9 遺跡 包含層遺物出土状況とその遺物(2)
- 図IV-45 矢不來 9 遺跡 包含層遺物出土状況とその遺物(3)
- 図IV-46 矢不來 9 遺跡 包含層遺物出土状況とその遺物(4)
- 図IV-47 矢不來 9 遺跡 包含層遺物出土状況とその遺物(5)
- 図IV-48 矢不來 9 遺跡 包含層遺物出土状況とその遺物(6)
- 図IV-49 矢不來 9 遺跡 包含層遺物出土状況とその遺物(7)
- 図IV-50 矢不來 9 遺跡 包含層遺物出土状況とその遺物(8)
- 図IV-51 矢不來 9 遺跡 包含層遺物出土状況とその遺物(9)
- 図IV-52 矢不來 9 遺跡 包含層遺物出土状況とその遺物(10)
- 図IV-53 矢不來 9 遺跡 包含層遺物出土状況とその遺物(11)
- 図IV-54 矢不來 9 遺跡 包含層出土の土器(1)
- 図IV-55 矢不來 9 遺跡 包含層出土の土器(2)
- 図IV-56 矢不來 9 遺跡 包含層出土の土器(3)
- 図IV-57 矢不來 9 遺跡 包含層出土の土器(4)
- 図IV-58 矢不來 9 遺跡 包含層出土の土器(5)
- 図IV-59 矢不來 9 遺跡 包含層出土の土器(1)
- 図IV-60 矢不來 9 遺跡 包含層出土の土器(2)
- 図IV-61 矢不來 9 遺跡 包含層出土の土器(3)

図IV-62	矢不來 9 遺跡	包含層出土の石器(4)	図V-9	矢不來10遺跡	包含層遺物の分布(3)
図IV-63	矢不來 9 遺跡	包含層出土の石器(5)	図VI-1	矢不來11遺跡	遺構位置図
図IV-64	矢不來 9 遺跡	包含層遺物の分布(1)	図VI-2	矢不來11遺跡	P-1・2
図IV-65	矢不來 9 遺跡	包含層遺物の分布(2)	図VI-3	矢不來11遺跡	TP-1・2
図IV-66	矢不來 9 遺跡	包含層遺物の分布(3)	図VI-4	矢不來11遺跡	F-7・8・9・10
図IV-67	矢不來 9 遺跡	包含層遺物の分布(4)	図VI-5	矢不來11遺跡	F-13とその出土遺物
図IV-68	矢不來 9 遺跡	包含層遺物の分布(5)	図VI-6	矢不來11遺跡	S-1
図IV-69	矢不來 9 遺跡	包含層遺物の分布(6)	図VI-7	矢不來11遺跡	遺物集中1とその遺物
図IV-70	矢不來 9 遺跡	包含層遺物の分布(7)	図VI-8	矢不來11遺跡	包含層出土の土器
図V-1	矢不來10遺跡	遺構位置図	図VI-9	矢不來11遺跡	包含層出土の石器(1)
図V-2	矢不來10遺跡	P-2・3・4 F-1	図VI-10	矢不來11遺跡	包含層出土の石器(2)
図V-3	矢不來10遺跡	P-5・6・7・8	図VI-11	矢不來11遺跡	包含層遺物の分布(1)
図V-4	矢不來10遺跡	TP-2	図VI-12	矢不來11遺跡	包含層遺物の分布(2)
図V-5	矢不來10遺跡	包含層出土の土器	図VI-13	矢不來11遺跡	包含層遺物の分布(3)
図V-6	矢不來10遺跡	包含層出土の石器	図VII-1	矢不來 9 遺跡	放射性炭素年代測定試料 サンプル採取位置
図V-7	矢不來10遺跡	包含層遺物の分布(1)			
図V-8	矢不來10遺跡	包含層遺物の分布(2)			

## 写真図版目次

口絵1-1	矢不來11遺跡	遺物集中1 (南から)	図版4	矢不來 8 遺跡	包含層出土の遺物
口絵1-2	矢不來 9 遺跡	H-5 a-a'土層断面 (南から)	図版5	矢不來 9 遺跡	II'層上面検出 調査状況
口絵2-1	矢不來 9 遺跡	調査状況 (南から)	図版6	矢不來 9 遺跡	H-3(1)
口絵2-2	矢不來 9 遺跡	H-4平地式住居跡検出状況 (北から)	図版7	矢不來 9 遺跡	H-3(2)
口絵2-3	矢不來 9 遺跡	H-4柱穴覆土キセル出土状況 (南から)	図版8	矢不來 9 遺跡	H-3(3)
口絵2-4	黒曜石製石槍出土状況 (南東から)				
口絵2-5	H-3全景 (東から)				
口絵2-6	S-2検出 (東から)				
口絵3-1	H-3 HF-3検出 (南から)				
口絵3-2	矢不來 9 遺跡	土層の区分 (東から)			
口絵3-3	矢不來 9 遺跡	土層断面 (北から)			
口絵3-4	矢不來 9 遺跡	J-8区 II'層~III a層遺物の出土状況 (西から)			
図版1	矢不來 8 遺跡	遺構確認区調査状況・調査区完 瓶			
図版2	矢不來 8 遺跡	P-11・F-6・F-7・CP- 2			
図版3	矢不來 8 遺跡	CP-3・CP-5と出土遺物			

図版9	矢不來9道跡	H-3(3)・S-2 検出	図版30	矢不來9道跡	包含層遺物出土状況の遺物(2)
図版10	矢不來9道跡	H-4(1)	図版31	矢不來9道跡	包含層遺物出土状況の遺物(3)
図版11	矢不來9道跡	H-4(2)	図版32	矢不來9道跡	包含層遺物出土状況の遺物(4)
図版12	矢不來9道跡	H-4(3)・H-5(1)	図版33	矢不來9道跡	包含層出土の土器(1)
図版13	矢不來9道跡	H-5(2)	図版34	矢不來9道跡	包含層出土の土器(2)
図版14	矢不來9道跡	H-5(3)	図版35	矢不來9道跡	包含層出土の石器(1)
図版15	矢不來9道跡	H-6	図版36	矢不來9道跡	包含層出土の石器(2)
図版16	矢不來9道跡	P-21・22・23・24・25	図版37	矢不來10道跡	25%調査状況・遺構確認区完掘
図版17	矢不來9道跡	P-26・27、F-28・35	図版38	矢不來10道跡	調査区完掘・基本土層断面
図版18	矢不來9道跡	包含層遺物出土状況(1)	図版39	矢不來10道跡	P-1・2・3
図版19	矢不來9道跡	包含層遺物出土状況(2)	図版40	矢不來10道跡	P-4・5・6・7
図版20	矢不來9道跡	土層断面	図版41	矢不來10道跡	P-7・8・TP-2・F-1
図版21	矢不來9道跡	H-3出土遺物(1)	図版42	矢不來10道跡	包含層出土の遺物
図版22	矢不來9道跡	H-3出土遺物(2)	図版43	矢不來11道跡	調査区北東側完掘・調査区完掘
図版23	矢不來9道跡	H-4・H-5出土遺物(1)	図版44	矢不來11道跡	遺構確認区完掘・基本土層断面
図版24	矢不來9道跡	H-5出土遺物(2)・H-6出土遺物(1)	図版45	矢不來11道跡	P-1・2・TP-1
図版25	矢不來9道跡	H-6出土遺物(2)	図版46	矢不來11道跡	TP-2・F-7・8・9・10
図版26	矢不來9道跡	P-21・22・24・25・26・F-24・28・29出土遺物	図版47	矢不來11道跡	F-11・12・13・S-1・遺物集中1
図版27	矢不來9道跡	F-35・41・42・50出土遺物	図版48	矢不來11道跡	遺物集中1出土の遺物
図版28	矢不來9道跡	S-2出土遺物	図版49	矢不來11道跡	包含層出土の土器
図版29	矢不來9道跡	包含層遺物出土状況の遺物(1)	図版50	矢不來11道跡	包含層出土の石器

# I章 調査と遺跡の概要

## 1. 調査要項

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路建設工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

受託者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター

遺跡名・所在地・調査面積：

遺跡名（登載番号）	所在地	調査面積	調査期間
矢不來8遺跡（B-06-74）	北斗市矢不來421外	1,791㎡	平成20年5月12日～7月18日
矢不來9遺跡（B-06-75）	北斗市矢不來415	1,514㎡	平成20年5月12日～8月4日
矢不來10遺跡（B-06-76）	北斗市矢不來229外	1,907㎡	平成20年5月12日～7月18日
矢不來11遺跡（B-06-77）	北斗市矢不來270外	1,349㎡	平成21年5月12日～6月30日

整理期間：平成21年8月3日～平成22年3月31日

## 2. 調査体制

平成20年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

理事長 森重 楯一（平成20年5月31日まで）

理事長 坂本 均（平成20年6月1日～）

専務理事 佐藤 俊和

常務理事 畑 宏明

第2調査部長 西田 茂

第2調査部 第3調査課長 佐藤 和雄（発掘担当者）

主査 谷島 由貴

主任 袖岡 淳子（発掘担当者）

主任 佐藤 剛（発掘担当者）

平成21年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

理事長 坂本 均

専務理事 佐藤 俊和（平成21年5月31日まで）

専務理事 松本 昭一（平成20年6月1日～）

常務理事 畑 宏明

第2調査部長 西田 茂

第2調査部 第4調査課長 村田 大（発掘担当者）

主任 袖岡 淳子（発掘担当者）

主任 佐藤 剛（発掘担当者）

主任 大泰司 統（発掘担当者）

### 3. 調査に至る経緯

高規格幹線道路「函館江差自動車道」は、函館市を起点とし北斗市・木古内町を経由、江差町に至る延長約70kmの一般国道自動車専用道路として北海道開発局により整備が進められている。この道路は北海道縦貫自動車道・函館新道と接続、函館都市圏の新たな環状道路として地域の交通混雑の解消、地域経済の活性化のために計画されたものである。

現在、事業区間となっている函館IC～木古内IC（仮称）間は、函館茂辺地道路（延長18.0km）と茂辺地木古内道路（延長16.0km）に分けて事業が進められている。このうち函館茂辺地道路は平成2年度から事業着手され、平成15年3月に函館IC～北斗中央（旧上磯）IC間（約8km）、平成21年11月に北斗中央IC～北斗富川IC間（約5km）が暫定供用された。現在は北斗富川ICから茂辺地IC（仮称）間の道路改良・橋梁工事が進められている。茂辺地木古内道路は平成6年度から着手され、設計協議・用地買収等が進められている。なお、平成18年2月「上磯町」と「大野町」の市町村合併により「北斗市」が成立、住所から「大野」「上磯」が無くなったため、平成21年10月1日から大野ICが北斗道分ICに、上磯ICが北斗中央ICにそれぞれインターチェンジの名称が変更となった。

高規格幹線道路にかかわる埋蔵文化財調査の経緯は以下のとおりである。

平成6年4月、函館開発建設部（以下、「函館開建」という）は、函館江差自動車道にかかる埋蔵文化財保護のための事前協議書を北海道教育委員会（以下、「道教委」という）に提出した。これを受けて道教委は、同年同月に遺跡の所在確認調査を実施した。その結果、次の9か所において遺跡の範囲確認調査が必要と判断された。遺跡は北から押上1・館野・館野4・館野2・館野6遺跡、矢不來館跡、矢不來台場跡、矢不來6・矢不來7遺跡である。その後、平成13年7月、函館開建により道路の工法変更がなされ矢不來館跡、矢不來台場跡の2か所について保存が決定、調査の必要な箇所は7か所となった。その後、平成15年11月の試掘調査の結果、矢不來6遺跡と呼ばれていた範囲は矢不來6・10・11・12遺跡の4遺跡に、また矢不來7遺跡と呼ばれていた範囲は矢不來7・8・9遺跡の3遺跡に分けられた。この結果、工事に伴い発掘調査が必要な遺跡の箇所は最終的に12か所であることが平成15年12月、道教委から函館開建へ通知された。

矢不來8・9・10・11遺跡にかかる道教委の範囲確認調査については、これまで当センターが刊行した報告書（北埋232,235,244,257）に記載しており、ここでは省略する。

平成19年8月、函館開建から北海道教育委員会へ発掘調査追加についての依頼文書が送付された。その内容は矢不來地区において付加車線の増設が決定したため、これまで暫定2車線で調査を実施してきた矢不來6・8・9・10・11遺跡の付加車線部分について追加の調査を要請するというものである。これに対してセンターは道教委の指示により、平成19年に矢不來6・11遺跡、平成20年に矢不來8・9・10遺跡、平成21年に矢不來11遺跡の調査を実施して付加車線部分の調査を終了した。なお平成19年に実施した矢不來6遺跡、矢不來9遺跡、矢不來11遺跡についてはすでに報告書を発行済である（北埋257）。今回報告するのは平成20年および21年に調査した矢不來8・9・10・11遺跡についてである。調査結果の概要について、矢不來8遺跡はⅢ章、矢不來9遺跡はⅣ章、矢不來10遺跡はⅤ章、矢不來11遺跡はⅥ章の各章で記述した。周辺の遺跡については先述した当センター既刊の報告書に掲載しており、参照されたい。

（佐川）

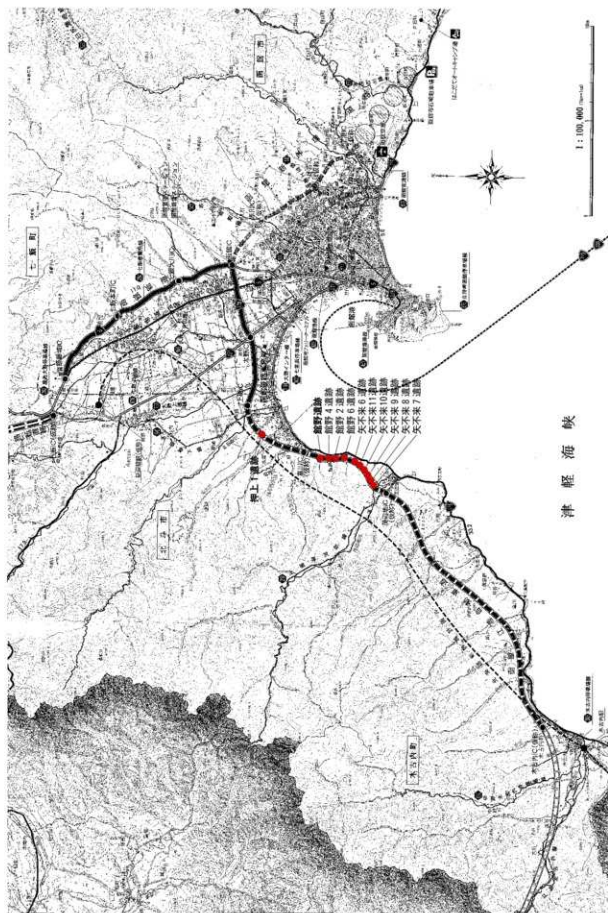


図 I-1 函館江差自動車道 路線と遺跡の発掘調査

## 3. 調査に至る経緯

表I-1 函館江差自動車道にかかる発掘調査の経過（平成21年度現在）

遺跡名	調査主体	調査面積	調査期間	調査の結果	報告書
押上1遺跡	上磯町(現北斗市)教育委員会	2,000㎡	平成14年7月16日～12月12日	縄文時代中期末～後期初頭	既刊
押上2遺跡	上磯町(現北斗市)教育委員会	3,800㎡	平成15年5月8日～10月9日	縄文時代後期初頭	既刊
押上4遺跡	上磯町(現北斗市)教育委員会	10,800㎡	平成16年5月1日～10月31日	縄文時代後期初頭	既刊
押上1遺跡	上磯町(現北斗市)教育委員会	2,665㎡	平成17年5月1日～10月31日	縄文時代中期末～後期前葉	既刊
熊野遺跡	北海道埋蔵文化財センター	5,750㎡	平成15年5月6日～10月31日	縄文時代中期後半～後期初頭の集落跡	北理図報257集
熊野遺跡	北海道埋蔵文化財センター	2,815㎡	平成16年5月6日～11月16日	縄文時代後期初頭の配石遺構	未刊
熊野2遺跡A地区	北海道埋蔵文化財センター	963㎡	平成19年5月7日～10月31日	旧石器時代・縄文時代後期前葉	未刊
熊野2遺跡B地区	北海道埋蔵文化財センター	3,406㎡	平成19年5月7日～10月31日	縄文時代中期前半の諸集落主体	未刊
熊野2遺跡C地区(1)	北海道埋蔵文化財センター	2,231㎡	平成19年5月7日～10月31日	縄文時代中期の集落	未刊
熊野2遺跡C地区(2)	北海道埋蔵文化財センター	2,076㎡	平成20年5月12日～10月1日	縄文時代中期の集落	未刊
熊野4遺跡	北海道埋蔵文化財センター	7,100㎡	平成17年9月1日～10月27日	縄文時代中期前半～後期前葉	北理図報235集
熊野6遺跡	北海道埋蔵文化財センター	5,768㎡	平成20年5月12日～11月30日	縄文時代中期前半・後期前葉・晩期前葉・晩期前葉・晩期前葉	未刊
熊野6遺跡	北海道埋蔵文化財センター	5,763㎡	平成20年5月12日～11月13日	縄文時代前期後半の集落・盛土遺構	未刊
矢不来6遺跡	北海道埋蔵文化財センター	4,669㎡	平成17年5月12日～8月31日	縄文時代前期後半の小集落・後期前葉の配石	北理図報235集
矢不来6遺跡	北海道埋蔵文化財センター	587㎡	平成19年9月7日～10月31日	縄文時代中期前半？・後期前葉	北理図報257集
矢不来7遺跡	北海道埋蔵文化財センター	2,141㎡	平成16年10月4日～10月29日	縄文時代後期後葉の集落跡	北理図報232集
矢不来7遺跡	北海道埋蔵文化財センター	6482㎡	平成17年5月9日～10月28日	縄文時代後期後葉の集落跡	北理図報232集
矢不来8遺跡	北海道埋蔵文化財センター	6,196㎡	平成17年8月8日～10月28日	縄文時代晩期中葉	北理図報232集
矢不来8遺跡	北海道埋蔵文化財センター	82㎡	平成18年10月3日～10月27日	縄文時代中期後半～後期前葉・晩期中葉	北理図報244集
矢不来8遺跡	北海道埋蔵文化財センター	1,791㎡	平成20年5月12日～7月18日	縄文時代中期後半～後期前葉・晩期中葉	本書
矢不来9遺跡	北海道埋蔵文化財センター	2,030㎡	平成19年8月1日～10月31日	縄文時代中期前半～後期前葉	北理図報257集
矢不来9遺跡	北海道埋蔵文化財センター	1,514㎡	平成20年5月12日～8月4日	縄文時代中期前半～後期前葉・近世	本書
矢不来10遺跡	北海道埋蔵文化財センター	7,607㎡	平成18年7月10日～10月27日	縄文時代早期前半・後期前葉・晩期後葉	北理図報244集
矢不来10遺跡	北海道埋蔵文化財センター	1,907㎡	平成20年5月12日～7月18日	縄文時代早期前半・後期前葉・晩期後葉	本書
矢不来11遺跡	北海道埋蔵文化財センター	5,900㎡	平成17年5月12日～8月31日	縄文時代後期前葉	北理図報235集
矢不来11遺跡	北海道埋蔵文化財センター	246㎡	平成19年9月7日～10月31日	縄文時代後期前葉	北理図報257集
矢不来11遺跡	北海道埋蔵文化財センター	1,349㎡	平成21年5月12日～6月30日	縄文時代後期前葉	本書

#### 4. 遺跡の位置と環境

北海道の南端に位置する渡島半島は三方を海に囲まれ、西岸（日本海）と南岸（津軽海峡）は対馬暖流に洗われている。北斗市は渡島半島の南部に位置する。このような地理的条件から冬の冷え込みは弱く、夏の暑さも厳しくない。

北斗市の旧上磯町地区は平野部、海岸段丘部、それより標高の高い丘陵部からなり、丘陵部は西部を、平野部は東部を占める。段丘部は津軽海峡に面して狭い平坦面をなし、標高50～70mである。丘陵部は標高約450m以下の山稜地形をなしている。万太郎沢（まんたろうさわ）川を境にして北・東側には平野部が広がる。南・西側には館野（たての）、矢不來（やふらい）、茂辺地（もへじ）、当別（とうべつ）にかけ海岸段丘が発達している。館野、矢不來から当別を経て木古内（きこない）町に至る海岸段丘は後背地が広く、変化に富んだ海岸線が続く。館野と矢不來の境は麓山から丘陵部、海岸段丘を経て函館湾に向かう根根状地形の北側を館野、南側を矢不來と呼称している。矢不來は丘陵部から茂辺地川に向かう沢によって海岸段丘が開析され、狭い平坦面や緩斜面などに縄文時代から中・近世にかけ多くの遺跡が確認されている。

口碑伝説によれば、「正平7年（文和元年）（1352）、文和年間（1352～1355）モンベツ海岸（矢不來）に稀代の大松（中略）漂ひ来りければ（中略）丈一尺の木像ありけるを発見（中略）矢不來の地に勧請せり。（中略）地名ヤギナイをカムイヤンゲナイと改め尊崇せり。」とある。

享徳3年（1454）、『新羅之記録』によれば茂別館が創設された。南部氏に追われ津軽から渡島半島に渡った下ノ国守護職である下国家政が館主として居城していた茂別館は、長祿元年（1457）コシャマインの戦いで十二館のうち上ノ国守護職蠣崎季繁居城の花沢館とともに二館が陥落しなかった。この茂別館の館神として祀られていたのが矢不來天満宮（モンベツ海岸に漂着した木像）で、天満宮縁起によれば、家政がこの地で陣を構えていたとき、コシャマインの毒矢が1本もとどかなかった。これは天満宮加護によるものとして「矢不來」と文字を改めたとある。矢不來天満宮については昭和62年、一般国道228号上磯町茂辺地法面工事に伴い当センターにおいて発掘調査を行っている。調査の結果、近世に建立された拝殿、本殿とその付属施設、手水鉢、稲荷社を検出している（北埋調報47）。

また茂別館と矢不來館を結ぶフィールド調査が行われている（野村・石井・塚田2008）。この調査により茂別館と矢不來館を結ぶ旧道（馬道）跡が確認されている。茂別館側、茂辺地川沿いから続く旧道は、旧字名の「馬道通り」にあたる矢不來8遺跡を北東に貫き、旧字名「馬道岱」にある矢不來9遺跡の北側を通り、下矢不來川沿いまで確認され、矢不來館に向かっていった。双方の館をつなぐ旧道（馬道）は中世まで遡る可能性があることを示唆している。

元禄十三年（1700年）、蝦夷地全島の地図「元禄御国絵図」及び「松前郷帳」には、「…（略）三ツ石村・大当別村・小当別村・もへち村・やげ内村・富川村…」とあり、江戸時代には「やげ内」（やげない）といい小集落が存在していた記録がある。

江戸幕府成立以後は和入地として日本の幕藩制国家に組み入れられ、さらに明治2年（1869）には函館戦争の激戦地となった。同年4月9日、乙部から上陸した新政府軍は江差、松前を制圧、3方から函館に向かい進軍した。日本海沿岸では松前城を奪還し、木古内では両軍が激闘、形勢不利と見た旧幕府軍が4月21日矢不來に布陣した。矢不來は高い崖が海近くまで迫る海岸線最後の要害だった。29日未明戦端が開かれ、新政府軍の緊密な海陸挟撃作戦により同日中に矢不來の戦いは終わる。当センターで行った過年度の矢不來6遺跡、矢不來9遺跡、矢不來10遺跡、矢不來11遺跡の調査では函館戦争に用いられた銃弾が検出されている。なかでも矢不來6遺跡（北埋調報235）から出土した銃弾



4. 遺跡の位置と環境

2点について、1つはスペンサー式騎兵銃（アメリカ南北戦争の際、北軍の制式従銃として採用）と、エンフィールド銃のブリチェット弾で、南北戦争終結と共に幕末の日本に輸出されたものであった。  
 (袖岡)

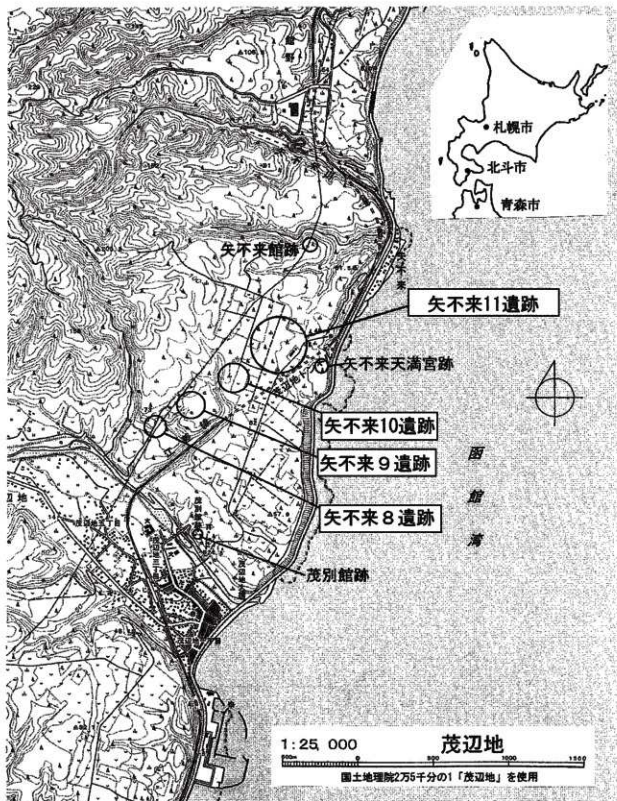


図1-2 遺跡の位置

## II章 調査の方法

### 1. グリットの設定と座標値

#### (1) グリットの設定

矢不來8遺跡・矢不來9遺跡・矢不來10遺跡・矢不來11遺跡のグリット設定にあたっては、国土交通省北海道開発局函館開発建設部が作成した「函館江差自動車道上磯町館野矢不來間用地測量用地平面図」1/1,000図を基本図として使用し、路線内の測点SPを基準点として用いている。いずれも遺跡内やその近くにある測点SPを2ヶ所直線で結びグリットラインの基軸とし、それに直交するラインを設け4m×4mの方眼を発掘区に設定している。測点SPに並行するラインにアルファベットの太文字を用い、直交するラインにはアラビア数字を使用した。いずれの遺跡も過年度当センターにて調査を行っており、それに倣っている。なお、測量成果は平面直角座標系X I系の値（世界測値系）である。以下に各遺跡の測点と設定の基準を示す。

#### 矢不來8遺跡

測点SP16300-SP16400間をMライン、SP16400に直交するラインを20として発掘区にグリット設定。なおSP16300及びSP16400の測量成果及び水準測量に使用した基準点は、つぎのとおりである。

SP16300	X = -246872.281	Y = 29240.307
SP16400 (M20杭)	X = -246927.671	Y = 29157.049

#### 矢不來9遺跡

測点SP16000-SP-16100間をMライン、SP16100に直交するラインを15として発掘区にグリット設定。

SP16000	X = -246724.575	Y = 29501.351
SP16100 (M15杭)	X = -246772.032	Y = 29413.329

#### 矢不來10遺跡

測点SP15800-SP15900間をMライン、SP15800に直交するラインを45として発掘区にグリット設定。

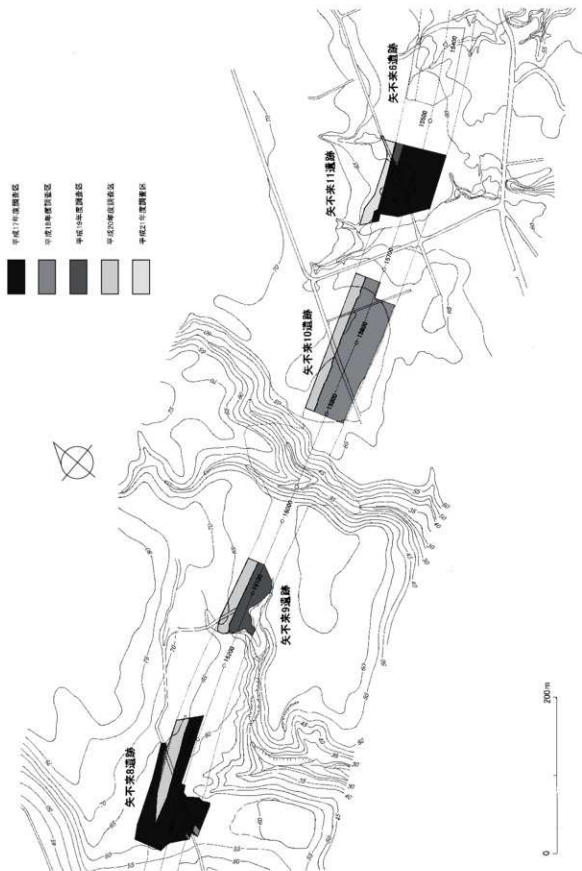
SP15800 (M45杭)	X = -246605.800	Y = 29721.148
SP15900	X = -246653.759	Y = 29633.400

#### 矢不來11遺跡

隣接する矢不來6遺跡と同じ測点を用いている。測点SP15400-SP15500をPラインとし、SP15500を40とし矢不來11遺跡にグリット設定。

SP15400	X = -246444.744	Y = 29973.957
SP15500	X = -246381.628	Y = 30051.497

(袖岡)



図II-1 通駅周辺の地形

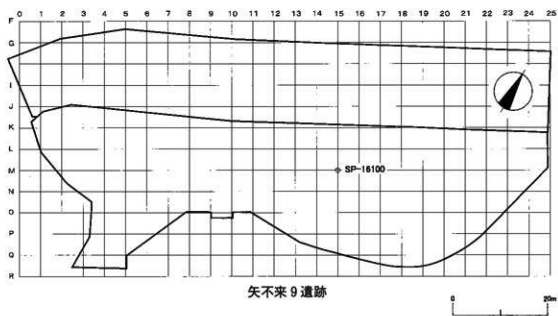
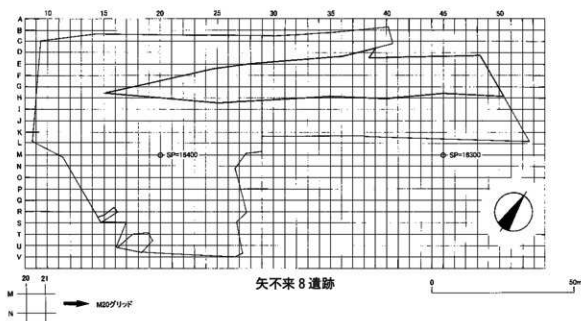
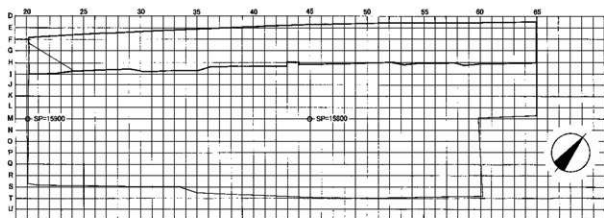
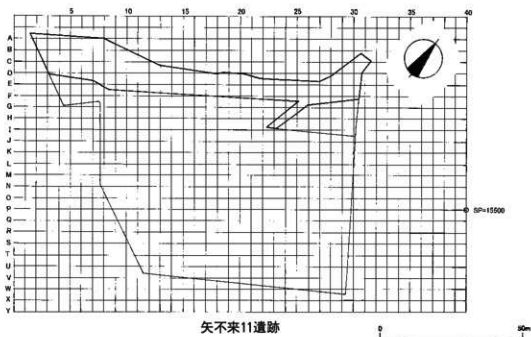


図 II - 2 矢不來 8 遺跡・矢不來 9 遺跡 グリッド設定図

1. グリッドの設定と座標値



矢不來10遺跡



矢不來11遺跡

図 II - 3 矢不來10遺跡・矢不來11遺跡 グリッド設定図

## 2. 発掘調査の方法と経過

### (1) 矢不來8遺跡

矢不來8遺跡は、平成17・18年度に調査を行い報告しており（北埋調報232・244）、今回は平成20年度の調査である。

調査区は、過年度の調査区に挟まれている。B調査と過年度の調査実績から、本調査範囲、遺構確認範囲にわけて調査を行った。また、南側の先端部分は工事により掘削されていた。（図II-4）。

本調査範囲は、重機により表土を除去し、II層及びII'層は調査員の指示の下、遺構・遺物を確認しながら重機によりIII層上面まで掘り下げた。III層上面は人力で精査し、その後、人力で遺構・遺物を確認しながら包含層をV層上面まで掘り下げた。V層上面は人力で精査し、地形測量を行い、調査を終えた。

遺構調査範囲は、重機により表土を除去した後、調査員の指示の下、遺構・遺物を確認しながら重機により包含層をV層上面まで掘り下げた。その後、V層上面を人力で精査し、地形測量を行い、調査を終えた。

掘削範囲では、掘削がV層の下位まで及んでおり、遺構・遺物は確認できなかった。

### (2) 矢不來10遺跡

矢不來10遺跡は、平成18年度に調査を行い報告しており（北埋調報244）、今回は平成21年度の調査である。

調査区は、過年度の調査区の北西側である。B調査と過年度の調査実績から、当初予定では、50から53ライン付近から南側を本調査範囲、北側を遺構確認範囲としていた。北側を遺構確認範囲としていたのは、耕作により、包含層がほぼV層上面まで掘削されていたためである。南側では、過年度の調査で遺物の出土が少なかったため、面積の25%程度の範囲の包含層を人力でV層上面まで掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った（25%調査）。その結果、26ラインから41ラインまでは遺物の出土が少なかったことから、遺構確認範囲に切り替えて調査を行った。また、南側の先端部分は工事により掘削されていた（図II-4）。

本調査範囲と遺構調査範囲の調査方法は矢不來8遺跡と同様である。

掘削範囲では、掘削がV層の中位まで及んでおり、遺構・遺物は確認できなかった。

### (3) 矢不來11遺跡

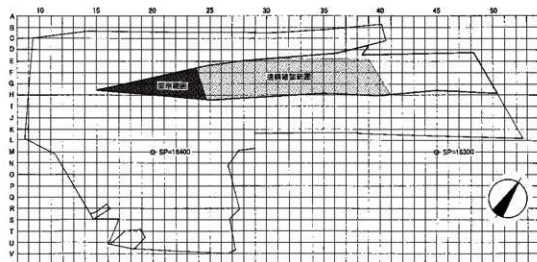
矢不來11遺跡は、平成17・19年度に調査を行い報告しており（北埋調報235・257）、今回は平成21年度の調査である。

調査区は、過年度の調査区の北西側である。B調と過年度の調査実績から、11ライン付近から北側を本調査範囲、南側を遺構確認範囲にわけて調査を行った（図II-4）。

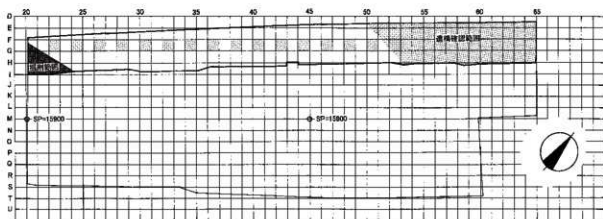
本調査範囲と遺構調査範囲の調査方法は矢不來8遺跡と同様である。

（佐藤）

2. 発掘調査の方法と経過

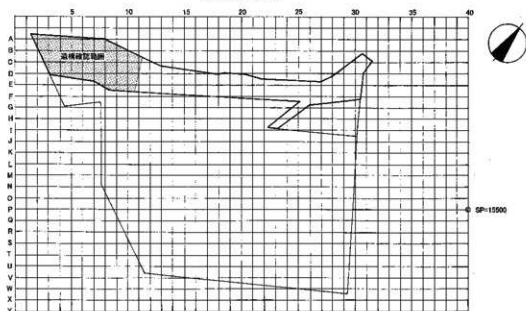


矢不來 8遺跡



25m調査

矢不來10遺跡



矢不來11遺跡

図II-4 矢不來 8遺跡・矢不來10遺跡・矢不來11遺跡 調査の方法

## (4) 矢不來9遺跡

平成20年度の調査は、前回の調査結果をもとに下記の3点を主眼において調査を行った。

- ① 縄文時代中期前半、縄文時代後期前葉の遺構、遺物についての層位的、平面的な分布の傾向とその特徴
- ② 前回の調査区からその範囲が広がると考えられていた縄文時代後期前葉の「遺物集中1」について詳細な調査・記録
- ③ 新たに検出される別時期の遺構、遺物の検出

今回の調査範囲は、前年度まで伐木・抜根ののち鋼板敷きにしてダンプカーや重機、特殊車両が通る工事用道路として利用されていた。

重機によりⅡ'層上面まで表土を除去したのち、グリット杭の打設・安全対策・環境整備を行ない、人力にてジョレンを用い表面を精査し写真撮影と地形測量を行った。この後、先述した①～③をもとに調査を開始した。

## ①の調査方法

まず遺跡の内容を把握するため、範囲全体の25%について、移植ゴテを用い、層位ごとに遺物の多寡を見極めながら調査(25%調査)を行った。これにより遺構・遺物の分布を大筋で把握したのち、全面展開した。

〈結果〉

1. 縄文時代後期前葉の遺物がⅡ'層(B-Tm白頭山-苦小牧火山灰と本来の遺物包含層Ⅲa層の土が母材である二次堆積層)から多く出土した。
2. 縄文時代後期前葉の遺物包含層がⅡ'層の直下にある極暗赤褐色を呈するⅢa層(層厚10~15cm)であった。
3. 縄文時代中期前半の包含層はⅢa層より下位になる黒色土のⅢb層であった。
4. 平面分布は沢地形を挟み西側は縄文時代中期前半、南東側は縄文時代後期前葉と偏りがみられた。
5. 南西側に広がる比較的平坦な面に検出した竪穴住居跡H-3と、平坦面と斜面部の境にあるH-5のトレンチ調査を行った。これにより縄文時代中期前半の遺構の構築面がⅢb層中であることが判った。

## ②の調査方法

「遺物集中1」については、土器片や礫石器類などがまとまった状態や、復元可能なものについて縮尺10分の1図と写真撮影にて記録した。Ⅱ'層~Ⅲa層にかけて、散漫な状態で出土する概時期の遺物に関しては層位とグリット、日付を記録し取り上げた。

〈結果〉

前回調査の「遺物集中1」の続きは検出されなかった。当該時期の遺物のまとまりは図IV-2に示す通りである。

調査開始前にⅡ'層上面の地形測量を行った(図IV-2)。この地形を見ていくと、I-8~I-11区にかけ、グリットラインG~I、5~10のあいだに標高65mで南へ舌状に張り出した高まりがあり、そこから東西に分かれ傾斜していく。西側は標高64.5m~65mのあいだでやや平坦な面(H-3が立地)を形成し沢に向かい急崖となる。

小規模な沢状地形があり、東側では比高差が40~60cm程度の沢頭を確認した。このⅡ'層上面で確認した微地形はⅤ層上面では確認できない。これは前回調査区に続くことが考えられ、縄文時代後期前葉の包含層であるⅢa層の地形を反映していると考えられる。

図IV-65・68でⅢa層から多く出土した縄文時代後期前葉の土器Ⅳ群a類と、剥片(フレイク)の分



布を見ていくと、数量が多いところは舌状に張り出す高まりから東へ下る沢状地形までのあいだにかけての傾斜面である。ここでまとまりがない遺物が多く検出されたことは二次的な在り方であると判断する。これを裏付ける記録として、図IV-2で示した遺物集中1にかかる土層断面はⅢa層とⅢb層が一部判然としないところが観察できた。

今回の調査区では以上の結果から、縄文時代後期前葉の出土遺物について一括性を思わせる「遺物集中」と認定しなかった。

#### 〔遺物集中1〕についての結論

上記のことを総合的に判断すると「遺物集中1」とした範囲は前回調査区のⅢ層上面で確認できる、舌状の高まりから東側の斜面と沢状地形にかけての範囲である。主体となるところは平成19年度調査区の標高63m前後に収まる部分で、縄文時代後期前葉のトリサキ式・大津式・白坂3式に相当する土器が多く検出されたところである。

#### ③の調査方法

Ⅱ'層上面精査、25%調査、包含層調査によって近世以降の平地式住居跡H-4を検出した。

以上のⅡ'層上面精査、包含層25%調査結果、遺構のトレンチ調査結果、「遺物集中1」を含む縄文時代後期前葉の記録方法をもとに調査を全面展開した。

#### 遺構・土層断面の記録

遺構の平面、土層断面、遺跡のメインセクションの記録は縮尺20分の1を基本とし、標高、立面の記録は特徴を表現できる地点を選択し記録した。

遺構の検出・土層断面・完掘状況は写真撮影をした。

#### 遺物の取り上げ

遺構の遺物は出土状況とその層位に応じて以下の3種類による記録方法をとった。

1. 縮尺10分の1図と標高を入れたものを作成し写真撮影をしたもの。
2. 出土地点を縮尺20分の1で記録し標高を記録したもの。
3. 遺構名と層位を記録し、取り上げたもの。

包含層の遺物は以下の2種類の方法をとった。

1. 土器が復元可能な状態で出土したもの、その付近から出土した石器類に関しては縮尺10分の1図と標高を記録し、写真撮影した。
2. そのほかの散漫な出土状態を示すものに関してはグリットでまとめ、層位・日付を記録し取り上げた。

#### 写真撮影

矢不來8遺跡、矢不來9遺跡、矢不來10遺跡、矢不來11遺跡で共通する。

現場での写真撮影は以下の機材を使用した。

カメラ	マミヤ RZ67Pro II
レンズ	マミヤ・セコール50mm F4.5 マミヤ・セコール65mm F4L-A マミヤ・セコール90mm F3.5W F3.5W マミヤ・セコールマクロM140mm F4.5m/L-A
フィルター	UV
三脚	スリック プロフェッショナルII
フィルム	フジフィルム フジクローム プロビア100 (矢不來8・10・11遺跡は400)

フジフィルム フジクローム ネオパン100 (矢不來8・10・11遺跡は400)

デジタルカメラ

### 3. 整理作業の方法

矢不來8遺跡、矢不來9遺跡、矢不來10遺跡、矢不來11遺跡で共通する。

#### (1) 一次整理

出土遺物は現地にて水洗・分類・遺物台帳作成・注記作業を行った。

台帳については紙に手書きのものを作成しパソコンに入力、整合性をチェックしたのち集計等の作業を行った。注記については、包含層が「遺跡名、グリット、層位、遺物番号」(記入例：ヤフ8、H7、Ⅲ、7)、遺構については「遺跡名、遺構番号、層位、遺物番号」(記入例：ヤフ9、H-3、フク土、16)と記入した。遺物台帳については手書きのものを作成し、パソコンに入力した。遺構からサンプル採取を行った土壌については台帳を作成しフローテーション作業を行った。現場写真はリバーサル、モノクロフィルムを同一カットでそろえた写真台帳を作成した。

これらの遺物・記録類は江別市の北海道埋蔵文化財センターに搬送し平成21年8月より二次整理作業を開始した。

#### (2) 二次整理

遺物は遺構出土の石器・礫と包含層の土器の接合作業を行い、各々接合状況を記録した後、器形を復元出来るものは全て復元し、報告書掲載遺物の対象とした。土器は復元できなくても土器型式に比定できる破片については現場の出土状況の記録類と合わせて報告するため拓影図を作成した。石器は定形的なものなから器種における特徴がわかるよう、掲載遺物の抽出を行った。

#### (3) 室内撮影

二次整理後の報告書掲載遺物は室内にて撮影をし、写真図版を作成した。

室内での写真撮影は以下の撮影機材を使用した。

カメラ	トヨ トヨビュー45GX
レンズ	ニコン ニッコールAM ED210F5.6
トヨ	無影撮影台
ストロボ	コメットCA3200 発光部 (32H)
デフューザー	ライトバンク・アンブレラ
フィルム	コダック T-MAX100 コダック E100G

#### デジタルカメラ

スタジオ撮影した台帳はパソコンに入力し、被写体による検索が可能なデジタルデータベースとして管理している。

#### (4) 記録類・遺物の収納・保管

現場で記録した図面類は遺構と包含層とに分け管理番号を与え収納した。報告書作成のため現場の記録類を整理し浄書した図も同様にした。遺物は二次整理後、報告書に掲載したものと未掲載のものに分け、報告したのものに関しては掲載番号を記し、収納した。(袖岡)

## 4. 遺物の分類

### (1) 土器

縄文時代をⅠ～Ⅴ群、統縄文時代をⅥ群、擦文時代をⅦ群と大別し、下記の分類基準を用いて行なった。

#### Ⅰ群 縄文時代早期に属する土器群

- a 類：胎土が密で、貝殻条痕文、貝殻文、及び撚糸文、組紐圧痕文、貼付文、縄文等の施されているもの
- b 類：胎土が粗で、撚糸文、組紐圧痕文、絡条体圧痕文、貼付文、縄文等の施されているもの

#### Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器群

- a 類：丸みがあり、縄文原体（0段多条が多い）は条の幅が広く、地文の縄文が器面に深く施文される、丸底、尖底を主体とするもの
- b 類：地文が絡条体、撚糸文で、内面が磨かれている円筒土器下層式に相当するもの

#### Ⅲ群 縄文時代中期に属する土器群

- a 類：貼付文及びその文様構成を引く沈線文で文様帯が構成される、円筒土器上層式及びサイベ沢Ⅶ式に相当、もしくはその系譜を引くと考えられるもの（破片で明確に区分しづらい、見晴町式相当のものも含んだ）
- b 類：見晴町式、榎林式、大安在B式、ノダップⅡ式、及び地文を施文する前に隆起する貼り付けを行い、刺突文等で文様を構成する煉瓦台式に相当するもの

#### Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器群

- a 類：天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂3式に相当するもの（余市式として分類される、幅の広い貼付文と無文帯を持ち、刺突文、縄線文、沈線文などで文様が構成される一群は遺跡の状況によりⅢ群b類またはⅣ群a類のなかで扱う。ここではⅣ群a類に分類した。）
- b 類：ウサクマイC式、手稲式、ホッケマ式、エリモB式に相当するもの
- c 類：堂林式、三ツ谷式、御殿山式、湯の里3式に相当するもの

#### Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器群

- a 類：大洞B式、大洞BC式、及び主に半截竹管状工具による器表面への垂直な刺突の施されている上ノ国式に相当するもの
- b 類：大洞C<sub>1</sub>式、大洞C<sub>2</sub>式に相当するもの、及びそれに併行する在地の土器群
- c 類：大洞A式、大洞A'式に相当するもの、及びそれに併行する在地の土器群

#### Ⅵ群 統縄文時代に属する土器群

恵山式に相当するもの

#### Ⅶ群 擦文時代に属する土器群

今回は出土していない

(佐藤・袖岡)

## (2) 石器等

石器等は遺構出土のもの、包含層出土のものと剥片石器群、磨製石器群、礫石器群に大別し形態毎に分類、台帳を作成し二次整理作業を行った。遺構出土のものに関しては必要があるものについて接合作業を行い、遺物を掲載した。掲載した遺物については遺構出土・包含層出土で出土状況を記録したもの・包含層出土のものからそれぞれ形態的特徴を捉えやすいものを抽出した。

石器の計測は実測図正面を正の位置とし、最大値となる「長さ」、長さに直交する「幅」、「厚さ」の項目についておこない、「重さ」を量り計測値を一覧表に示した。また破損・欠損のあるものは残存する値を(丸括弧)で括った。「重さ」を示す単位はg、剥片石器・100g未満の磨製石器・礫石器については小数点第2位まで計測、100g以上1kg未満の石斧・礫石器については小数点第1位まで計測、1kgを超える台石・石皿は1gを最小単位とする数値で示した。欠損・破損のある石器等は(丸括弧)で括った。分類は以下の名称を用いた。

## 剥片石器群

石鏃：押圧剥離により両面が調整され、尖頭形を呈する5cm未満のもの

石槍・ナイフ：押圧剥離や平坦剥離によって両面が調整され尖頭形を呈する5cm未満のもの  
両面調整石器：剥離が素材の両面に施される、尖頭形でないもの

石錐：錐状の突出部を作出しているもの

つまみ付きナイフ：抉り状の加工により端部につまみ状の部分が作り出されたもの  
スクレイパー：剥離が素材の側縁に連続的に加えられたもの

ピエス・エスキーユ：剥片や礫を素材とし、対向する小剥離が両端にあるもの

Rフレイク（加工痕のあるもの）：剥片を素材とし、縁辺の一部に二次加工が認められるもの

Uフレイク（使用痕のあるもの）：剥片の縁辺に調整とは別の剥離や擦痕などが認められるもの

石核：石器の素材となり得る剥片を剥離した痕跡があるもの

フレイク：素材となる石から剥離されたもので二次加工が認められないもの

## 磨製石斧群

磨製石斧：打ち欠き・敲打・研磨により成形され一端に刃部を作り出したもの

## 礫石器群

たたき石：敲打痕があるもののうち、持ち運びが可能なもの

すり石：擦り痕があるもののうち、持ち運びが可能なもの

砥石：窪んだ砥面をもつもの

台石・石皿：持ち運びが可能と考えられる礫に平滑な擦り面や敲打痕があるもの

扁平打製石器：周囲もしくは両端を打ち欠き、半円または楕円に成形されたもの。1辺に擦り面を有するものがある

## 礫・礫片

被熱礫片・被熱礫

礫片・自然礫

## 土・石製品

土器の胎土や石を素材とし、上記分類に属さない特殊な形に加工されたもの (袖岡)

## 5. 土層の区分

### (1) 矢不來8遺跡・矢不來10遺跡・矢不來11遺跡

矢不來8遺跡・矢不來10遺跡・矢不來11遺跡の基本層序は以下の通りである。

I層：表土・耕作土。II層との層界は明瞭である。

II層：黒褐色（Hue10YR 2/2）壤土。層厚は10cm前後。III層よりも黒味が強い。III層との層界は判然である。土層中に、まれに駒ヶ岳降下火山灰d（Ko-d：1640降灰）が堆積する。

※駒ヶ岳降下火山灰d（Ko-d）：にぶい黄褐色（Hue10YR 7/4）砂土。粘着性はなし。白っぽい粉状で、直径1～2cmの斑点状に固まる。

II'層：暗褐色（Hue10YR 3/4）砂壤土。層厚は10cm前後。III層との層界は判然である。白頭山苦小牧火山灰（B-Tm：10世紀降灰）の二次堆積テフラと腐植土が混在する。矢不來地区では普遍的な層として確認でき、場所によってB-Tmの混入率が高いため色調が明るい部分もある。しかし、隣接する館野地区など、層状に確認できない場所もある。

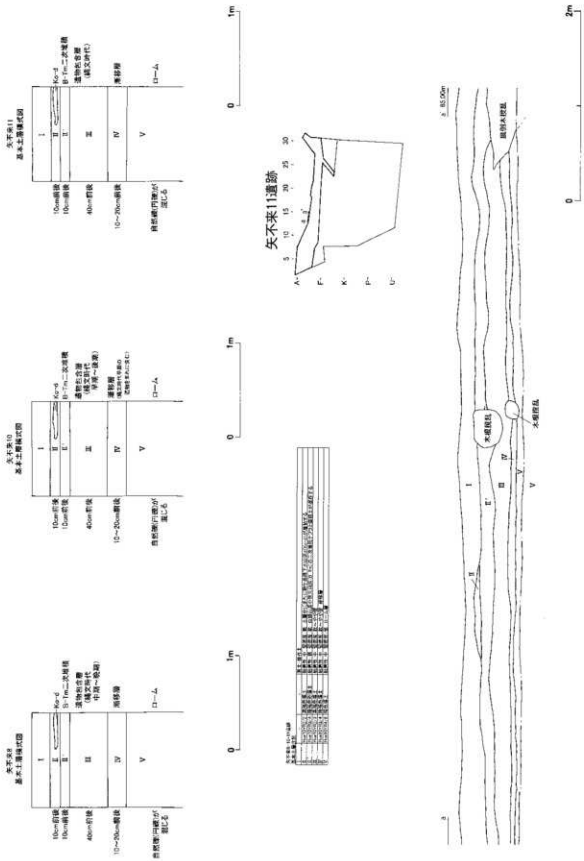
※白頭山苦小牧火山灰（B-Tm）：黄褐色（Hue10YR 5/6）砂土。粘着性はなし。黄色っぽい砂状で、直径1～2cmの斑点状に固まっている場合やくぼみなどに層厚1～2cmでみられる場合がある。

III層：黒褐色（Hue10YR 2/3）壤土。層厚は40cm前後。IV層との層界は判然である。矢不來8遺跡では縄文時代中期から晩期、矢不來10遺跡では縄文時代早期から後期、矢不來11遺跡では縄文時代の遺物包含層である。

IV層：暗褐色（Hue10YR 3/4）壤土。漸移層である。層厚は10～20cm前後。V層との層界は判然である。矢不來10遺跡では縄文時代早期の遺物を稀に含んでいる。

V層：褐色（Hue10YR 4/6）壤土。ローム層である。層厚は80cm～3m。VI層との層界は判然である。円礫が混じる。

※VI層：灰黄色（Hue2.5Y 7/2）砂土。礫・砂礫層である。層厚は1m以上。直径5～10cmの扁平な亜円礫が堆積しており、隙間には砂が50%程度の割合で混在している。隣接工事現場での観察から、地質年代の第四紀更新世の堆積物と考えられる。矢不來10遺跡のTP-1において観察できた。（佐藤）



図II-5 矢不來8遺跡・矢不來10遺跡・矢不來11遺跡 土層断面図

## 5. 土層の区分

### (2) 矢不來9遺跡

平成20年度の発掘区では前回調査においてⅢ層とした遺物包含層が土色によって分層が可能のため、Ⅲa層、Ⅲb層と区分した。基本層序は下記の区分を用いた。

I層：表土。杉の植林が行われており、攪乱を受けている。近世以降の陶磁器片や播鉢の破片、函館戦争時の銃弾などが出土した。

II層：にぶい褐色土(7.5YR5/4)と黒色土(7.5YR1.7/1)の斑状。土性は砂壤土、粘性は弱～中、堅密度はしょうである。層厚10cm前後で層界は明瞭である。この層の下位で、点線状に灰白色を呈したKo-dが見られる。

また、H-3とした竪穴住居跡の落ち込みの中には厚く堆積したKo-d火山灰と、その下位に噴出起源不明の暗赤褐色火山灰(砂質火山灰)を検出した。

II'層：橙色土(7.5YR6/8)～にぶい橙色土(7.5YR5/4)土性は砂土～砂壤土で層厚10cm前後。粘性は弱～中で堅密度は軟である。B-Tmの二次堆積層。この下位にあるⅢa層を含む二次堆積であるため、縄文時代後期前葉の土器片や当該時期と考えられる石器等が散漫に出土する。層界は明瞭である。

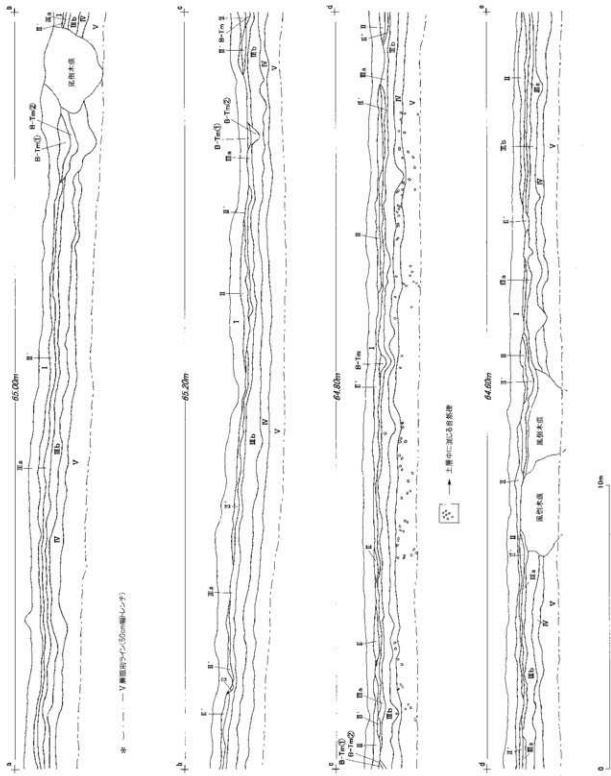
H-3竪穴住居跡の落ち込みの中にはB-Tmが厚く堆積し、色調の違いにより3層に区分した。灰褐色を呈する上位をB-Tm①、にぶい黄褐色を呈する中位をB-Tm②、明黄褐色を呈する下位③に分けた。

Ⅲa層：黒褐色土(7.5YR3/2～7.5YR2/2)土性は壤土、粘性は中、堅密度はやや堅、層厚10～15cm。縄文時代後期前葉の包含層。層界は明瞭である。

Ⅲb層：黒色土(7.5YR1.7/1)土性は埴壤土、粘性は中～強、堅密度はやや堅、層厚30cm前後。縄文時代中期前半の遺物包含層。層界は明瞭である。

IV層：黒褐色(7.5YR3/4)～褐色土(7.5YR4/4)土性は埴壤土、粘性は中～強、堅密度は堅、層厚20cm前後、層界は明瞭である。

V層：層橙色土(7.5YR6/8)土性は埴土、粘性は強、堅密度は堅。小円礫が混在する部分がある。(袖岡)



図II-6 矢不來9連跡 土層断面図(1)





## Ⅲ章 矢不來8遺跡

### 概要

平成19年度の調査では、遺構は土坑1基、焼土2ヵ所、土器の集中4ヵ所を検出した。縄文時代晩期前葉の時期のものが多く、次いで縄文時代中期前半と後期前葉の時期のものである。包含層での遺物の出土状況も同様である。いずれも前回までの調査と同様の傾向を示している。遺物は遺構・包含層合わせて877点が出土した。

### 1. 遺構とその出土遺物

#### (1) 土坑

##### P-11 (図Ⅲ-2 図版2)

位置・立地：H・I-46 平成20年度調査区北東側

確認・調査：Ⅲ層上位を調査中に暗褐色土の落ち込みを検出した。上面には土器片の集中がみられた。平成18年度調査区との境界部分であったため、平面形は一部のみを検出である。残りの形状から、方形基調と考える。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がったあとオーバーハングするフラスコ状である。周辺ではCP-4があり、関連する可能性がある。

覆土：2・3層はしまりがあることから、埋め戻しの可能性がある。

遺物出土状況：1層上面を中心に土器片(1)がまとまって出土した。

時期：出土土器から縄文時代晩期前葉と考える。

#### (2) 焼土

##### F-6 (図Ⅲ-2 図版2)

位置・立地：E-41 平成20年度調査区北東側

確認・調査：Ⅲ層上位を調査中に焼土を検出した。焼成部分の検出状況から、その場で焚かれた焼土である。

覆土：下限が漸移的な焼成部分を検出した。

遺物出土状況：近接して礫が1点出土した。

時期：検出状況と周辺の出土遺物から縄文時代晩期前葉の可能性はある。

##### F-7 (図Ⅲ-2 図版2)

位置・立地：D-43 平成20年度調査区北東側

確認・調査：Ⅲ層中位を調査中に焼土を検出した。覆土の状況から、廃棄された焼土である。

覆土：焼土粒と炭化物粒を含み、下限は判然としている。

遺物出土状況：出土しなかった。

時期：検出状況と周辺の出土遺物から縄文時代中期前半または後期前葉の可能性はある。

#### (3) 土器の集中

##### CP-2 (図Ⅲ-3 図版2・3)

位置・立地：F-39・40 平成20年度調査区北東側

確認・調査：Ⅲ層上位を調査中に土器片の集中を検出した。

遺物出土状況：一団(1)がつぶれた状態で出土した。

## 1. (1)～(4) 遺構とその出土遺物

時期：出土土器から縄文時代晩期前葉と考える。

### CP-3 (図Ⅲ-4 図版3)

位置・立地：G-42 平成20年度調査区北東側

確認・調査：Ⅲ層上位を調査中に土器片の集中を検出した。

遺物出土状況：比較的大きめの底部破片(1)が見つれた状況で出土した。

時期：出土土器から縄文時代晩期前葉と考える。

### CP-4 (図Ⅲ-3・4 図版3)

位置・立地：H-46 平成20年度調査区北東側

確認・調査：Ⅲ層上位を調査中に土器片の集中を4ヶ所検出した。

遺物出土状況：4ヶ所とも比較的大きめの破片(1～3)が見つれた状況で出土した。

時期：出土土器から縄文時代晩期前葉と考える。

### CP-5 (図Ⅲ-3・4 図版3)

位置・立地：E-42 平成20年度調査区中央

確認・調査：風倒木中のⅢ層中位相当を調査中に土器片の集中を検出した。

遺物出土状況：比較的大きめの破片(1)が見つれた状況で出土した。

時期：出土土器から縄文時代中期前半と考える。

(佐藤)

## (4) 遺構出土の遺物

### P-11 (図Ⅲ-2-1 図版3)

1は口縁部破片。縄文地に沈線と刻みが施されている。

### CP-2 (図Ⅲ-3-1 図版3)

1は鉢形のもの。縄文地に篋状工具により文様が施されている。

### CP-3 (図Ⅲ-4-CP-3 1 図版3)

1は深鉢形のもの。底部は平らである。

### CP-4 (図Ⅲ-4-CP-4 1～3 図版3)

1は波状口縁とみられる鉢形のもの。竹管状工具により沈線と、斜位に刺突が施されている。口唇には斜めに刻みが施されている。底部は上げ底で、底部から胴部に立ち上がる境目には口縁と同様の刺突が施されている。2は深鉢形のもの。口縁部には篋状工具により、2本の沈線に区画されたあいだに刻みが施されている。口唇には斜めに刻みが施されている。底部は上げ底になっている。3は深鉢形のものと思われる胴部破片。

### CP-5 (図Ⅲ-4-CP-5 1 図版3)

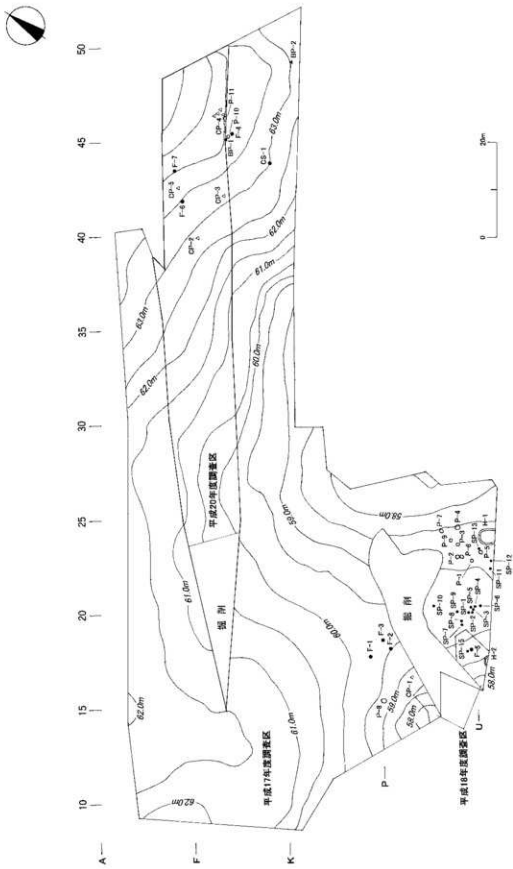
1は深鉢形のもの。口唇には縄による刻みが施されている。

## 2. 包含層出土の遺物

包含層から出土した遺物は442点である。内訳は土器334点、剥片石器等64点、磨製石斧6点、礫石器等9点、礫・礫片29点である。土器ではⅢ群a類12点、V群255点である。いずれも調査区の北～北東に偏りが見られる。

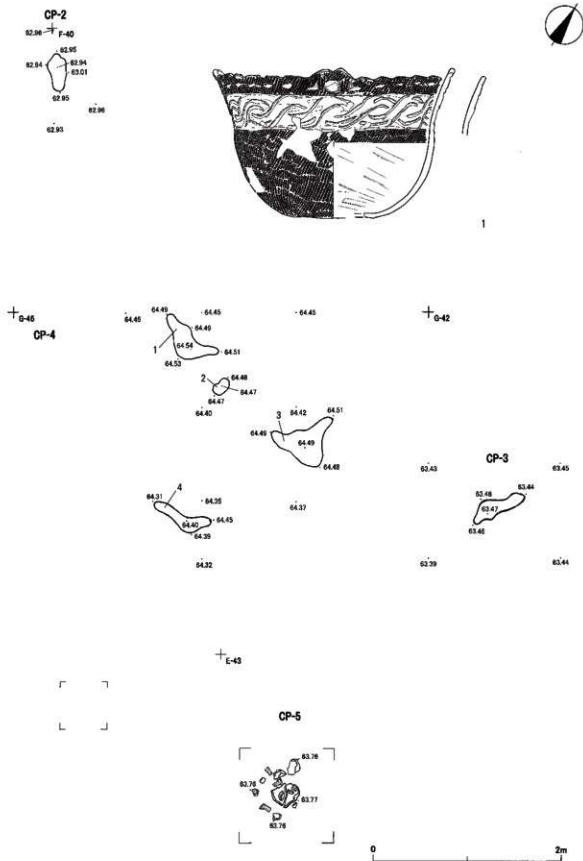
### (1) 土器 (図Ⅲ-5 1～8 図版4)

8点図示した。1はⅢ群a類。口縁は肥厚し、口唇上には粘土紐の貼付がされている。2～4はⅣ群



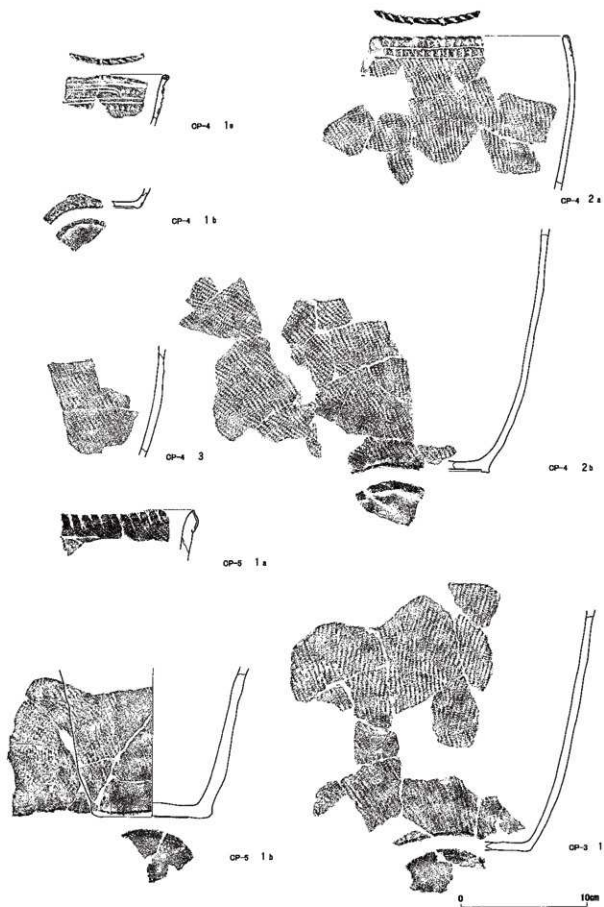
図III-1 矢不來8遺跡 遺構位置図



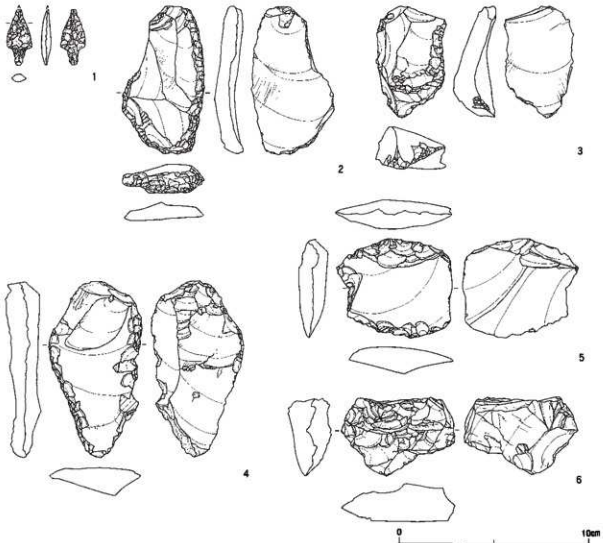
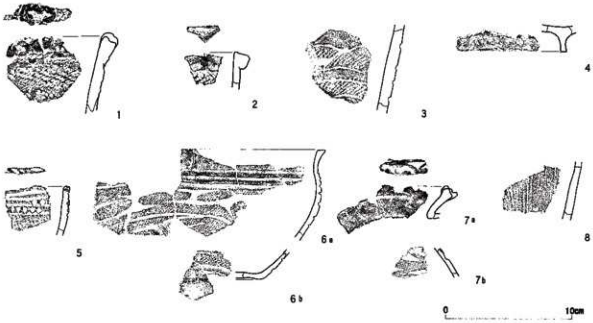


図III-3 CP-2とその遺物 CP-3・4・5

1. (4) 遺構とその出土遺物



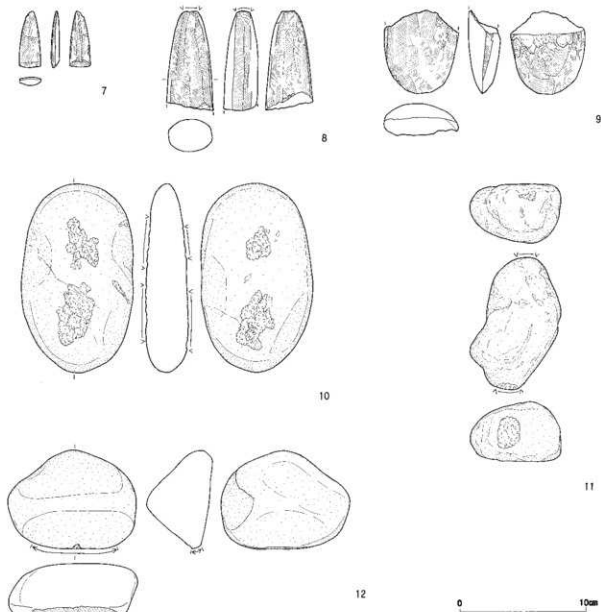
図III-4 CP-3・4・5の出土遺物



図III-5 包含層出土の遺物(1)



2. 包含層出土の遺物

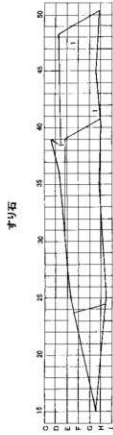
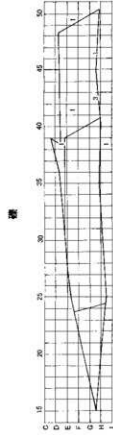
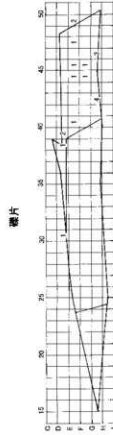
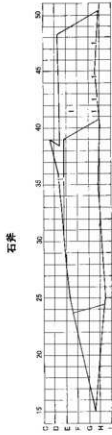
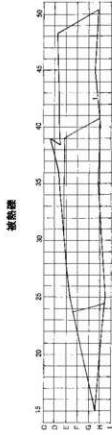
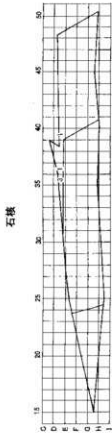
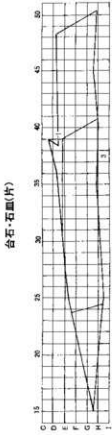


図Ⅲ-6 包含層出土の遺物②

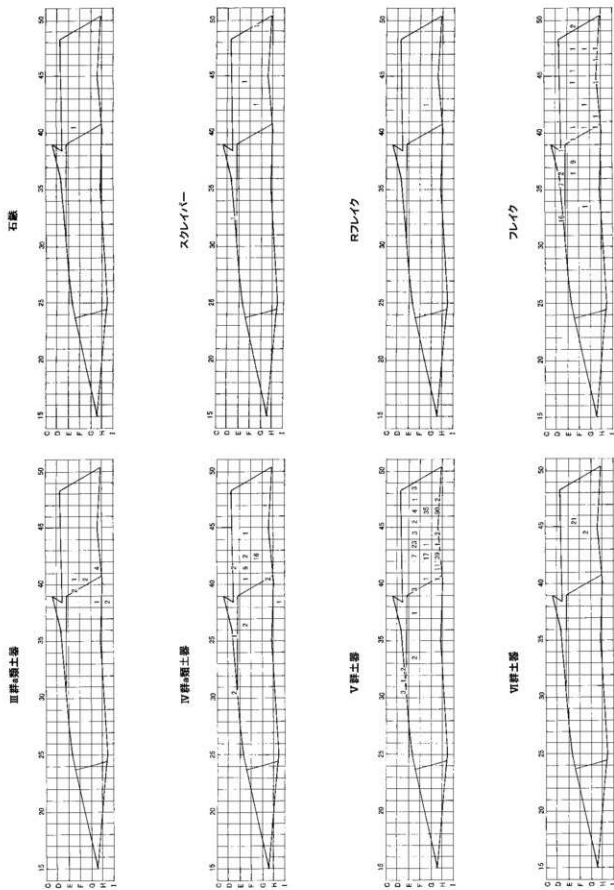
a類のもの。3は縄文を弧状の沈線で区画し、磨り消しにより無文にされている。5～7までV群土器。8はVI群で深鉢形土器の胴部破片。器面に縄縄文が施されている。

(2) 石器(図Ⅲ-5 1～6 図Ⅲ-6 図版4)

剥片石器は6点、磨製石器は3点、礫石器は3点図示した。1は有茎鏃。2～5はスクレイパー。2・3は剥片の背面左側縁～下端にかけ調整が施され刃部になっている。側縁の調整は平坦、下端で急になる。4・5の掲載は調整が施されている腹面からの実測図とした。4は剥片の腹面両側縁に平坦な調整を施し刃部としている。5は腹面上・下端と左側縁に調整が施されている。6は石核。1～5まで頁岩製のもの、6はメノウである。7～9まで石斧。7は泥岩製で小形のもの。8・9は閃緑岩の石斧。10、11はたたき石。10は安山岩で扁平な礫の両面に敲き痕がある。11はメノウで縦長の礫の一端に敲き痕がみられる。12はすり石。断面が三角形になる礫の一辺に擦り面をもつ。砂岩(袖岡)



図III-7 矢不來8遺跡 遺物の分布(1)



図III-8 矢不來8遺跡 遺物の分布(2)

## IV章 矢不來9遺跡

### 概要

矢不來9遺跡は矢不來8遺跡と矢不來10遺跡の中間にあり、この3遺跡は海岸段丘を沢により開析されている。遺跡の地形は西側の沢に面し張り出す平坦面と、沢状地形を挟み南東側に向かう斜面とに分けられる。東側の平坦面の一部と斜面は平成19年度に調査・報告されている。今回報告する範囲は19年度調査区の西側、平坦面及び斜面部の標高が高いところである。遺物の総点数は15,718点である。

検出した遺構は、近世以降の平地式住居跡としてH-4がある。中央には炉があり、柱穴からは銅製のキセルの吸い口、陶磁器片が出土している。検出した陶磁器は掲載していないが幕末から明治期のもともみられ、柱穴は駒ヶ岳d火山灰（1640年降灰）火山灰を掘り込み構築されている。当該時期の遺物はI層から陶磁器片、鏝片、函館戦争に用いられた銃弾が検出されている。

縄文時代の遺構は住居跡3軒、土坑7基、焼土29ヶ所、集石1ヶ所が検出されている。検出遺構の時期は大きく分けて縄文時代中期前半と縄文時代後期前葉に属する。H-3、H-5が立地する西側の沢に面するところでは縄文時代中期の遺構、遺物が検出されている。遺構はいずれも構築面はⅢb層中で、H-3掘り上げ土の下が構築面のももある。H-3の地床炉（HF-3）から出土した炭化物で放射性炭素年代測定を行なったところ、 $4,460 \pm 30$ yrBPという結果が得られ、床面から出土した遺物と年代観は一致する。縄文時代後期前葉の遺構・遺物はⅡ'層上面で確認できる微弱な沢地形とその東～北側に多く検出した。H-6は掘り込みが浅かったと考えられる。この住居跡の地床炉（HF-1）から検出した炭化物で放射性炭素年代測定を行なったところ $3,610 \pm 30$ yrBPという測定結果が得られ、調査で判断した時期と一致した。概時期の土坑はⅢa層が構築面と判断する。縄文時代後期前葉と判断する焼土は、Ⅲb層上面に土色の変化が見られるものが多く、なかにはⅣ層にまで達しているものもある。Ⅲa層で焼成を受けⅢb層上面が酸化し変化しているということである。なお、平成19年度に確認された遺物集中IについてはII章（4）矢不來9遺跡調査の方法で述べたとおり、その範囲が西側に続く遺構ではない。19年度調査範囲の沢状地形で低くなっていた狭い範囲で縄文時代後期前葉、トリサキ式相当、大津式相当、白坂3式相当の土器が、二次的な堆積によって検出されたところである。今回調査範囲の遺物のまとまりは図IV-2に示したとおりである。土器の検出状況と復元・接合したものやその周辺遺物については図IV-43～53に示した。

### 1. 遺構とその出土遺物

#### (1) 住居跡

H-3（図IV-4～12 図版6～9、21・22）

位置・立地：G・H-2・3・4 調査区南西側、西側の沢に向かい張り出す台地の標高65m前後で平坦な面

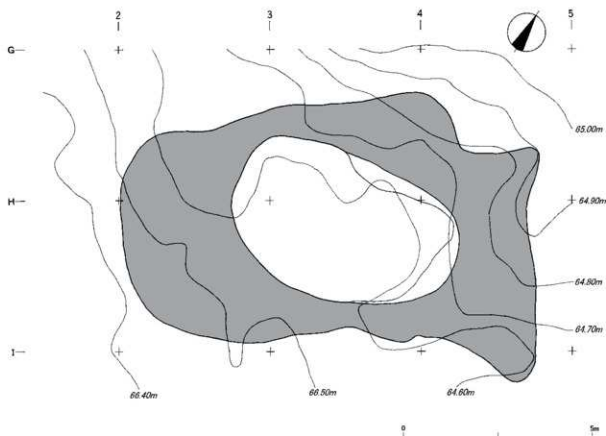
確認・調査：重機による表土除去により、大きなくぼみと、その縁辺にマウンド状の高まりを持つ暗褐色土の広がりを検出し、堅穴住居とその掘り上げ土であることを想定した。測量杭の打設、人力による表土除去後に地形測量を行い、検出した掘り上げ土の範囲を記録した（図IV-3）。

測量等により遺構の規模を想定し土層観察のためのベルトを設定、ベルト沿いに幅30cm程度のトレンチ調査を行った。その結果、平坦な床面と急で明瞭に立ち上がる壁を検出し堅穴住居と認定した。





## 1. (1) 住居跡



図Ⅳ-3 II'層上面の地形とH-3掘り上げ土

これにより覆土の堆積状況と上場、下場の範囲を概ね把握し、ベルトを残した状態で覆土全体を掘り下げていき、床・壁を検出。土層断面の記録を行い、ベルトを掘り下げ、床面の精査、付属遺構の調査を行った。

**覆土**：B-Tmより上位は大きなくぼみにより噴出起源不明のテフラや駒ヶ岳火山灰が厚く層界明瞭で検出した。これより下位は自然埋没による覆土である。

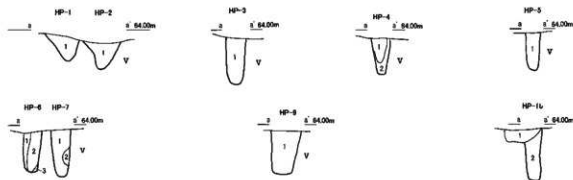
**構造**：構築面はⅢb層中である。平面形は角の丸い長方形である。床面は平坦、壁の立ち上がりは明瞭である。

**付属遺構**：床面の中央を15cm程度皿状に掘り込み、粘土を貼り付け、炬を構築したと見られる焼土(HF-3)を検出した。半載したところ、皿状になる中心部は粘土層が板状になっており、熱を受けたことによって堅くなっていたと考えられる。焼土の周縁には露出した粘土が破碎した状況で検出された。ここから出土した炭化物で放射性炭素年代測定を行なったところ、 $4,460 \pm 30$ yrBPという結果が得られた。また、この窪穴住居の長軸方向の両端にあたる場所では、床面が被熱し赤褐色化したところ(HF-1)と、床面の炭化物集中(HCB-1①、②・HCB-2)を検出した。HCB-1①から出土した炭化物で放射性炭素年代測定を行なったところ、 $4,330 \pm 30$ yrBPという結果が得られた。床面焼土と炭化物の結果は130年の差があったが、床面の遺物と放射性炭素年代測定の年代観はほぼ一致するものとする。HF-2としたところはHF-3の直上で覆土中の焼土と誤認したもので、欠番とした。柱穴状の付属遺構は10ヶ所確認した。HP-1・2を除き、長さは50cm前後、先端は丸みを帯びるものや平坦なものである。角の丸い長方形の平面形に則し4角の内側に位置するようにみ

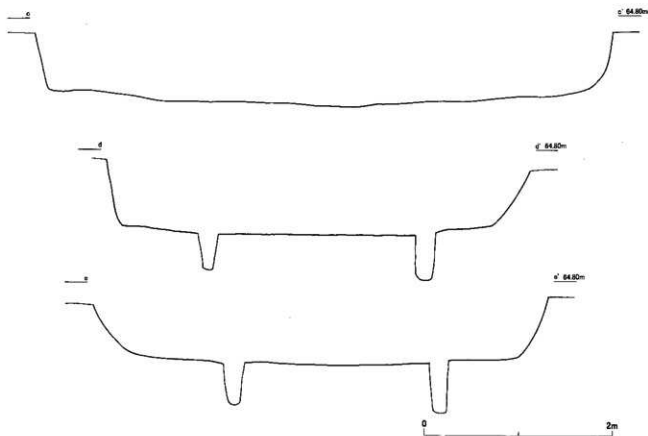






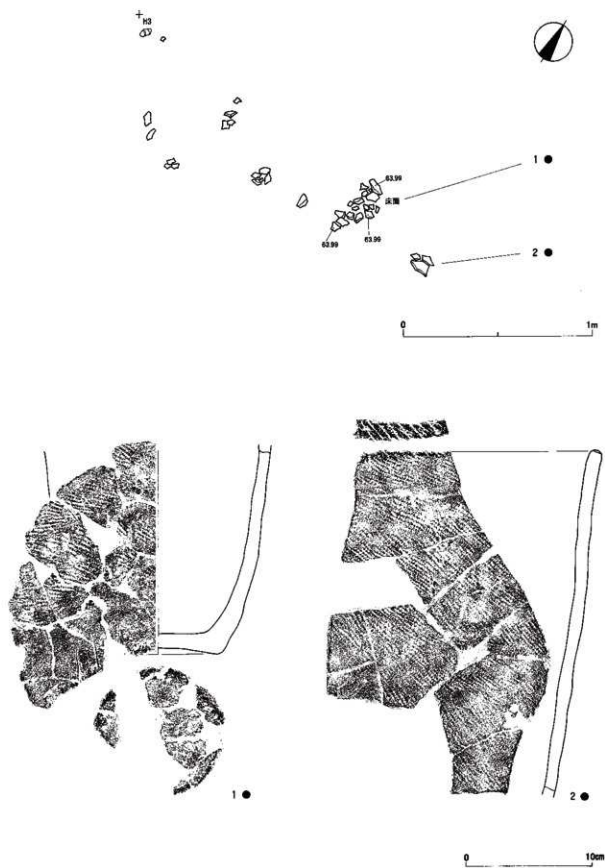


調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区
HP-1	HP-2	HP-3	HP-4	HP-5	HP-6	HP-7	HP-8	HP-9	HP-1b
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2					2	3			2
3					3				3
4					4				4
5					5				5
6					6				6
7					7				7
8					8				8
9					9				9
10					10				10
11					11				11
12					12				12
13					13				13
14					14				14
15					15				15
16					16				16
17					17				17
18					18				18
19					19				19
20					20				20
21					21				21
22					22				22
23					23				23
24					24				24
25					25				25
26					26				26
27					27				27
28					28				28
29					29				29
30					30				30
31					31				31
32					32				32
33					33				33
34					34				34
35					35				35
36					36				36
37					37				37
38					38				38
39					39				39
40					40				40
41					41				41
42					42				42
43					43				43
44					44				44
45					45				45
46					46				46
47					47				47
48					48				48
49					49				49
50					50				50

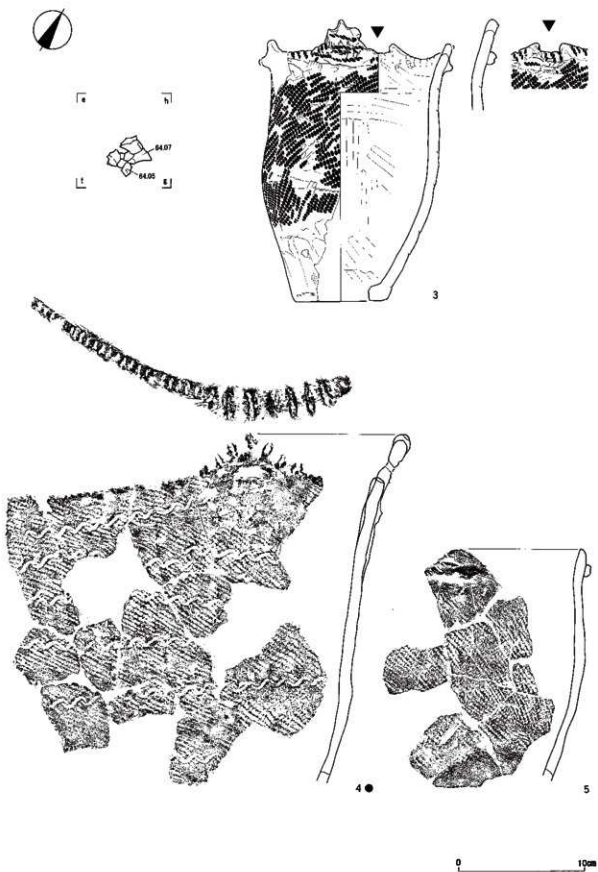


図IV-6 H-3(3)

1. (1) 住居跡

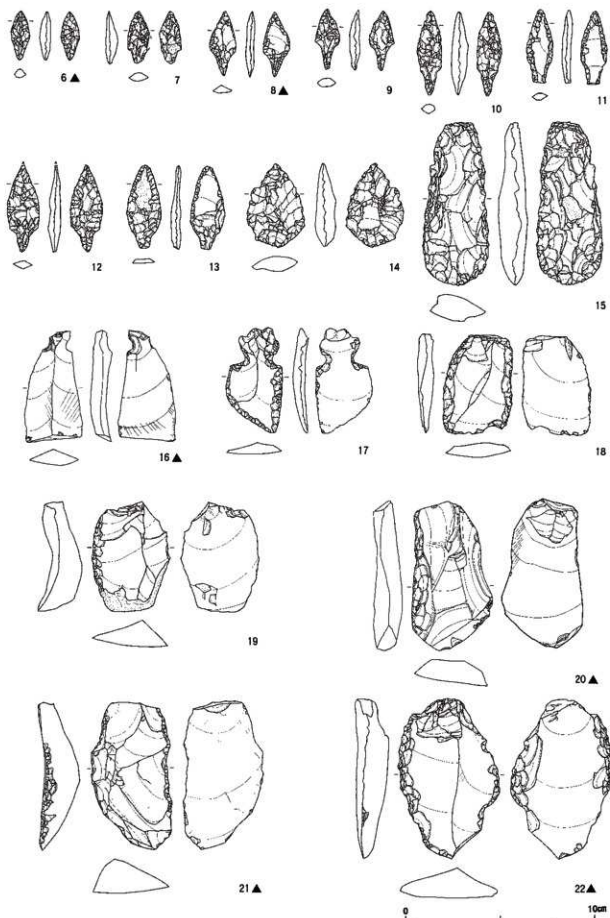


圖IV-7 H-3(4)

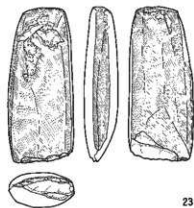


圖IV-8 H-3(5)

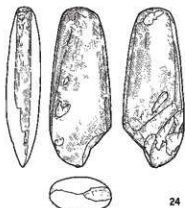
1. (1) 住居跡



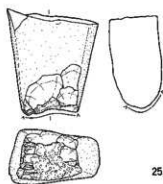
圖IV-9 H-3(6)



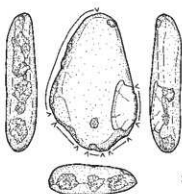
23



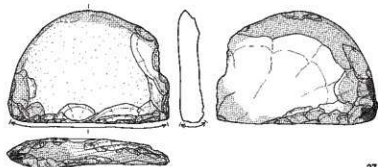
24



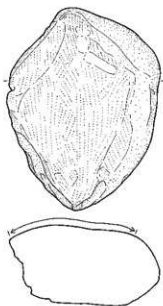
25



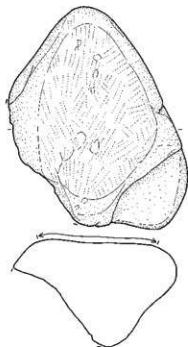
26



27



28 ■

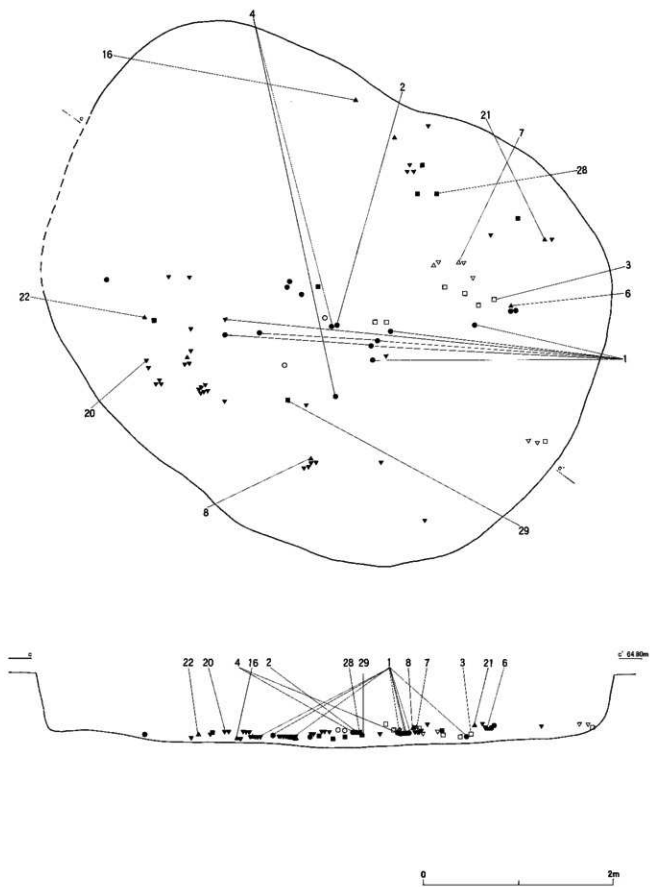


29 ■

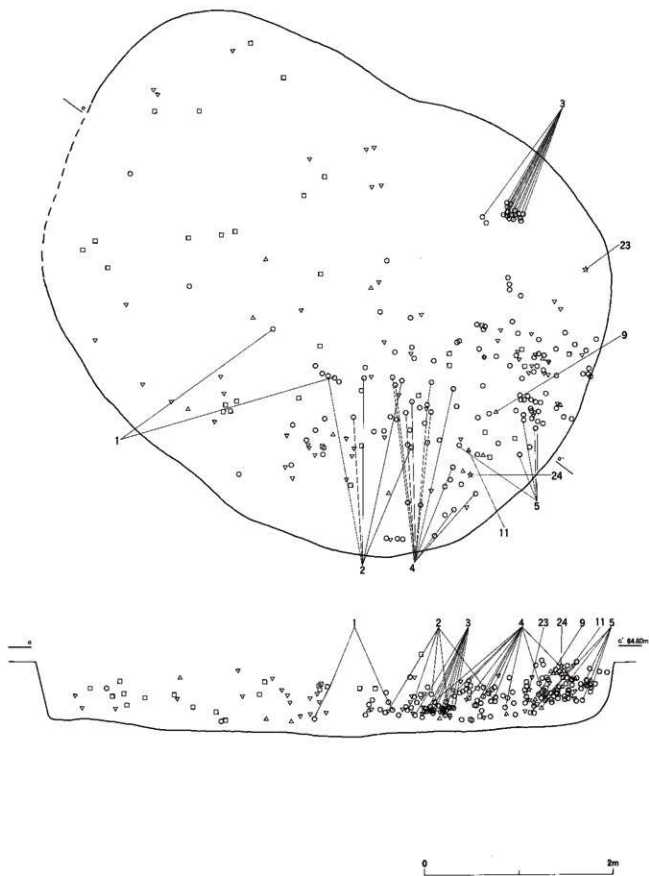
0 10cm

圖IV-10 H-3(7)

1. (I) 住居跡



圖IV-11 H-3(8)



圖IV-12 H-3(9)



## 1. (I) 住居跡

られる。

遺物出土状況：911点の遺物が出土している（表Ⅳ-2）。床面からサイベ沢Ⅶ式～見晴町式相当（図Ⅳ-7）の土器が出土した。また、頁岩製のスクレイパー（図Ⅳ-9-20～22）や、平滑な擦り面を持つ台石（図Ⅳ-10-28・29）が出土している。覆土中の遺物は長軸方向の東側に多く検出されている。

掲載遺物：1～5までⅢ群a類とした。サイベ沢Ⅶ～見晴町式相当である可能性がある。1は深鉢形で胴部から底部にかけてわずかに膨らみ、上げ底気味になっている。斜行縄文で底部付近はナデにより無文となっている。2は口縁～胴部にかけての破片で、あまり開かず屈曲のない器形と考えられる。口唇には縄による刻みが斜位に施されている。3は四波状になる口縁の1ヶ所に突起があるもの。実測図正面とした面の突起には捻糸の圧痕が2条施されている。この突起に対向する波状部には凹みに捻糸の刻みが施されている。ほか2ヶ所の波状部は凹みで、捻糸の刻みはない。すべての波状部には粘土紐の貼り付けと捻糸の圧痕が1～2条施されている。

4は波状口縁の下に粘付が施されていたが、剥落している。地文には綾絡文が施されている。5は波頂部の下に粘土紐の粘付が施されている。6～22は剥片石器ですべて頁岩製。6～14まで石鏝。6～13まで有茎のもの、14は無茎のもの。15は両面調整石器。16、17はつまみ付きナイフ。16は未成品。剥片の上端に挟入する調整が両面から施されている。18～22までスクレイパー。すべて縦長の剥片側縁に調整が施されているもの。21は左側縁の調整が急角度である。23・24は石斧。23は片岩製、24は泥岩製である。25～29まで礫石器。25・26はたたき石。25は凝灰岩の棒状礫端部、26は砂岩の扁平礫周縁にたたき痕がある。27は扁平打製石器。被熱し、縁辺が褐色化している。凝灰岩製。28・29は台石。礫の平らな面に平滑な擦り面を持つ。28は流紋岩、29は砂岩のもの。

時期：床面の出土遺物と年代測定から得られた結果から縄文時代中期前半、サイベ沢Ⅶ式相当～見晴町式相当にかけての住居跡と判断する。

### H-4（図Ⅳ-13・14 図版10～12・23）

位置・立地：H・I-11・12・13 調査区のはほぼ中央、標高64.4～64.2mの東側に緩く張り出す平坦面

確認・調査：重機による表土除去作業で、明赤褐色土の広がりを検出し、焼土を確認した。遺跡は杉が植林されていたところで、表土の直下から検出したことから、縄文時代より新しい遺構であることを想定した。焼土周辺の精査をおこなったが、この段階では焼土の時期を特定するものは得られなかった。このあと焼土を半截、Ⅲ層が焼成を受けている状況を確認した。この時点でこの焼土はF-23として調査した。この後25%調査で焼土の周辺グリットを掘り下げたところ、V層上面において、攪乱した土が柱穴状に落ち込むところを数ヶ所確認した。この落ち込みの平面形を精査していくとキセルの吸い口を検出した。柱穴状の落ち込みの位置関係を精査しながら見ていくと、焼土（F-23）が中心に位置する、長軸6m、短軸4mになる長方形の掘り立て柱の建物跡である可能性が考えられ、この落ち込みを半截した。調査の結果、中央に炉がある平地式の住居跡であると判断した。

構造：長方形で中央に炉を持つ。

付属遺構：柱穴はP-11を除き、いずれも先端は尖らず、平坦である。

掲載遺物：1はキセルの吸い口。銅製で、実測図の裏面に臘付けの痕跡が見られる。

時期：P-21の覆土上に堆積するKo-d火山灰を掘り込む柱穴（HP-8）と覆土中にキセルが出土したもの（HP-3）、覆土中に陶磁器の破片が検出されたもの（HP-2・4）がある。1,640年以降に構築され、柱穴覆土中の陶磁器片は幕末から明治期のものとみられることから、近世以降に構

築された遺構と判断する。

#### H-5 (図IV-15~19 図版12~14・23・24)

位置・立地：H-7・8 調査区南西側、東に面する緩斜面 標高64.00m付近

確認・調査：H-3からさほど離れていない調査区南西側の東に下る緩斜面で、竪穴住居跡を想定する、緩い落ち込みを検出した。土層観察用のベルトを設定しトレンチ調査を行った。トレンチでは西側に高い部分では壁の立ち上がりが明瞭であったのに対し、東側の低いところでは床と壁の境が不明瞭であった。土層観察用のベルトを残し、竪穴住居跡の平面形を検出するため周辺をIV層まで掘り下げた。これにより平面形を把握、覆土の掘り下げを行ない、床と壁の立ち上がりを検出した。

構 造：構築面はⅢb層中である。長軸が北西～南東、平面がやや不整な楕円形の竪穴住居である。西側の地山が高いところでは掘り込みが明瞭で、壁の立ち上がりは急、床との境がわかりやすいが、東側の低くなるところでは床と壁の境が10cm前後で、西側よりは判然としにくい。

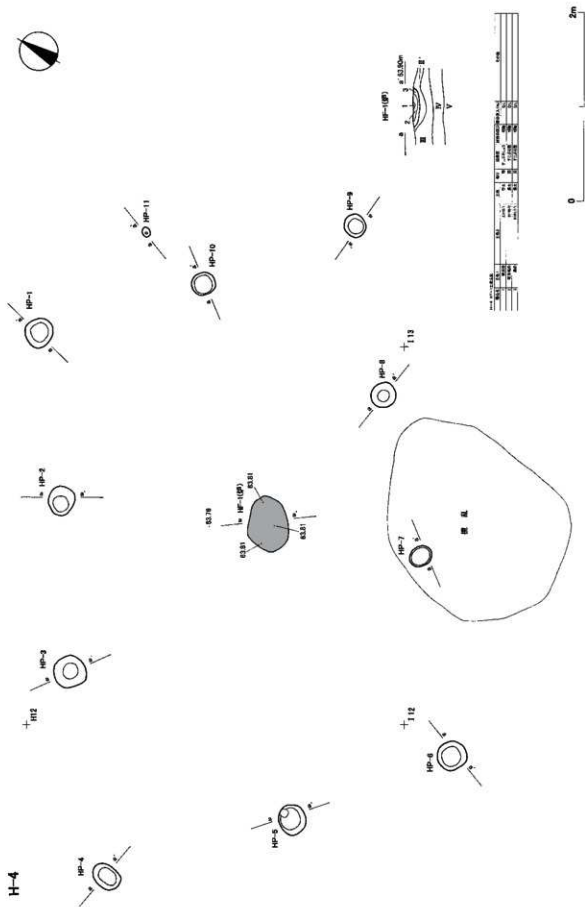
付属遺構：床面の東側には地床炉と考えられるHF-1がある。床面を精査したが柱穴状の土坑は検出されなかった。床面の中央には皿状にくぼむHP-3がある。床面に近いところで炭化物の集中(HCB-1)を検出した。被熱した台石が入っていたHP-5がある。HP-4については、住居の付属遺構として調査を行っていたが、出土した遺物が縄文時代後期前葉のもので、土層を観察したところH-5より新しい遺構と判断したため、P-26としHP-4は欠番とした。

遺物出土状況：222点の遺物が出土している(表IV-2)。床面からサイベⅦ式～見晴町式相当の土器(図IV-15・1~4)が出土した。このほか石鏃、台石が検出されている。HF-1からはすり石と礫片2点が出土している。覆土からは縄文時代後期前葉の土器が出土している。

掲載遺物：1~6まで土器。1~4までⅢ群a類とした、サイベⅦ式～見晴町式相当のもの。1は波状口縁の波頂部に貼付帯が施され、その上に縄による圧痕が1条施されている。2は波頂部が欠損している口縁部。3は深鉢形土器の胴部破片。4は底部破片でやや上げ底気味である。5・6はIV群a類、白坂3式相当のもの。5の口唇上には縄文が施されている。6は深鉢形の胴部で、沈線により縄文と無文が区画されているもの。7~10まで剥片石器で、すべて頁岩製である。7・8は石鏃で、いずれも有茎のもの。9・10はスクレイパー。9は剥片背面の右側縁、腹面両側縁に二次加工が施されている。10は横長剥片の周縁に二次加工が施されている。11~15まで礫石器等である。11・13・14はHF-1からの検出である。11はすり石。扁平な礫に平滑な擦り面を持つ。13は砂岩、14は凝灰岩の礫片。12は砂岩、14は凝灰岩の台石。14は平滑な擦り面と敲き痕がみられる。熱を受け褐色化している。

時 期：床面からサイベⅦ式～見晴町式相当の土器(図IV-15・1~4)が出土していることから縄文時代中期前半、サイベⅦ式～見晴町式相当の住居跡と判断する。

1. (1) 住居跡



図IV-13 H-4(1)



## 1. (I) 住居跡

### H-6 (図IV-20~24 図版15・24・25)

位置・立地：H・I-10・11 調査区中央よりやや南側、標高64.60m前後の東側に緩く張り出す平坦面

確認・調査：包含層調査を行っていたところ、縄文時代後期前葉の土器片が集中的に出土するところと、漸移層であるIV層近くから焼土を検出、その周辺においても縄文時代後期前葉の遺物が多く出土することから、掘り込みの不明瞭な住居跡が存在することを想定した。今回の調査区では包含層から縄文時代後期前葉の土器が出土するのはⅢa層からで、Ⅲb層下位～漸移層であるIV層からは出土しない。遺物が多く出土するグリットラインに土層観察用のベルトを設定、掘り下げと遺物の点取りを行なった。調査の結果、Ⅲ層を浅く掘り込んでいると思われる住居跡と判断した。土層観察と遺物の出土した範囲の西側に地床炉と考えられるHF-1がある。この焼土中から検出した炭化物で放射性炭素年代測定を行なったところ、 $3,610 \pm 30$  yrBPという測定結果が得られた。この結果はHF-1周辺遺物の年代観とほぼ一致すると判断する。

遺物出土状況：412点出土している(表IV-2)。床面と断定できる遺物はないが、HF-1の周辺から縄文時代後期前葉の土器が多く出土しており、復元個体や接合資料が得られている。

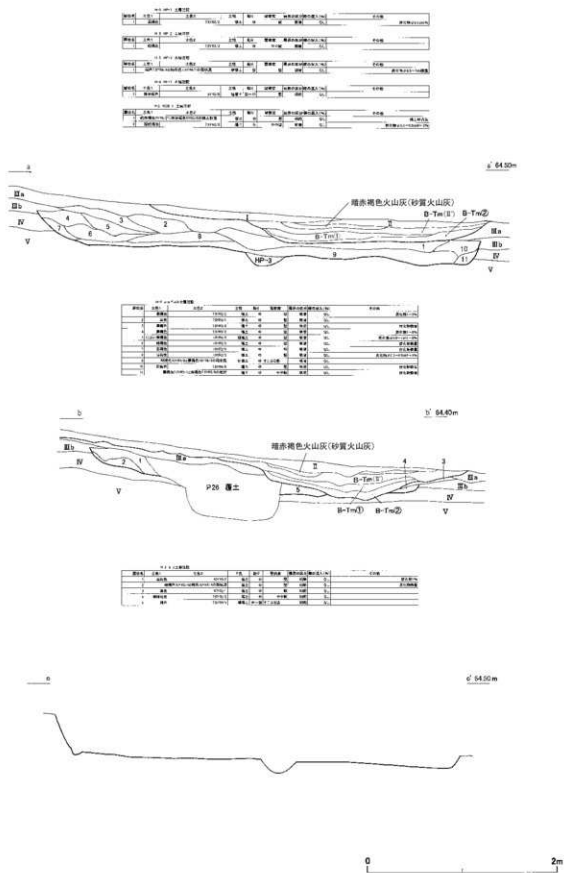
掲載遺物：1～8までIV群a類土器。1は底部を欠くが復元したもの。白坂3式相当である。口唇に縄文を持つが、外反する口頸部は無文である。胴部は横走する沈線により区画し、頸部～胴部の張り出しまで縄文地に縦位の鋸歯状沈線が施され、その下位に無文帯を挟み乙字状沈線が施されている。

2・3は小形の深鉢形のもの。2は縄文地に沈線で文様が施されたものと考えられるが、表面の摩滅により地文は不明瞭である。3は沈線により縄文と無文を区画しているもの。4は口縁が無文で外反する深鉢形の破片。口唇は無文で角形である。頸部を沈線で区切り、胴部は縄文地に沈線が施されている。5は波状口縁の頂部に竹管状工具により刺突が施されている。磨消縄文により施文されている。6は口縁が外反しない深鉢形のもの。口唇は無文で角形にされている。胴部は縄文地に沈線が施されている。7は無文の底部。8は縄文地に弧状の沈線が施されている。9は土製品。粘土を扁平な長方形にしているもの。10は石鏝。有茎で石材はメノウである。11・12は石斧。11は砂岩のもので、上端に敲打痕がみられる。12は泥岩製で、上端と刃部が折れた跡に敲打痕がみられる。13・14は台石。平らな面に平滑な擦り面がみられる。共に凝灰岩のもの。

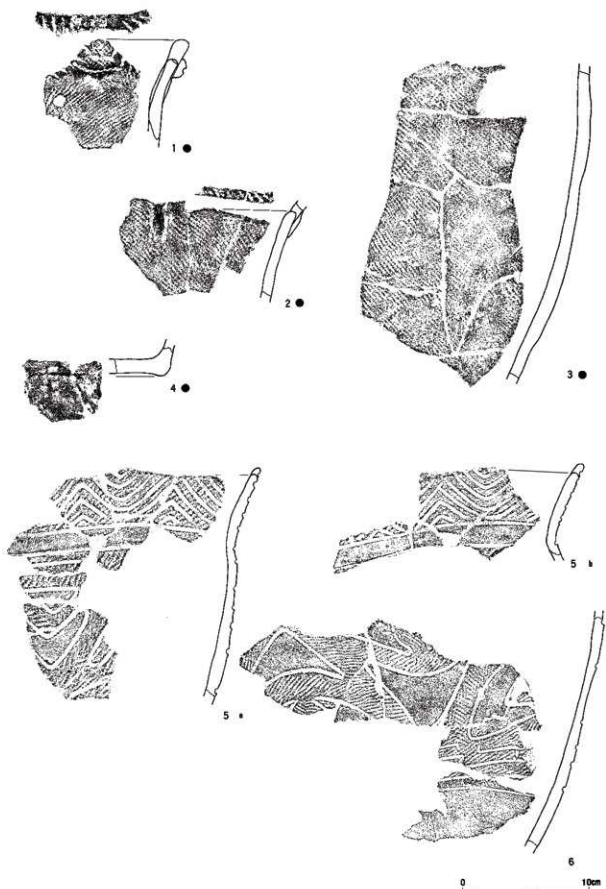
時期：HF-1周辺の遺物と、放射性炭素の年代測定結果から縄文時代後期前葉の遺構と判断する。



1. (1) 住居跡



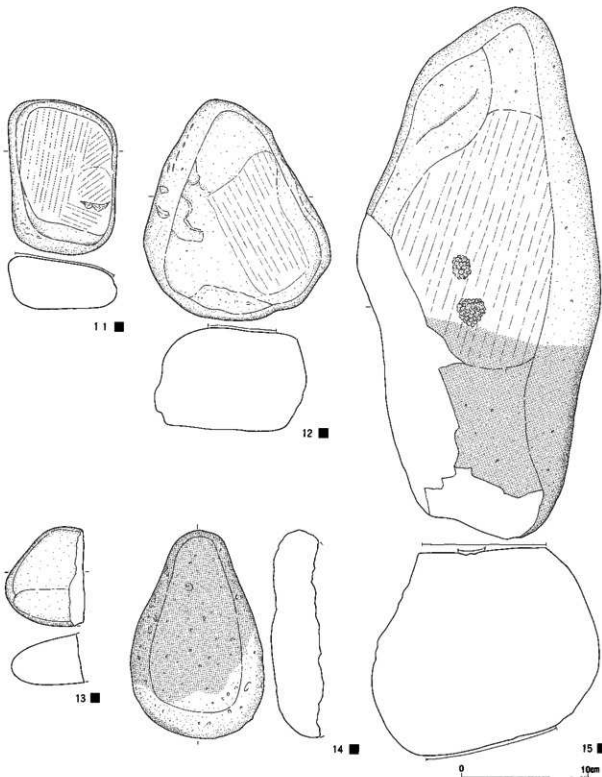
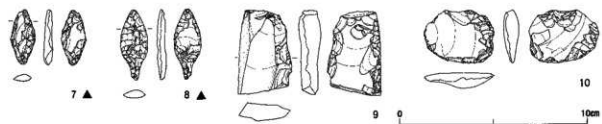
図IV-16 H-5(2)



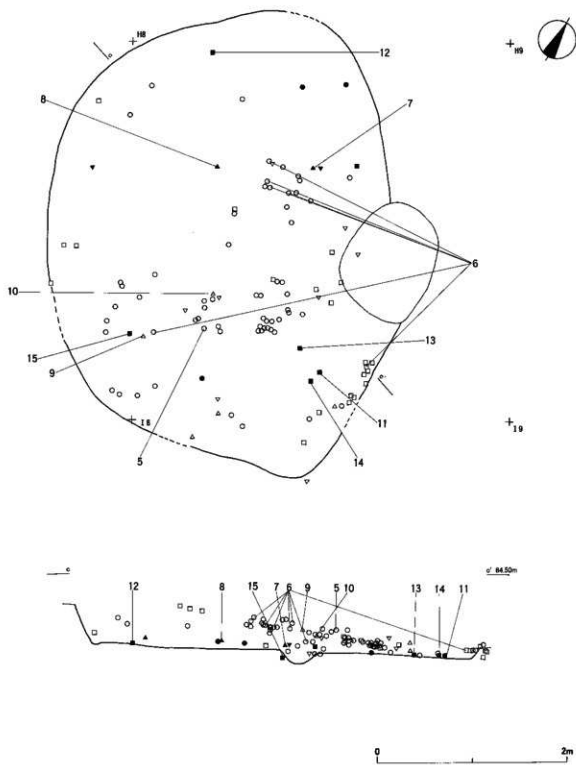
圖IV-17 H-5(3)



1. (1) 住居跡



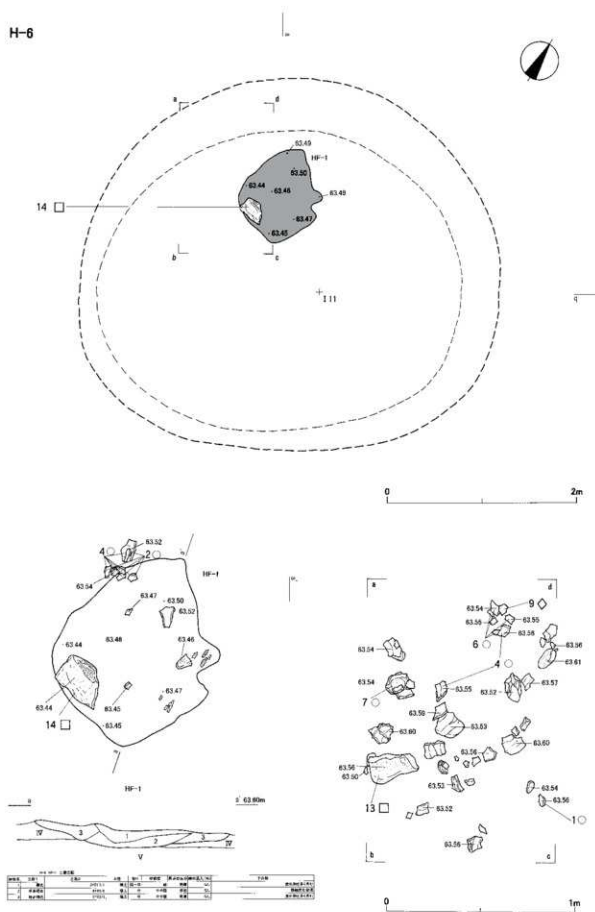
圖IV-18 H-5(4)



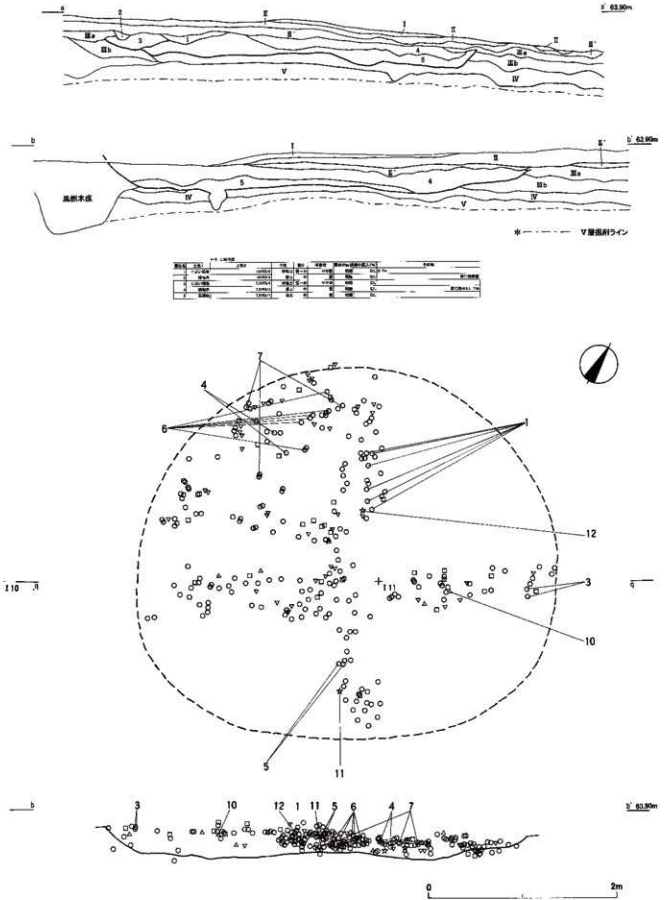
圖IV-19 H-5(5)

1. (1) 住居跡

H-6

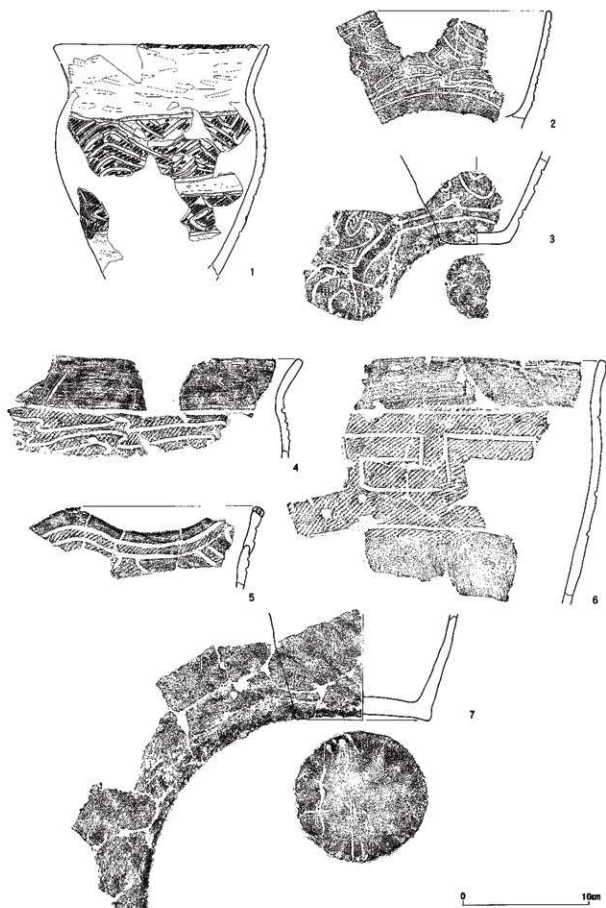


図IV-20 H-6(1)

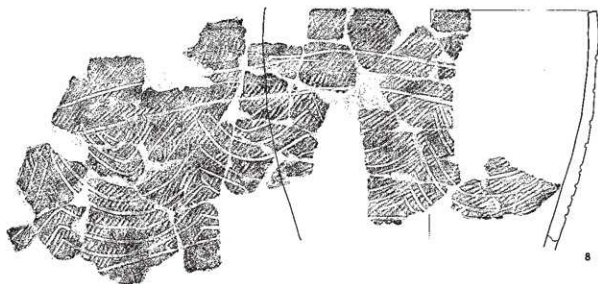


図IV-21 H-6(2)

1. (1) 住居跡



圖IV-22 H-6(3)



図IV-23 H-6(4)

## (2) 土坑

## P-21 (図IV-25 図版16・26)

位置・立地：H・1-12・13 調査区のほぼ中央、東に下る緩斜面 標高63.70m付近

確認・調査：重機による表土除去後、人力でⅡ'層の精査を行っていたところ、黒色土とKo-d火山灰の落ち込みを検出した。その規模から土坑であることが想定されたため、半截を行なったところ、土坑であることを確認した。

覆土：自然埋没によるものである。この土坑の覆土を掘り込み近世以降に構築されたH-4平地式住居跡の柱穴HP-8が観察できた。

遺物出土状況：覆土中から38点(表IV-2)が散漫に出土した。

掲載遺物：1はスクレイパー。原石面が残る剥片の下端に二次加工が施されているもの。頁岩製。

時期：Ⅲb層を掘り込んでいることと、縄文時代後期の遺物が覆土とその周辺から多く出土することから縄文時代後期前葉の土坑と考えられる。

## P-22 (図IV-25 図版16・26)

位置・立地：I-8 調査区南東側、東に面する緩斜面 標高63.70m付近

確認・調査：包含層調査で掘り下げ、残った包含層の土層断面観察により土坑を検出した。構築面はⅢa層中である。

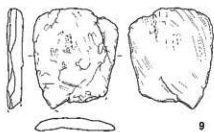
覆土：自然埋没によるものである。

遺物出土状況：覆土中から7点(表IV-2)出土した。

掲載遺物：1・2はIV群a類土器。1は無文地に沈線が施されているもの。2は深鉢形の底部。無文である。

時期：土坑の構築面と覆土中の出土遺物、周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉と判断する。

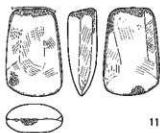
1. (I) 住居跡



9



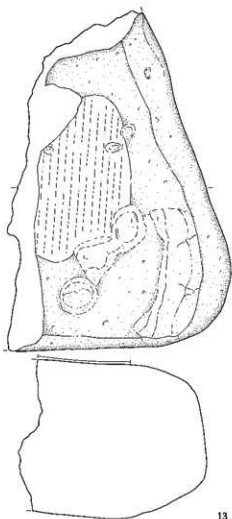
10



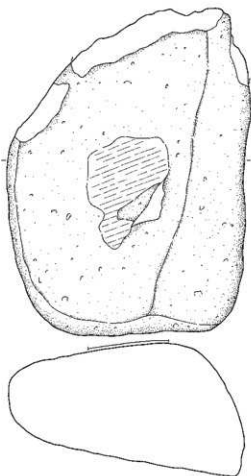
11



12



13



14



圖IV-24 H-6(5)

## P-23 (図IV-26 図版16・26)

位置・立地：H-9 調査区南東側、東に面する緩斜面 標高63.50m付近

確認・調査：包含層調査でV層上面まで掘り下げたところ、黒褐色土の落ち込みを確認した。半載したところ平坦な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを確認し土坑と認定した。

覆土：先に調査を行ったP-23と近似している。自然埋没によるものである。

遺物出土状況：覆土中からIV群a類土器が2点出土した。

時期：P-23と規模、覆土が近似していることと周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉と判断する。

## P-24 (図IV-26 図版16)

位置・立地：G・H-9 調査区南東側、東に面する緩斜面 標高64.10m付近

確認・調査：包含層調査で掘り下げ、残った包含層の土層断面観察により土坑を検出した。構築面はⅢa層中である。

覆土：自然埋没によるものである。

遺物出土状況：覆土中から11点(表IV-1)出土した。

掲載・遺物：1～3までIV群a類土器。1は縄文地に沈線、2は口唇上も無文の口縁部破片、3は無文の底部。

時期：先行し調査を行ったP-22・23と規模、覆土の堆積状況が近似していることと、土坑の構築面と覆土中の出土遺物、周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉と判断する。

## P-25 (図IV-26 図版16)

位置・立地：I-1・2 調査区西端、沢に面して張り出す平坦面の際 標高64.10m付近

確認・調査：包含層調査で掘り下げを行っていたところ、黒褐色土の落ち込みを確認した。土層観察用のベルトを設定し半載を行なったところ平坦な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。

覆土：H-3掘り上げ土と判断する暗褐色土の下位Ⅲb層から掘り込まれている。覆土は自然埋没によるものと判断する。

遺物出土状況：覆土中から10点(表IV-2)出土した。

掲載遺物：1・2はⅢ群a類土器。1は羽状縄文が施されている。2は底部付近がくびれている。3はスクレイパー。剥片の背面左側縁に調整が施されている。頁岩製。

時期：H-3掘り上げ土と判断する暗褐色土の下、Ⅲb層を掘り込んでいる。覆土中からⅢ群a類土器が出土したことから縄文時代中期前半の土坑と判断する。

## P-26 (図IV-27 図版17・26)

位置・立地：H-8 調査区南西側、東に面する緩斜面 標高63.70m付近

確認・調査：H-5竪穴住居跡のトレンチ調査によって暗褐色土の落ち込みを検出した。調査時はH-5の付属遺構と考えて調査を行ったが、土層の観察と覆土中から検出した縄文時代後期前葉の土器から、H-5より新しい土坑であると判断した。また、平面を精査したところ、土坑がもう一基重複する可能性もあるが、皿状で明瞭ではないため、遺構番号は与えず平面形を図示した。

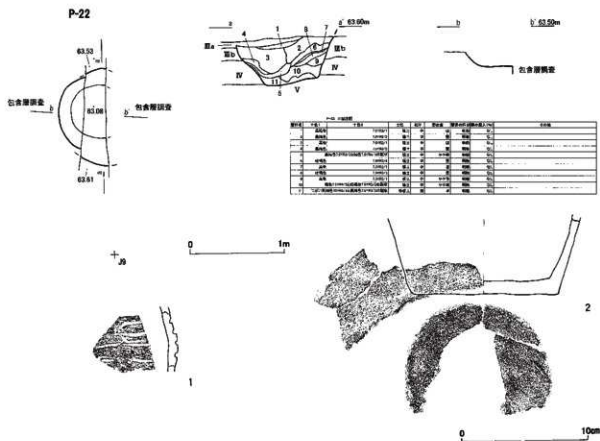
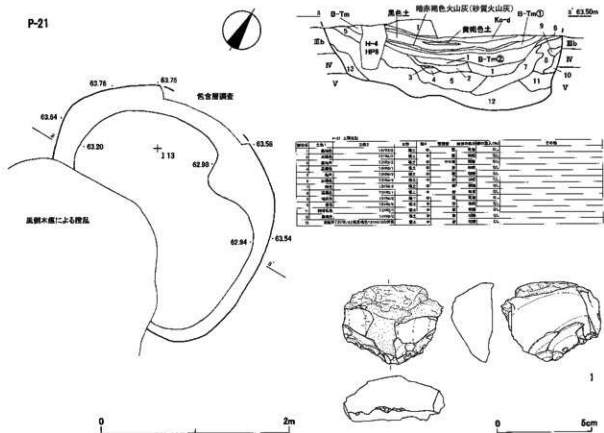
覆土：攪拌された状況の土である。埋め戻しによるものと判断する。

遺物出土状況：覆土中からIV群a類土器が11点出土した。

掲載遺物：1・2はIV群a類土器。1は縄文地に沈線が施されている。2は無文の底部。表面の磨滅が著しい。



1. (2) 土坑

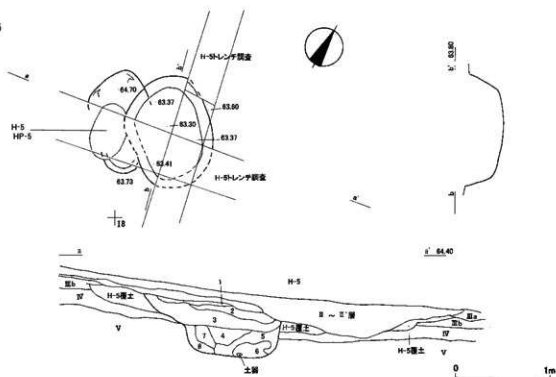


図IV-25 P-21・22とその出土遺物



1. (2) 土坑

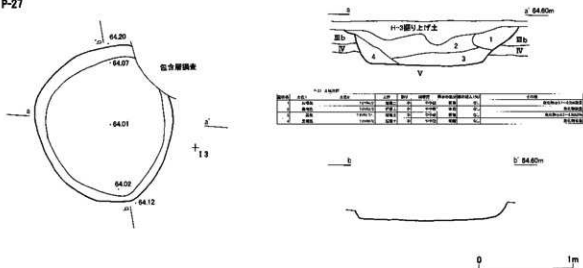
P-26



層別	土質	厚	色	特徴	出土品	備考
1	黄褐色粘土	0.10	63.20	レンダ層		
2	黄褐色粘土	0.10	63.37	レンダ層		
3	黄褐色粘土	0.10	63.20	レンダ層		
4	黄褐色粘土	0.10	63.37	レンダ層		
5	黄褐色粘土	0.10	63.00	レンダ層		
6	黄褐色粘土	0.10	63.41	レンダ層		
7	黄褐色粘土	0.10	63.73	レンダ層		
8	黄褐色粘土	0.10	63.18	レンダ層		

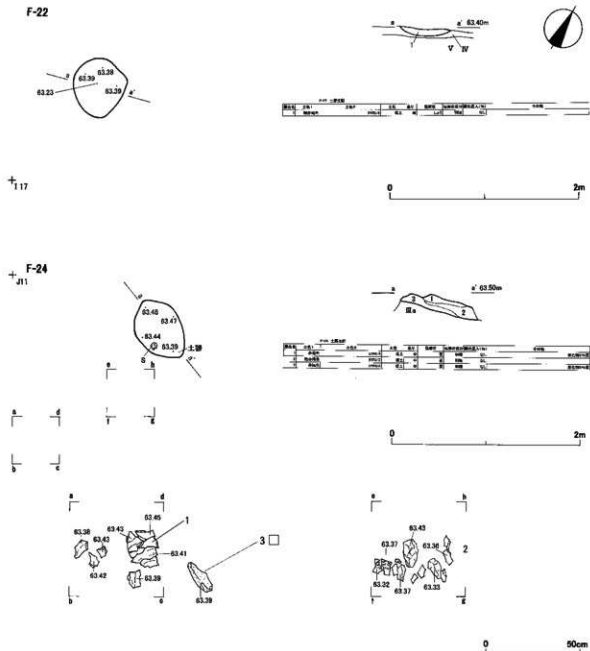


P-27



層別	土質	厚	色	特徴	出土品	備考
1	黄褐色粘土	0.10	64.07	掘り上げ土		
2	黄褐色粘土	0.10	64.01	掘り上げ土		
3	黄褐色粘土	0.10	64.02	掘り上げ土		
4	黄褐色粘土	0.10	64.12	掘り上げ土		

図IV-27 P-26・27とその出土遺物



図IV-28 F-22・F-24とその周辺遺物

時 期：土層断面の観察と覆土中の遺物から縄文時代後期前葉の土坑と判断する。

P-27 (図IV-27 図版17)

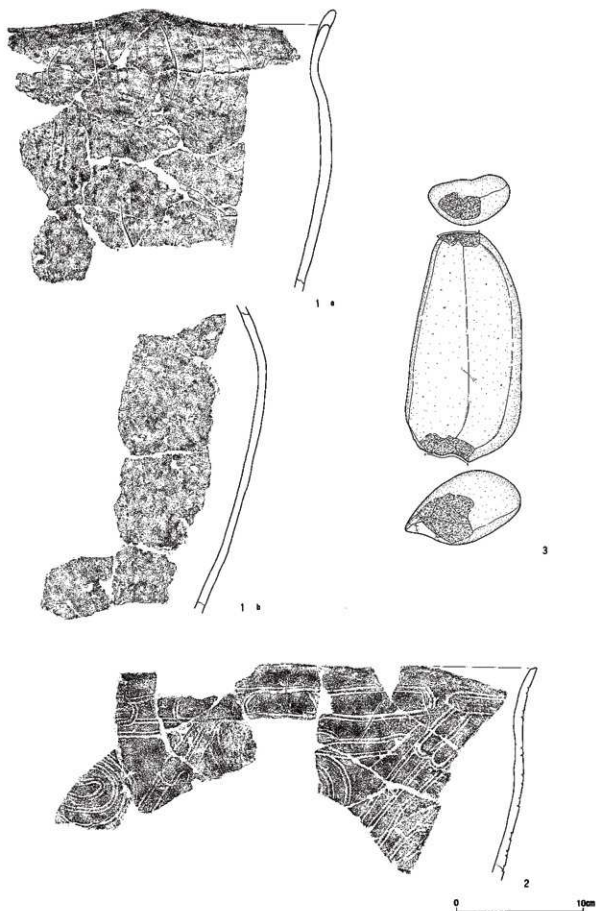
位置・立地：H・I-2 調査区西端、沢に面して張り出す平坦面 標高64.20m付近

確認・調査：H-3の掘り上げ土を掘り下げていたところ、灰褐色～黒褐色土の落ち込みを検出した。土層観察のためのベルトを設定し半截を行なったところ、平坦な坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。

覆 土：H-3掘り上げ土の下、Ⅲb層から掘り込まれている。覆土は自然埋没によるものと判断する。

時 期：P-25と平面形、覆土の堆積状況が近似すること、土層の観察からH-3より古い縄文時

1. ③ 煨土



圖IV-29 F-24 周辺遺物

代中期前半の土坑であると判断する。

### (3) 焼土

#### F-22 (図IV-28 図版26)

位置・立地：H-17 調査区北西側 標高63.40m付近

確認・調査：包含層調査でIV層から暗赤褐色土の広がりを検出した。半載したところ、土層断面にも平面と同じ土色で焼成を受けたと考えられる断面を確認し焼土と判断した。

遺物出土状況：被熱した礫片が1点出土している。

時期：焼土から遺物の出土がないことと、この土層断面から時期の認定はできないが、周辺の遺物出土状況と縄文時代後期前葉の集石(S-2)から、縄文時代後期前葉と推測する。

#### F-24 (図IV-28 図版26)

位置・立地：J-11 調査区南西側の緩斜面 標高63.50m付近

確認・調査：包含層調査でⅡ'～Ⅲa層を掘り下げていたところ、赤褐色～暗赤褐色土の広がりを検出した。焼土周辺からはIV群a類土器のまとまりと棒状を呈する礫の両端を使用していた、たたき石が出土した。焼土を半載したところ、東側に下る緩斜面に向け、流れ動いた焼土であると判断した。

遺物出土状況：焼土からはⅢ群a類土器が1点と被熱した礫片が出土している。焼土周辺からIV群a類土器が2個体とたたき石1点出土した。

掲載遺物：1・2はIV群a類土器で深鉢形のもの。1は波状口縁で、無文である。2は無文地に竹管状工具により沈線が施されている。3は棒状礫の両端に敲き痕がある。砂岩。

時期：焼土を検出した層位と周辺の遺物から縄文時代後期前葉と判断する。

#### F-25 (図IV-30)

位置・立地：I-13 調査区東側の緩斜面 標高63.50m付近

確認・調査：包含層調査で明赤褐色土の広がりを検出した。半載したところ、平面と同じ土色の断面を確認した。Ⅲb層上面の土色が変化していることから、Ⅲa層で焼成を受けたものであると判断した。

時期：時期を特定する遺物は出土していないが、Ⅲa層で焼成を受けた焼土であるため、縄文時代後期前葉と考えられる。

#### F-26 (図IV-30)

位置・立地：J-9 Ⅱ'層上面で見られる沢地形の中央 標高63.10m付近

確認・調査：包含層調査でⅢb層下位に暗赤褐色土の広がりを検出した。半載したところ、平面と同じ土色の土層断面を確認し、焼土と判断した。

遺物出土状況：掲載していないが、IV群a類土器が11点出土している。

時期：検出層位はⅢb層下位であるが、沢地形であること、また焼土からはIV群a類土器が出土したことから、縄文時代後期前葉と考えられる。

#### F-27 (図IV-30)

位置・立地：J-9 Ⅱ'層上面で見られる沢地形の中央 標高63.10m付近

確認・調査：包含層調査でⅢb層下位に暗赤褐色土の広がりを検出した。半載したところ、平面と同じ土色の土層断面を確認し、焼土と判断した。

時期：先に調査を行ったF-26に近く、規模・土色・層厚も同様の焼土であるため縄文時代後期前葉と考えられる。

1. (3) 検土

F-25



+213



+21



F-26



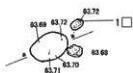
+K10



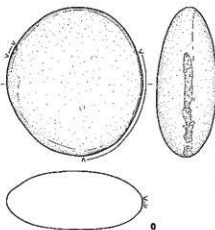
F-27



F-28



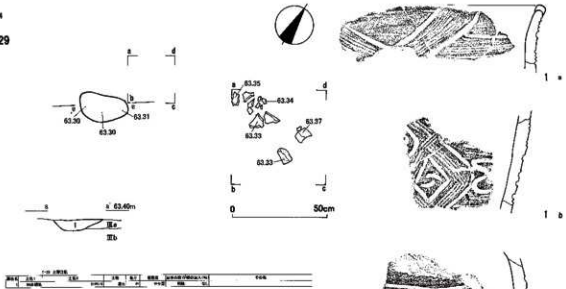
+19



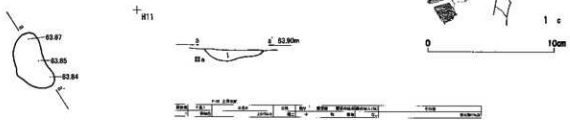
図IV-30 F-25・26・27 F-28とその遺物

+ J14

F-29



F-30



F-31



F-32



図IV-31 F-29とその周辺遺物 F-30・31・32



## 1. ③ 焼土

### F-28 (図IV-30 図版17・26)

位置・立地：H-9 調査区中央よりやや南西側、東に下る緩斜面 標高63.70m付近

確認・調査：包含層調査でⅢb層上面において、にぶい赤褐色土の広がりを検出した。半載したところ平面と同じ土色を確認し、焼土と判断した。

遺物出土状況：Ⅳ群a類土器3点、たたき石1点、フレイク1点、礫3点、計8点出土した。

掲載遺物：Iはたたき石。扁平な円礫の縁辺に敲き痕がみられる。砂岩。

時期：焼土の検出した層位と出土遺物から縄文時代後期前葉と判断する。

### F-29 (図IV-31 図版26)

位置・立地：J-14 調査区南側の緩斜面 標高63.30m付近

確認・調査：包含層調査でⅢa層中に明赤褐色の広がりを検出した。半載したところ、焼成を受けⅢb層まで達した明赤褐色土の土層断面を確認し焼土と判断した。

遺物出土状況：焼土の付近にはⅣ群a類土器のまとまり(34点)礫片1点検出した。

掲載遺物：IはⅣ群a類土器。波状口縁の深鉢形で、無文地に棒状工具により沈線で区画し、櫛目状工具で施文されている。大津式相当のもの。

時期：焼土の検出した層位と出土遺物から縄文時代後期前葉と判断する。

### F-30 (図IV-31)

位置・立地：H-10 調査区中央よりやや南西側、東に下る緩斜面 標高63.90m付近

確認・調査：包含層調査でⅢa層中に暗赤褐色の広がりを検出した。半載したところ、Ⅲa層中で平面と同じ土色の断面を確認、焼土と判断した。

時期：焼土から時期を特定する遺物は検出しなかったが、検出した層位から縄文時代後期前葉と考えられる。

### F-31 (図IV-31)

位置・立地：H-6 調査区南西側、東に下る緩斜面 標高64.50m付近

確認・調査：包含層調査でⅢb層上面に暗赤褐色土の広がりを検出した。半載したところ平面と同じ土色の断面を確認、焼土と判断した。

遺物出土状況：台石片が1点出土した。掲載はしていない。

時期：時期を特定する遺物は出土していないが、検出した層位から縄文時代後期前葉と考えられる。

### F-32 (図IV-31)

位置・立地：H-I-14 調査区中央よりやや西側、東に下る緩斜面 標高63.50m付近

確認・調査：包含層調査でⅢb層に明赤褐色土とにぶい赤褐色土の斑状になっている広がりを検出した。半載したところ平面と同じ土色の断面を確認、西側の縁には炭化物を検出し、焼土と判断した。

遺物出土状況：礫片が1点出土している。

時期：時期を特定する遺物は検出していない。縄文時代中期～後期前葉の可能性がある。

### F-33 (図IV-34)

位置・立地：I-12 調査区中央よりやや西側、東に下る緩斜面 標高63.50m付近

確認・調査：包含層調査でⅢb層に暗赤褐色土の広がりを検出した。半載したところ平面と同じ土色を確認、焼土と判断した。

遺物出土状況：Ⅳ群a類土器7点、礫片1点の7点が出土している。掲載はしていない。

時期：Ⅳ群a類土器が出土したことから縄文時代後期前葉と判断する。

**F-34 (図IV-34)**

位置・立地：H-6 調査区南西側、東に下る緩斜面 標高64.50m付近

確認・調査：包含層調査でⅢb層上面に暗赤褐色土の広がりを検出した。半截したところ平面と同じ土色の断面を確認、焼土と判断した。

時期：時期を特定する遺物は出土していないが、検出した層位から縄文時代後期前葉と判断する。

**F-35 (図IV-32・33 図版17・27)**

位置・立地：I-9 調査区中央よりやや西側、Ⅱ'層上面で確認できる沢頭 標高63.50m付近

確認・調査：包含層調査でⅢb層上面に明赤褐色土の広がりを検出した。平面で3ヶ所に分かれていたが、焼土検出面とほぼ同じ高さで土器のまとまりが出土したため、同一と捉え、遺構番号に枝番を用い、F-35①、②、③として調査を行った。まず焼土の上面に広がる遺物の位置を記録し、それぞれを半截した。①、③は平面と同じ土色の断面を確認、②については焼成を受け、明赤褐色に堅く焼け締まった層(2層)を確認した。

遺物出土状況：F-35から87点(表IV-2)、焼土中からは①IV群a類土器9点、②IV群a類土器7点、礫1点出土した。

掲載遺物：1～4までIV群a類土器で深鉢形のもの。1は折り返し口縁で、無文地に細い工具で斜めに沈線が施されている。2は無文の口縁が弱く外反している。口唇は無文で胴部との文様を沈線で区画されている。胴部には横走する沈線で区画されたあいだを縄文地にし、鋸歯状の沈線が施されている。3は無文地に沈線が施されている。4は磨消縄文が施されている大形の深鉢形土器の胴部破片。5は石斧。砂岩製のもの。

時期：焼土とともに検出した遺物から縄文時代後期前葉の遺構と判断する。

**F-36 (図IV-34)**

位置・立地：I-9 調査区中央よりやや西側、Ⅱ'層上面で確認できる沢頭 標高63.40m付近

確認・調査：包含層調査でⅢb層上面に明赤褐色土の広がりを検出した。半截し平面と同じ土色の断面を確認、焼土と判断した。

遺物出土状況：IV群a類土器1点、礫1点を検出した。

時期：検出した層位と、周辺の遺構、遺物から縄文時代後期前葉と判断する。

**F-37 (図IV-34)**

位置・立地：G-5 調査区中央よりやや西側、Ⅱ'層上面で確認できる沢頭 標高63.80m付近

確認・調査：包含層調査でⅢb層上面に明赤褐色土の広がりを検出した。半截し平面と同じ土色の断面を確認、焼土と判断した。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出した層位と、周辺の遺構、遺物から縄文時代後期前葉と判断する。

**F-38 (図IV-34)**

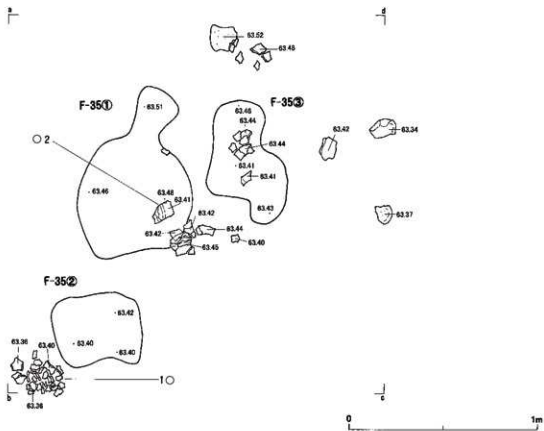
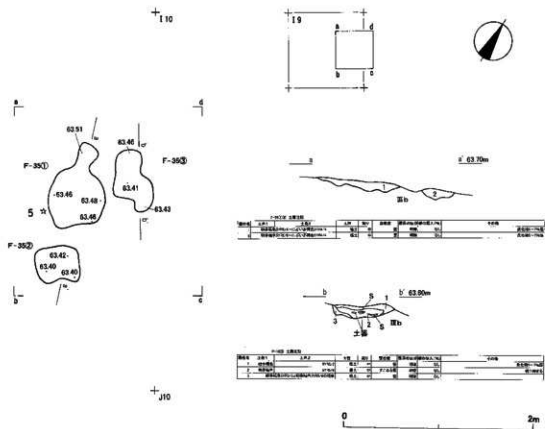
位置・立地：G-5 調査区中央よりやや西側、Ⅱ'層上面で確認できる沢頭 標高63.80m付近

確認・調査：包含層調査でⅢb層上面に灰褐色土の広がりを検出した。半截し平面と同じ土色の断面を確認、焼土と判断した。

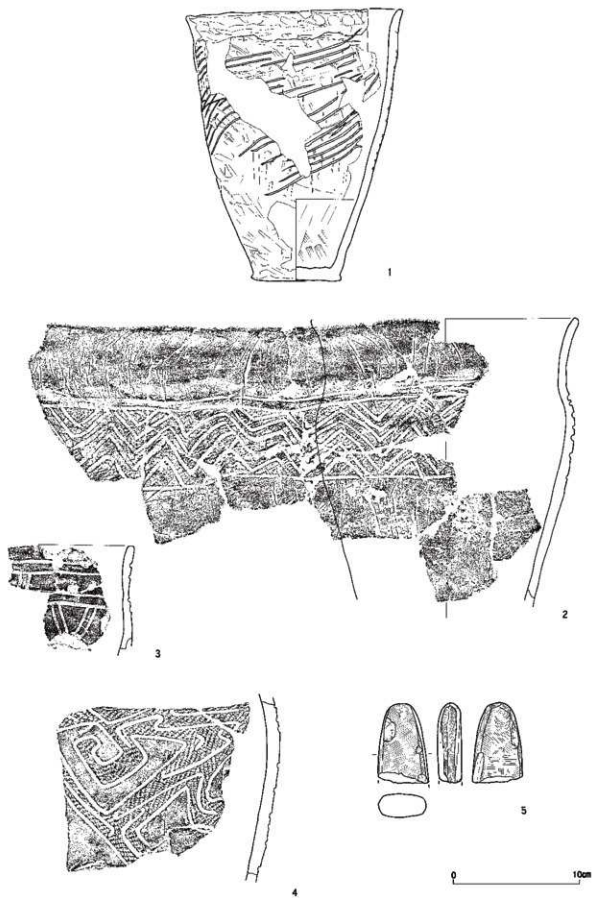
遺物出土状況：頁岩の原石1点が出土した。

時期：検出した層位と、周辺の遺構、遺物から縄文時代後期前葉と判断する。

1. (3) 煨土

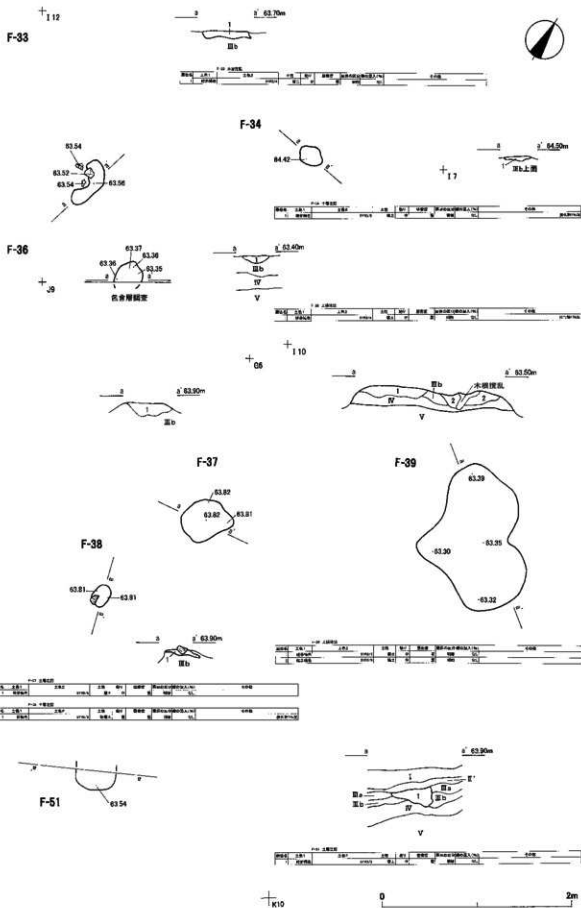


図IV-32 F-35(1)



圖IV-33 F-35/2

1. (3) 坡土



図IV-34 F-33・34・36・37・38・51



F-39 (図IV-34)

位置・立地：I-10 調査区中央よりやや西側、II'層上面で確認できる沢頭付近 標高63.40m付近  
確認・調査：包含層調査でIV層暗赤褐色土の広がりを検出した。半載し平面と同じ土色の断面を確認、  
焼土と判断した。

遺物出土状況：III群a類土器3点、IV群a類土器2点、フレイク7点、礫片2点の合計14点出土した。

時 期：検出した位置・層位と、出土した遺物から縄文時代中期前半～後期前葉の遺構と考えら  
れる。

F-40 (図IV-35)

位置・立地：H-12 調査区中央よりやや西側、東へ下る緩斜面 標高63.80m付近

確認・調査：H-4平地式住居跡の柱穴調査により、その一部を確認した。平面の広がりを確認、長  
軸方向に半載したところIV層において暗赤褐色～明赤褐色の断面を確認、焼土と判断した。

遺物出土状況：IV群a類土器4点、礫2点の合計6点出土した。

時 期：IV群a類土器が出土していることから縄文時代後期前葉と判断する。

F-41 (図IV-35 図版27)

位置・立地：I-5 調査区南西側、東へ下る緩斜面上 標高64.30m付近

確認・調査：包含層調査で明赤褐色土の広がり、その近くから土器のまとまりと台石を検出した。

遺物のまとまりは位置を記録した。明赤褐色土の広がり半載したところIII b層にて平面と同じ土色  
の断面を確認、焼土と判断した。

遺物出土状況：焼土からはIV群a類土器2点、礫2点の合計4点出土した。周辺からはIV群a類土器  
1個体と台石が1点検出されている。

掲載遺物：1はIV群a類で深鉢形のもの。地文にLRの斜行縄文を縦位気味に施されている。胎土に  
は砂礫が多く混じり、脆い。2～3cm幅の粘土の輪積み痕から剥落しやすい。底部付近でナデにより  
無文となっている。2は台石。礫の平坦な面に平滑な擦り面を持つ。砂岩。

時 期：IV群a類土器が出土していることから縄文時代後期前葉と判断する。

F-42 (図IV-36 図版27)

位置・立地：J-8 調査区中央よりやや南西側、II'層上面で見られる沢地形 標高63.40m付近

確認・調査：包含層調査により暗赤褐色～にぶい赤褐色土の広がりを検出、半載したところIII b層上  
面で平面と同じ土色の断面を確認、焼土と判断した。

遺物出土状況：IV群a類土器40点、石錐2点、フレイク5点、礫片・礫あわせて11点、合計58点出土  
した。

掲載遺物：1・2は石錐。ともに厚みのある剥片に調整が施され、突出部を作り出している。頁岩製。

時 期：検出した層位と、IV群a類土器が出土していることから縄文時代後期前葉と判断する。

F-43 (図IV-36)

位置・立地：I-2 調査区南西側、沢に面して張り出す平坦面の際 標高64.30m付近

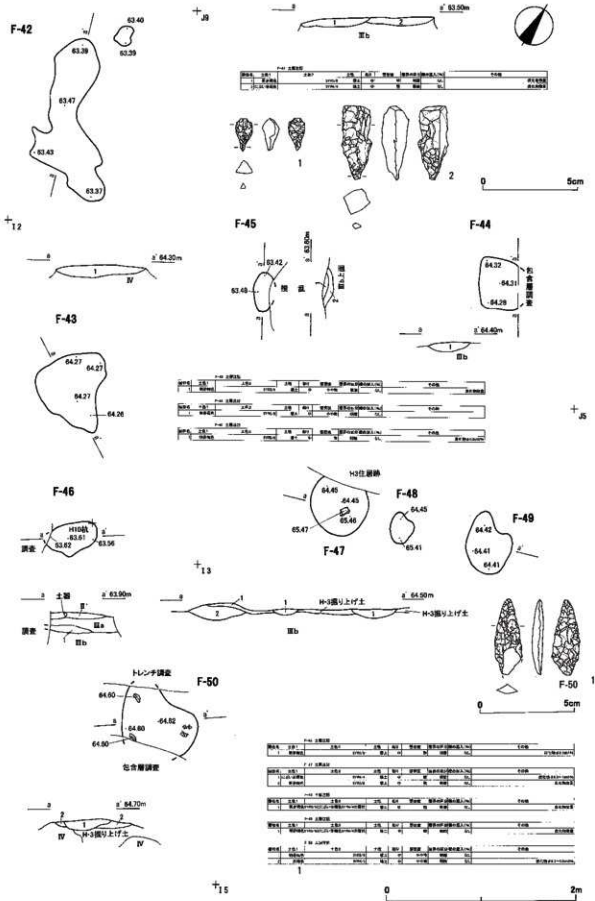
確認・調査：包含層調査でH-3掘り上げ土の下から明赤褐色土の広がりを検出した。半載したとこ  
ろIV層上面に平面と同じ土色の断面を確認、焼土と判断した。

時 期：検出した層位と周辺の遺構・遺物から縄文時代中期前半と判断する。

F-44 (図IV-36)

位置・立地：I-4 調査区南西側、東へ向かう緩斜面 標高64.30m付近

確認・調査：包含層調査で検出、半載したところIII b層で平面と同じ土色の断面を確認、焼土と判断



図IV-36 F-42・43・44・45・46・47・48・49・50



## 1. (3) 焼土・(4) 集石

した。

遺物出土状況：Ⅲ群 a 類土器が 1 点出土している。

時 期：確認した層位、出土した遺物から縄文時代中期前半～後期前葉と考えられる。

### F-45 (図Ⅳ-36)

位置・立地：G-20 調査区北西側、東へ下る緩斜面 標高63.50m付近

確認・調査：包含層調査で検出、半截したところⅢ b 層上面で平面と同じ土色の断面を確認、焼土と判断した。

時 期：確認した層位から縄文時代後期前葉と考えられる。

### F-46 (図Ⅳ-36)

位置・立地：H-9 調査区中央より西側、標高63.60m付近

確認・調査：包含層調査で検出、半截し断面を確認したところⅢ a 層下位～Ⅲ b 層上位にかけ明赤褐色の土層を確認、焼土と判断した。

時 期：確認した層位から縄文時代後期前葉と考えられる。

### F-47・48・49 (図Ⅳ-36)

位置・立地：H-3 調査区南西側、沢に向かって張り出す台地の平坦面 標高64.50m付近

確認・調査：H-3 掘り上げ土を調査中に確認、半截したところ掘り上げ土の下位に明赤褐色土の断面を確認、焼土と判断した。

時 期：確認した層位から縄文時代中期前半と考えられる。

### F-50 (図Ⅳ-36 図版27)

位置・立地：H-4 調査区南西側、沢に向かって張り出す台地の平坦面 標高64.60m付近

確認・調査：H-3 掘り上げ土を調査中に確認、半截したところ掘り上げ土の下位に明赤褐色土の断面を確認、焼土と判断した。

掲載遺物：1 は石鏃。基部を欠損しているが、有茎のものと考えられる。頁岩製。

時 期：確認した層位から縄文時代中期前半と考えられる。

### F-51 (図Ⅳ-34)

位置・立地：J-9 調査区中央より南西側、Ⅱ'層上面で確認できる沢頭付近 標高63.50m付近

確認・調査：遺物集中にかかる土層観察用のベルトにて確認。Ⅲ a 層下位～Ⅲ b 層上位にかけ明赤褐色の土層を確認、焼土と判断した。

時 期：確認した層位から縄文時代後期前葉と考えられる。

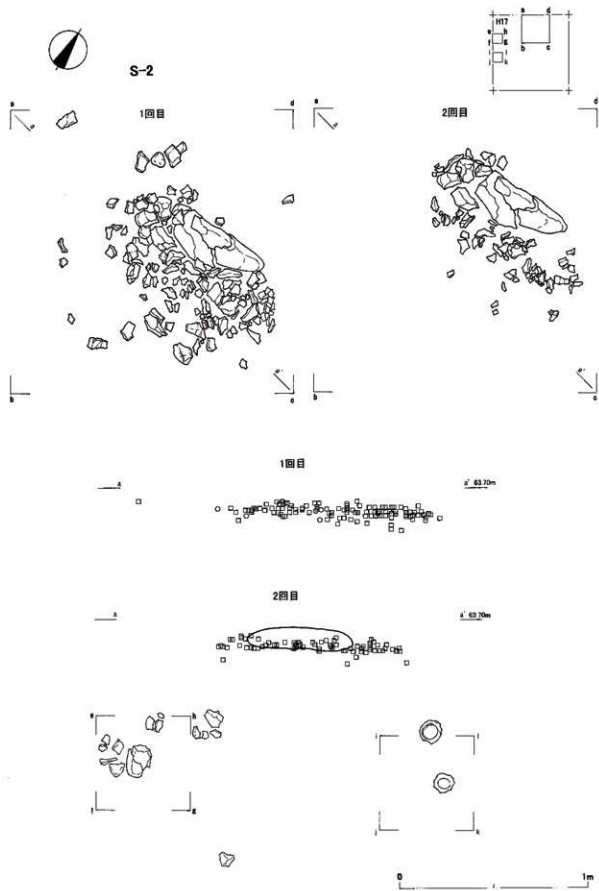
## (4) 集石

### S-2 (図Ⅳ-37～42 図版9・28)

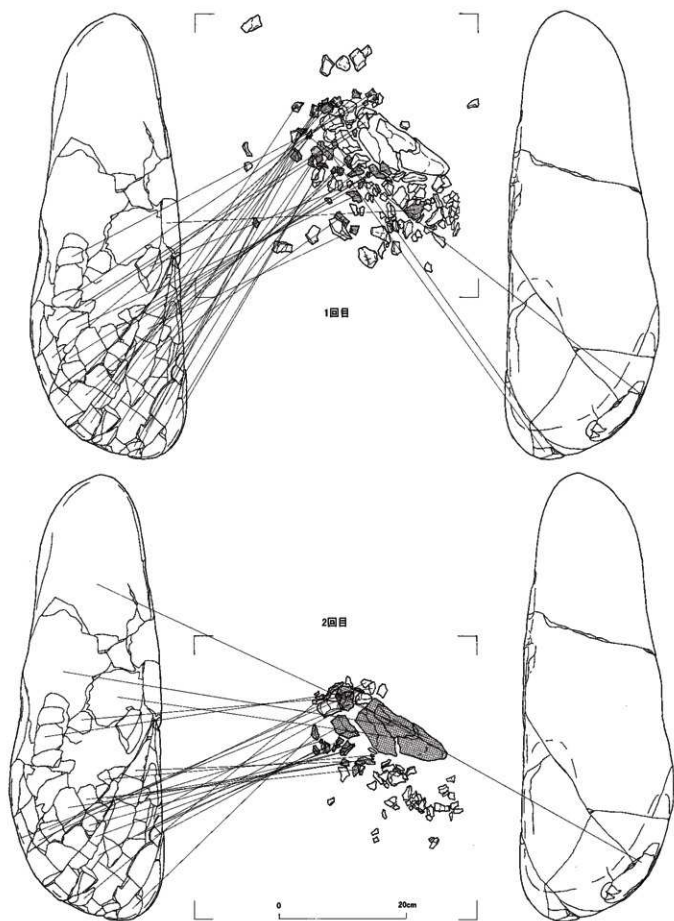
位置・立地：H-17 調査区北西側、東に下る緩斜面上 標高63.60m付近

確認・調査：包含層調査中、破砕した大小の礫片が集中した状態で検出した。平面の位置と高さを記録し、取り上げを 2 回に分割し行なった。検出した層位はⅢ a 層下位～Ⅲ b 層にかけてである。掘り込みなどはなく、平面的に置かれた状況である。周辺からはⅣ群 a 類土器の底部が出土している。

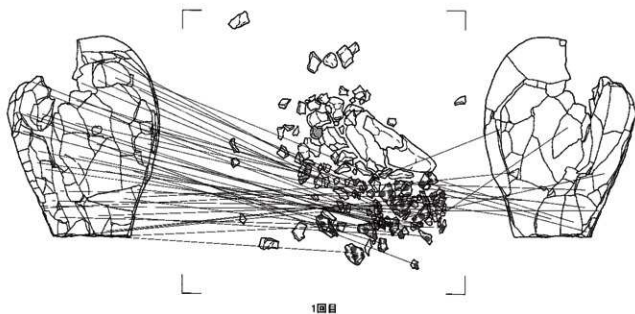
掲載遺物：1・2 はⅣ群 a 類土器で、S-2 の礫片中に混じり出土した土器片。1 は深鉢形土器の底部付近の破片で、無文のもの。2 は底部で横走る沈線が施されているもの。3・4・5 は S-2 より接合で復元できた、台石としたもので、すべて砂岩である。3 は実測図裏面とした面の礫皮表面が層状に割れている。本体部分は 2 回目として取り上げた大形のもので、破片はその西側傍にあった。



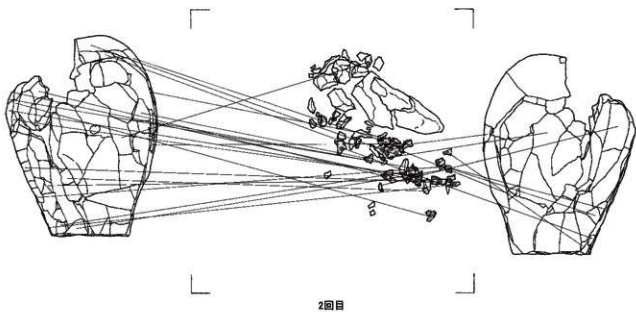
圖IV-37 S-2(1)



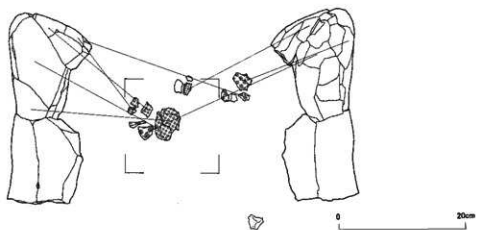
圖IV-38 S-2(2)



1回目

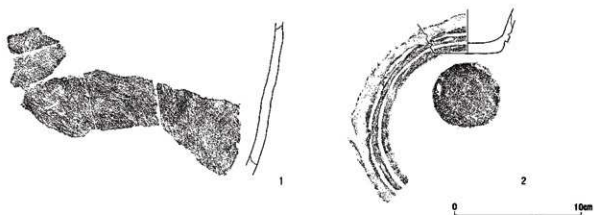


2回目



圖IV-39 S-2(3)

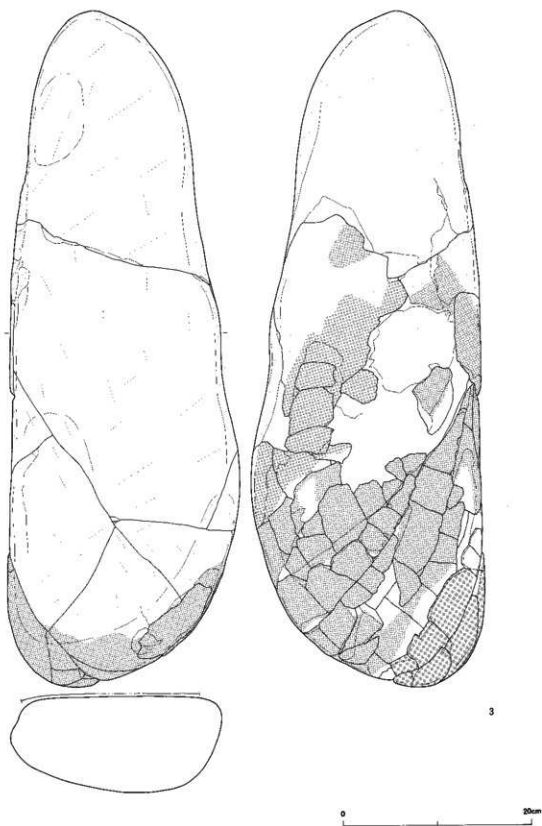
1. (4) 集石



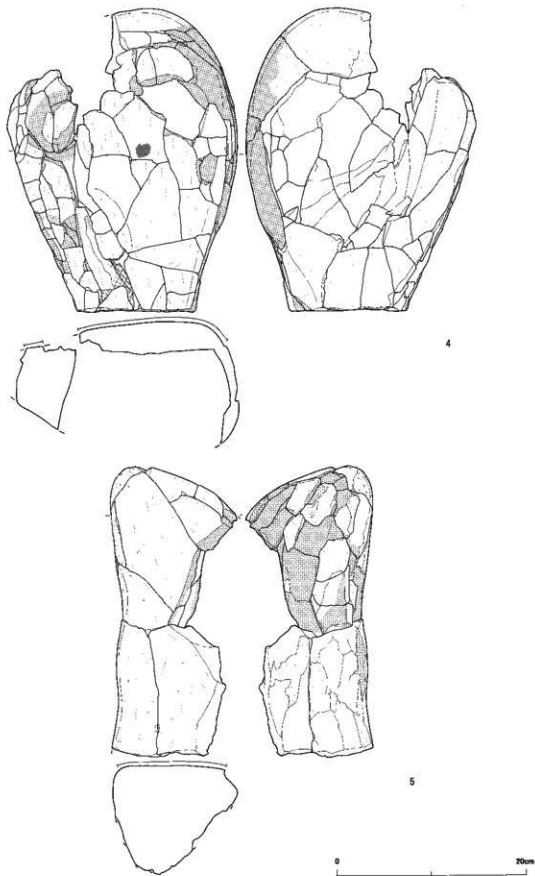
図IV-40 S-2(4)

破片は赤褐色～暗赤褐色を呈し、接合状況により破片と本体の色が異なることがわかった。破砕後、位置の変化はあまり見られないものと判断するが、周辺にはこのことに関連頭付ける焼土などの遺構はない。人為的に持ち込まれている礫であるが、礫の在り方と礫皮表面の色の違いについては接合状況と遺物観察からは原因が判らなかった。4はS-2の中で東側にまとまって検出されたもの。礫の表面が層状に剝離するように割れている。中心になる部分は接合で得られなかった。3と同様、暗赤褐色を呈している。5も赤褐色～暗赤褐色を呈している。

時期：検出した層位と周辺の遺物から縄文時代後期前葉の遺構と判断する。



圖IV-41 S-2(5)



圖IV-42 S-2(6)

## 2. 包含層出土の遺物

包含層から出土した遺物は13,603点である(表IV-3)。II章(4)の調査方法により、包含層をⅢa、Ⅲb層に区分し、調査を行った。その結果、突出して多いのがⅢa層出土のIV群a類で6,094点である。このほかⅢa層で目立つのがフレイク910点、石核90点、たたき石27点、スクレイパー29点などである。

Ⅲb層ではⅢ群a類土器が274点出土している。このほか各層から遺物が出土するが、Ⅱ'層についてはII章で述べたとおり、B-TmとⅢa層を母材とした二次堆積によるもので縄文時代後期前葉の遺物が混じることと、Ⅲa層で検出されたⅢ群a類189点については沢地形や斜面など、自然営為によって二次的に位置したと考えられる。

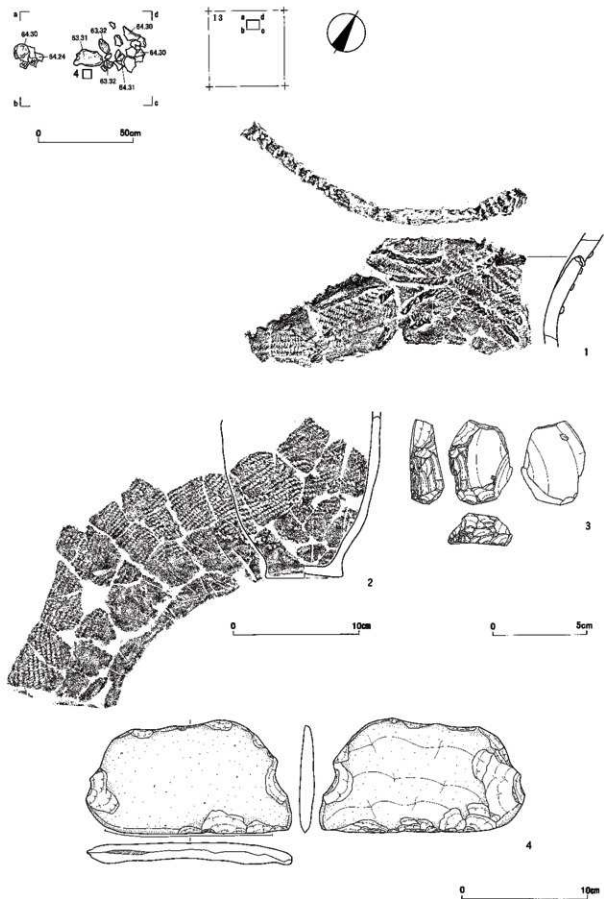
### (1) 包含層遺物の出土状況とその遺物(図IV-2・43~53 図版18・19・29~33)

調査区で土器がまとまり、礫石器等と出土したところを図IV-2で位置を示す。遺物は縄文時代後期前葉、Ⅲa層から出土したものが主体である。これを見ていくと、おおまかではあるが3ヶ所に検出したところを分けることができる。①調査区中央の標高63.80~64.20mで東側に弱く張り出すところと、②沢頭、③調査区西側の南西に張り出しているところの東側斜面、標高64.60m~65.00mのところと点にしている。①は大津~白坂3式相当、②は主に白坂3式相当、③は大津・白坂3式相当のものが主体であると考えられる。このほか、円筒土器上層式のまとまりはH-3掘り上げ土の下、Ⅲb層から検出した。

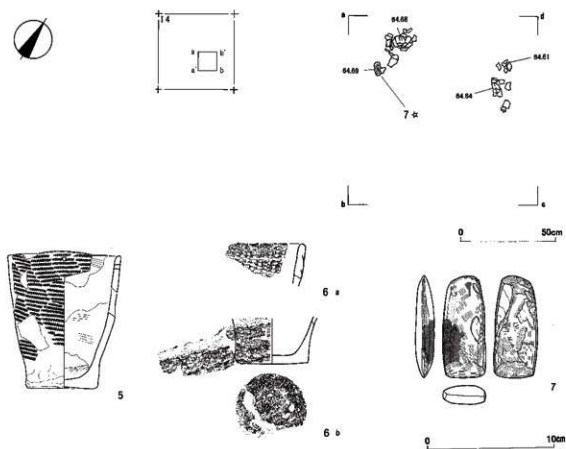
土器・石器を31点図示した。1~4はI-4区、H-3掘り上げ土の下Ⅲb層から出土。1・2はⅢ群a類のもの。1は波状口縁の突起部が欠落しているもの。縄文地に粘土紐による貼付がある。貼付帯上には縄文が施されている。口縁には縄による刻みが施されている。2は胴部~底部にかけてのもの。底部付近はくびれている。3は頁岩製のスクレイパー。二次加工は急角度である。4は扁平打製石器。扁平礫に打ち欠きを施している。凝灰岩製。5~7までI-4区Ⅲb層出土。5・6はIV群a類で小形のもの。5は実測図正面にしたところ1ヶ所が緩い波状になっており穿孔されている。ほかの部分は平縁で、波状の対向するところにも穿孔がある。6はLRの斜行縄文が縦位に施されているもの。7は石斧。泥岩製。8・9・10はI-4区、H-3掘り上げ土上のⅢb層から出土したもの。8は石槍。有茎と見られるが、茎との境が明瞭ではない。表面は風化もしくは磨耗したようで、剥離調整の切り合った境目が白くならかになっている。黒曜石製のもの。9は折り返し口縁の深鉢形土器。地文は無節の斜行縄文が施されている。10は無文のもの。11・12はJ-10区、Ⅲa層からの出土で、IV群a類の深鉢形土器。11は折り返し口縁で、その下に平行する沈線が施されている。地文は無節の縄文である。口縁に開きはなく、胴部中央付近で張り出し、底部ですぼまる。底部付近はミガキにより無文である。12は無文の底部。13~16までJ-9区、Ⅲa層からの出土で、IV群a類のもの。13は波状口縁の深鉢型。口縁は緩く外反し、胴部でわずかに膨らみ、底部ですぼまる。無文地で頸部のくびれから張り出す胴部にかけて沈線が施されている。14は深鉢型で頸部付近~底部にかけて復元できたもの。頸部付近と胴部の張り出すところに横走る沈線で区画し、縄文上に沈線で文様が施されている。15は口縁に窟歯状の沈線が施されている。口唇上は無文で角形になっている。16は無文の底部破片。18~22までI-7区、Ⅲa層出土。1~20はIV群a類。18は磨り消し縄文によるもの。17は無文である。19は波状口縁で、波頂部付近に棒状工具により斜位の刻みが施されている。頸部は無文地に沈線が施されている。20は外反しない口縁。無文地に沈線が施されている。21はスクレイパー。



2. (1) 包含層遺物出土状況とその遺物



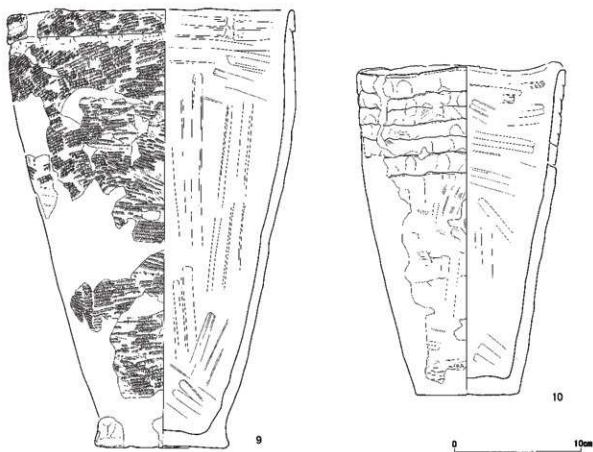
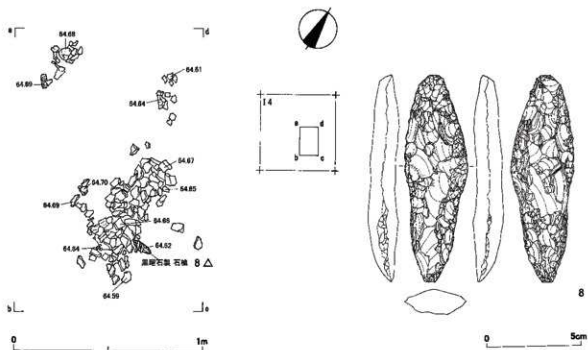
図IV-43 包含層遺物出土状況とその遺物(1)



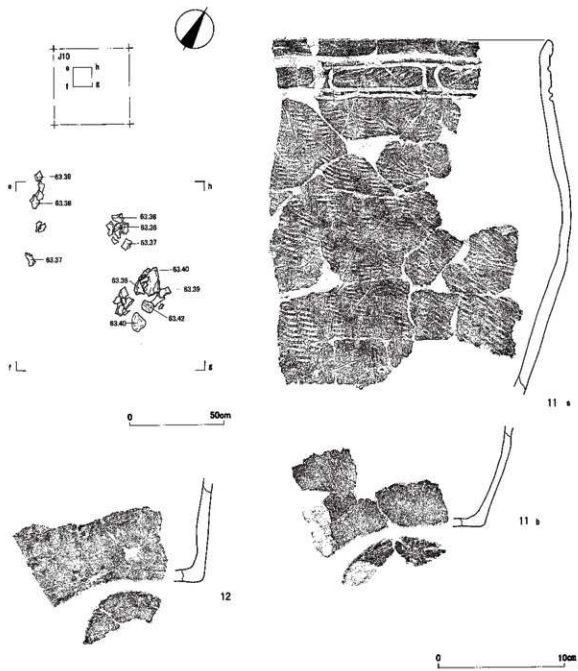
図IV-44 包含層遺物出土状況とその遺物②

縦長剥片の腹面右側縁に調整が施されている。頁岩製。22は砥石。礫の両面に砥面がある。砂岩。23はI-6区、Ⅲa層出土。IV群a類、大津式相当のもの。波状口縁で、無文地に棒状工具による沈線と櫛目状工具による沈線が施されている。24~26までI-12区、Ⅲa層出土。24・25は台石。24は礫の両面、25は片面に擦り面をもつ。共に凝灰岩。26は深鉢形で波状口縁のもの。波頂部に貼付帯を施し、波頂部とその周辺に竹管状工具により刺突が加えられている。無文地に棒状工具と櫛目状工具により沈線が施されている。底部の内側には縄の圧痕が1条みられる。大津式相当。27~29はI-12区、Ⅲa層出土。27・28はIV群a類土器。27は波状口縁の深鉢形で、棒状工具により波頂部は刺突、その周辺には刻みが施されている。文様は、無節の縄文が沈線と磨消により区画されている。28は深鉢形の胴部から底部にかけてのもので、胴部に磨り消しによって文様が施されている。大津~白坂3式相当と思われる。29はたたき石。やや縦長の礫両端に敲き痕がある。砂岩。30・31はJ-7区、Ⅲa層出土のIV群a類土器。30は無文の口縁が外反し頸部でくびれ、肩~胴部上位が張り出す。張り出すところで鋸歯状の沈線が施されている。31は波状口縁のもの。口唇は無文。外反する口縁で、縄文地の波頂部にはVの字になる沈線が施されている。頸部は無文で、張り出す胴部上半には縄文地に沈線と磨り消しにより施文される。白坂3式相当。

2. (1) 包含層遺物出土状況とその遺物

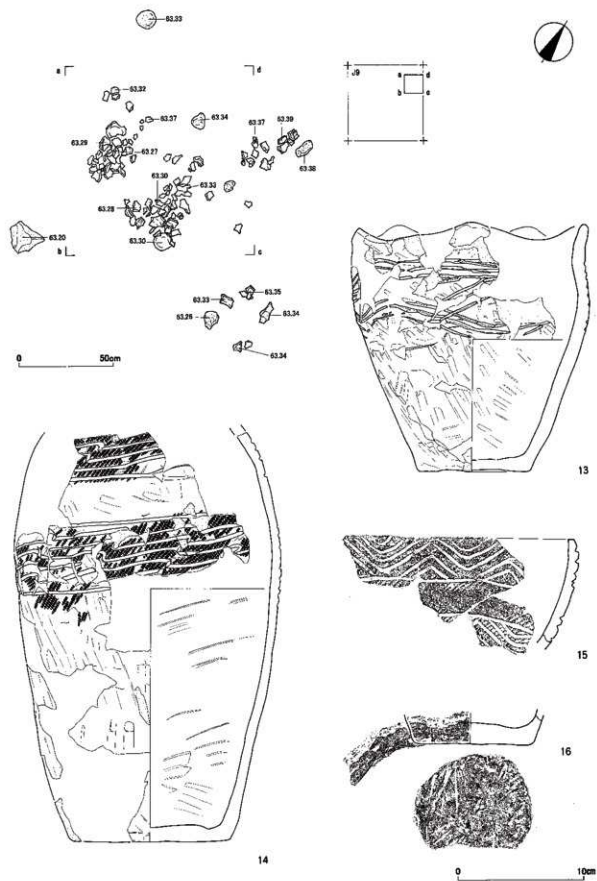


図IV-45 包含層遺物出土状況とその遺物(3)

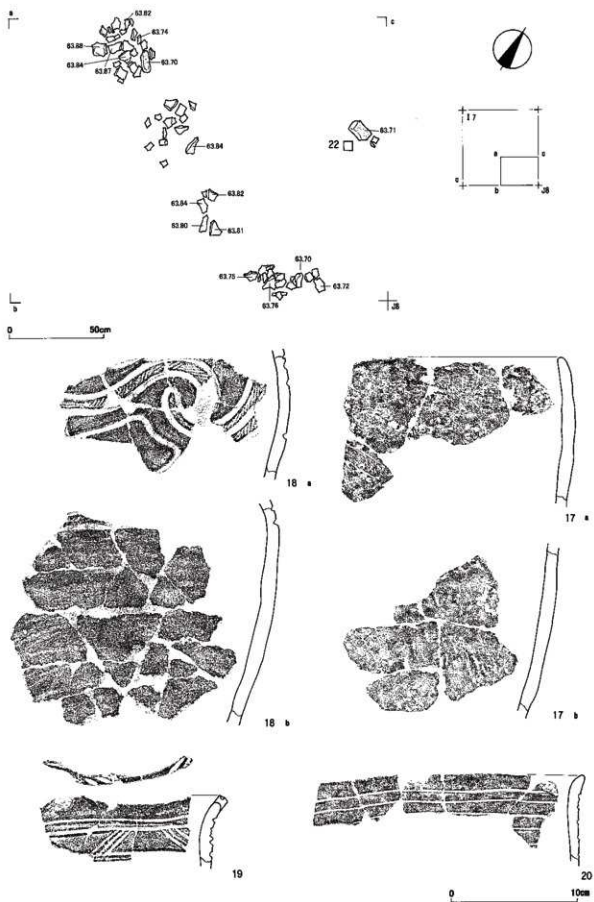


図IV-46 包含層遺物出土状況とその遺物(4)

2. (1) 包含層遺物出土状況とその遺物

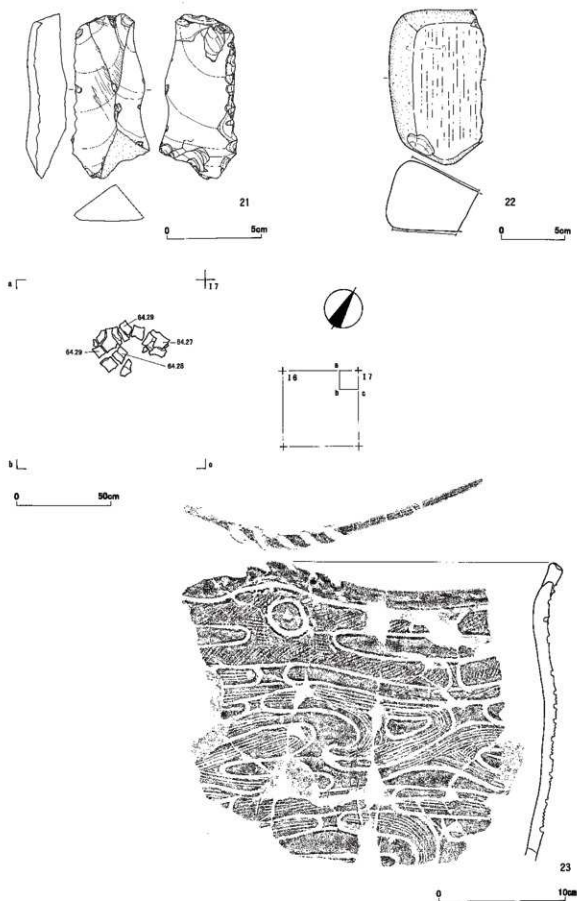


図IV-47 包含層遺物出土状況とその遺物(5)

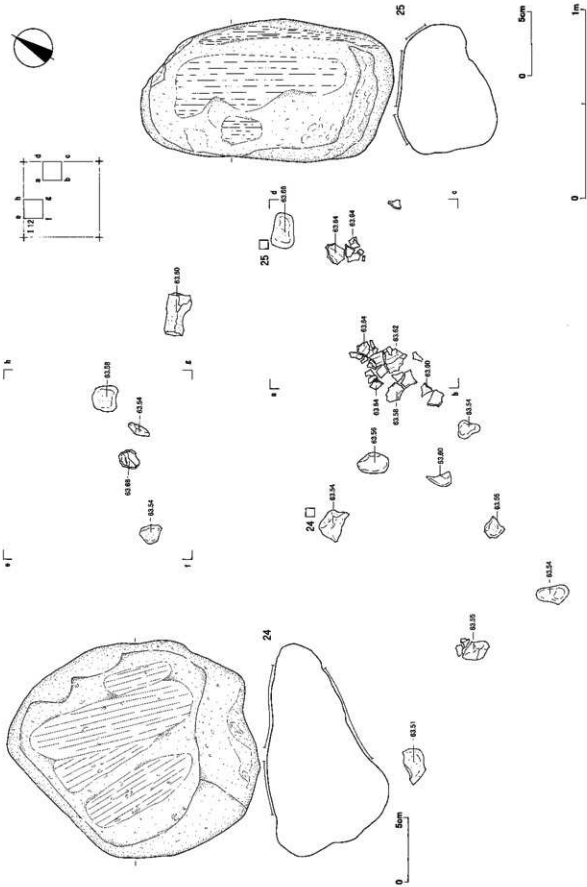


図IV-48 包含層遺物出土状況とその遺物(6)

2. (1) 包含層遺物出土状況とその遺物



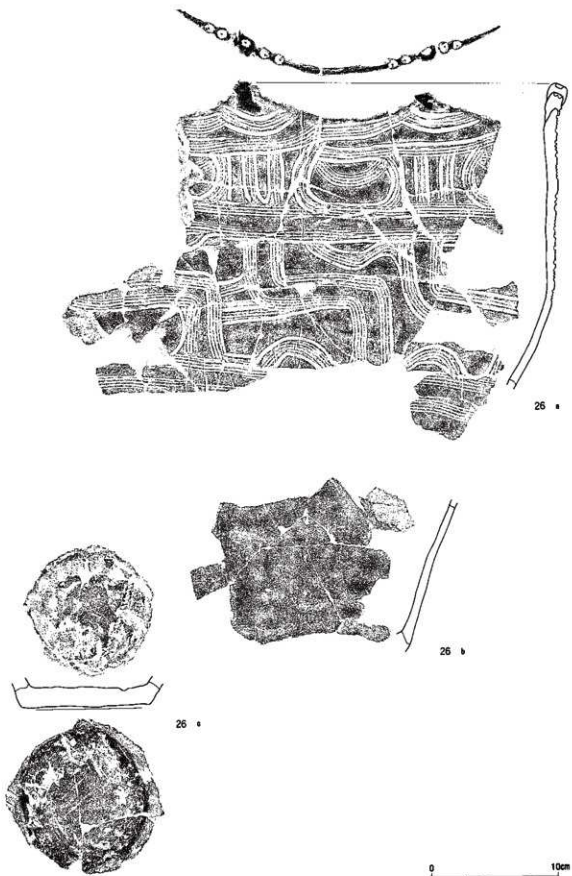
図IV-49 包含層遺物出土状況とその遺物(7)



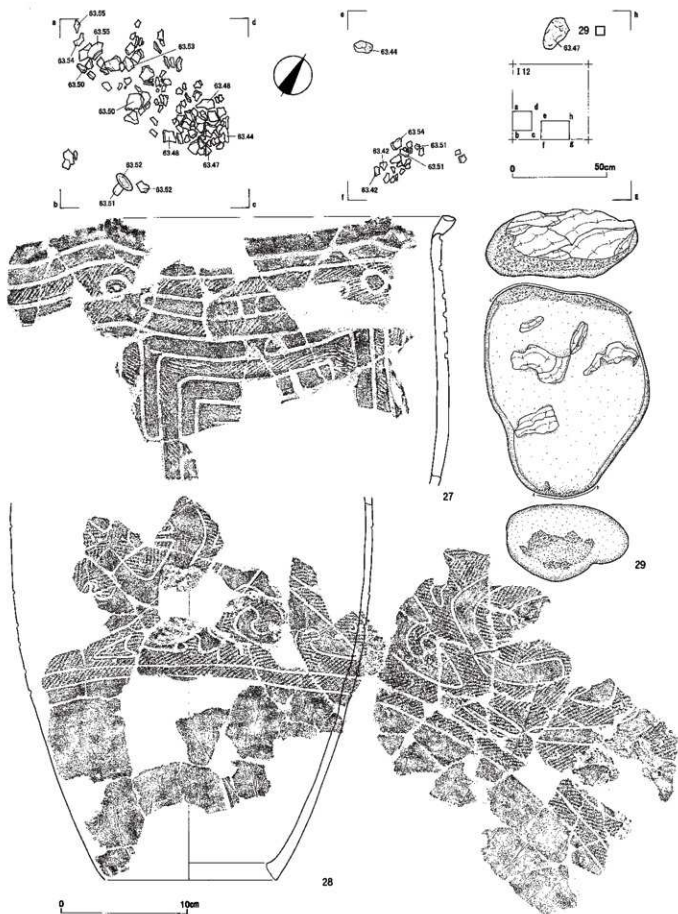
図IV-50 包含層遺物出土状況とその遺物(8)



2. (1) 包含層遺物出土状況とその遺物

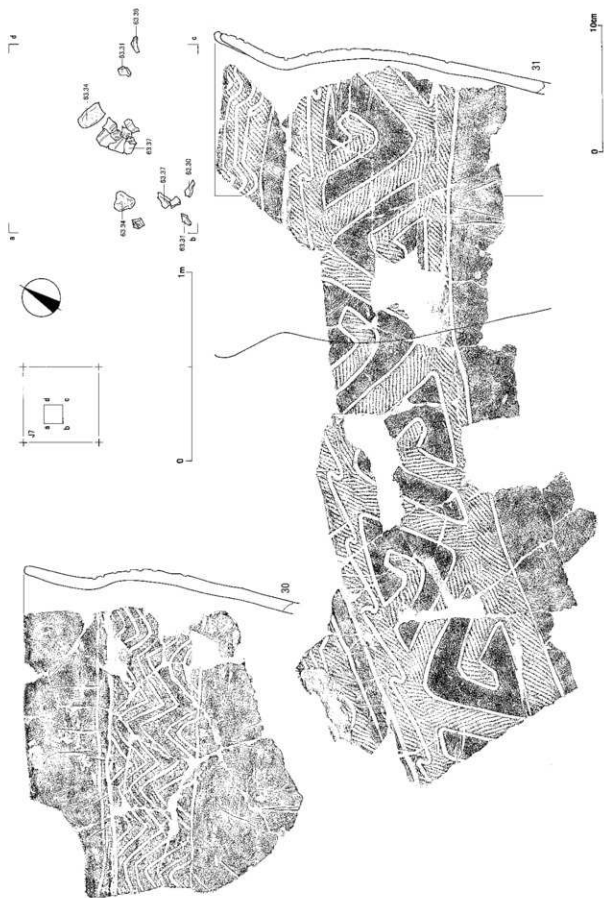


図IV-51 包含層遺物出土状況とその遺物(9)



図IV-52 包含層遺物出土状況とその遺物⑩

2. (1) 包含層遺物出土状況とその遺物



図IV-53 包含層遺物出土状況とその遺物(1)

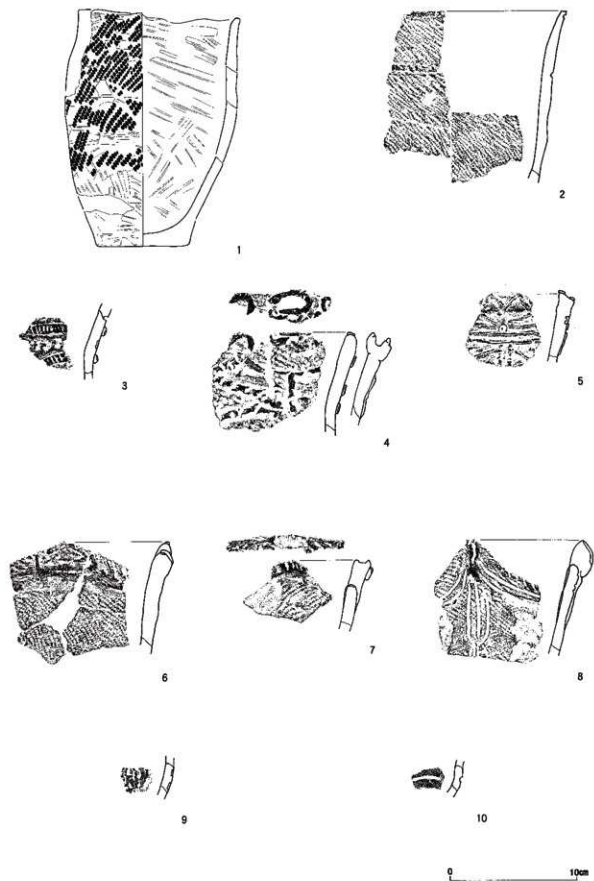
## (2) 包含層出土の土器(図IV-54~58 図版33・34)

包含層調査により、グリットで層位毎に取り上げた土器の分布を図IV-64・65に示す。Ⅲ群a類土器については、Ⅲb層からの出土がもっとも多く、分布を見ていくとH-3、H-5が位置する調査区の南西側にまとまる。

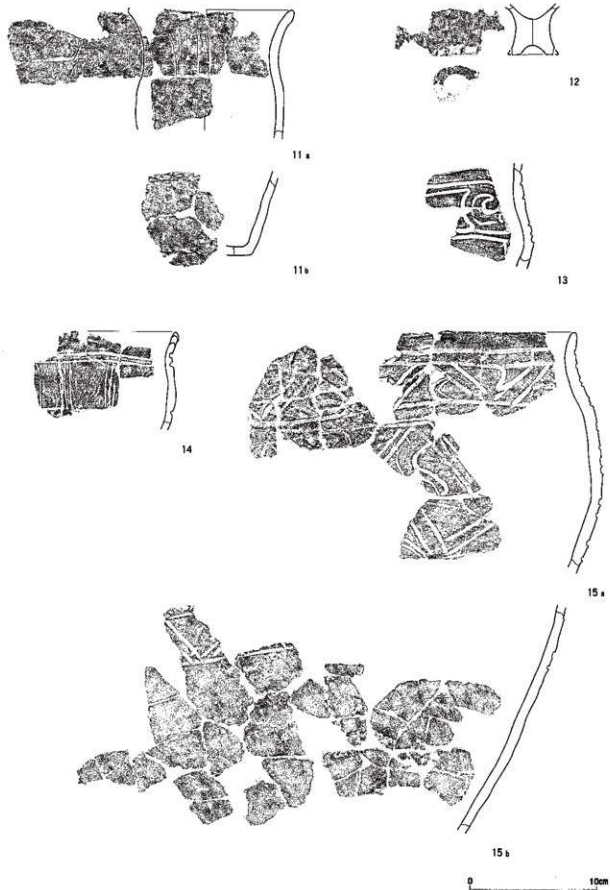
Ⅳ群a類土器の分布については、Ⅲa層が最も多く、概時期の遺構分布と重なる。また、Ⅱ'層でみられる沢地形に多く出土しており、破片等の散漫な状態のものが流れていることがわかる。Ⅲb層で取り上げたものについては、総体的にⅣ群a類のなかでも古手なのかについては整理作業において判断できなかった。

包含層出土の遺物を25点図示した。1は復元土器でⅣ群a類のもの。小形の深鉢形。口縁はあまり開かず、胴部が張り出している。2はⅡ群b類のもの。口唇に縄の圧痕が施されている。胎土には繊維を多く含む。3~8までⅢ群a類のもの。3は無文地に貼付帯が施されているもの。貼付帯上には撚糸の圧痕があり、無文地に馬蹄形圧痕文が施されている。4は結束羽状の縄文地に貼付帯が施されている。貼付帯上には縄による刻みが施されている。5は波状口縁の突起部分で、細い貼付帯上に縄の圧痕が並走するように施されている。6~8まで、波状口縁の波頂部に貼付があるもの。4は口唇、7は貼付帯上に縄の刻みが施されている。地文は斜行縄文である。8は斜行縄文地に沈線が施されている。9・10はⅤ群土器の小破片。11~25までⅣ群a類のもの。11・12は無文のもの。13~18まで沈線が施されているもの。13は図示しなかったが、渦を巻く沈線のあたりが赤褐色を呈しており、彩色されていた可能性がある。14は波状口縁のもので、波頂部に細い工具で刻みが施されている。15は無文地に沈線が施されているもの。16は波状口縁の波頂部が指頭で押されているもの。無文地に沈線が施されている。17は波状口縁で無文地に口縁と平行する沈線が施されているもの。18は胴部下半の沈線間にかすかに斜行縄文がみられる。19は縄文地に沈線が施されているもの。波状口縁で口縁がすぼまり気味で、胴部上半が張り出している。櫛目状にまでにならないが、先端が粗い工具で沈線が施されている。20も19と同様の工具により、無文地に沈線が施されている。21・22は外反する口縁で縄文地に鋸歯状の沈線が施されているもの。共に口唇上には縄文が施されている。21は胴部にカニのハサミ状になる沈線が施されている。23は乙字状の沈線、25は直線的な沈線で文様が施されている。

2. (2) 包含層出土の土器

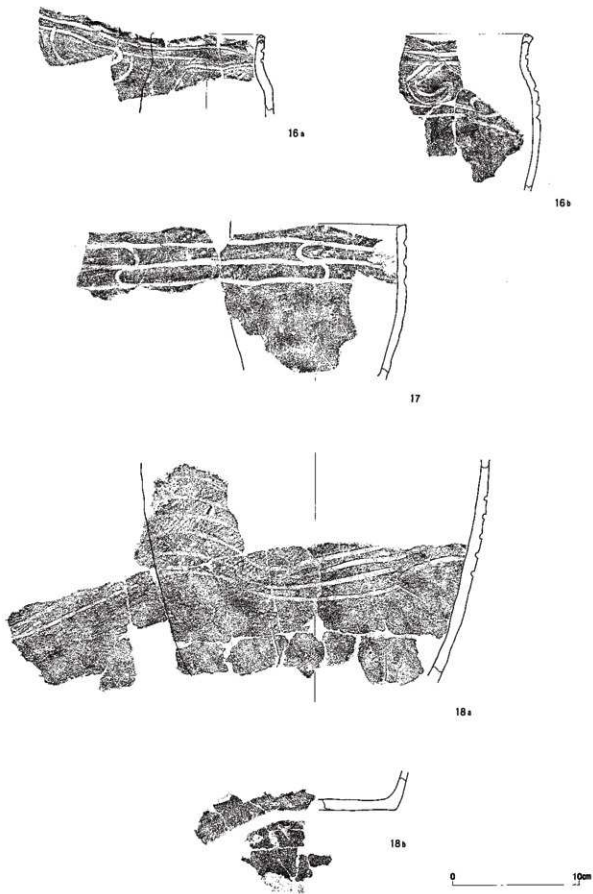


図IV-54 包含層出土の土器(1)

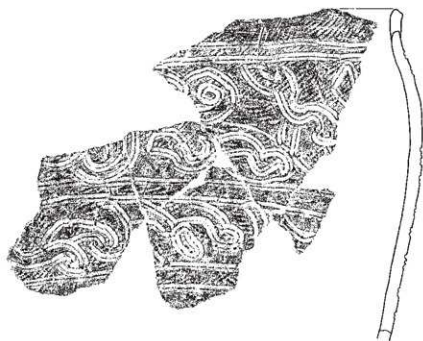


図IV-55 包含層出土の土器(2)

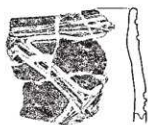
2. (2) 包含層出土の土器



図IV-56 包含層出土の土器(3)



19



20b



20a



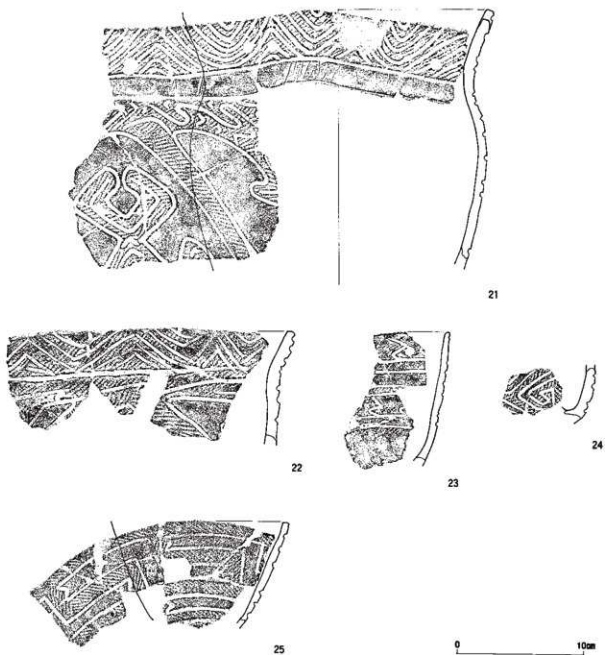
20c

0 10cm

図IV-57 包含層出土の土器(4)



2. (2) 包含層出土の土器



図IV-58 包含層出土の土器(5)

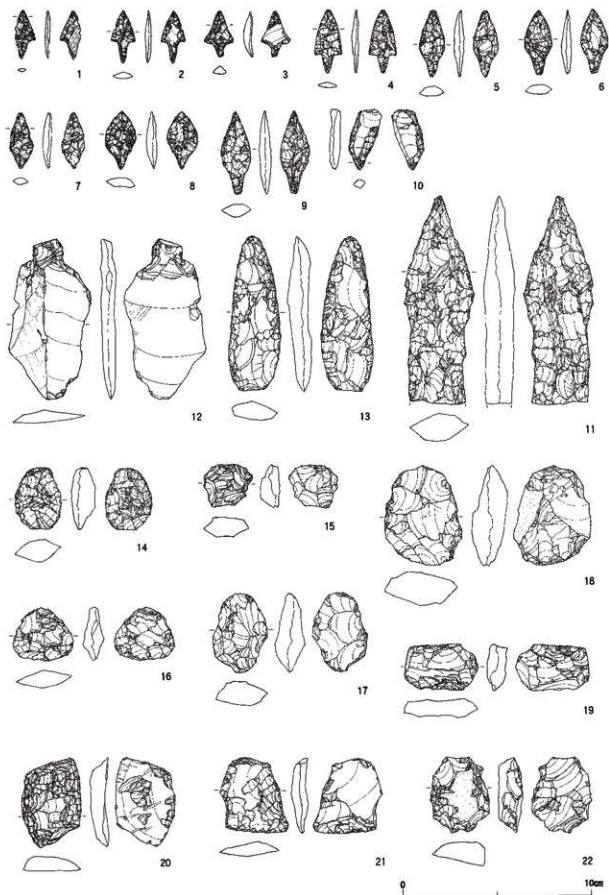
## (3) 包含層出土の石器(図IV-59~63 図版35・36)

包含層調査により、グリッドで層位毎に取り上げた石器の分布を図IV-66~70に示す。多いのがⅢa層で、フリイク、石核、スクレイパー、たたき石の順である。フリイク・石核・スクレイパーはⅡ'層でみられる沢地形と縄文時代後期前葉の遺構分布と重なる。たたき石・台石等は縄文時代後期前葉の遺構分布と重なる。

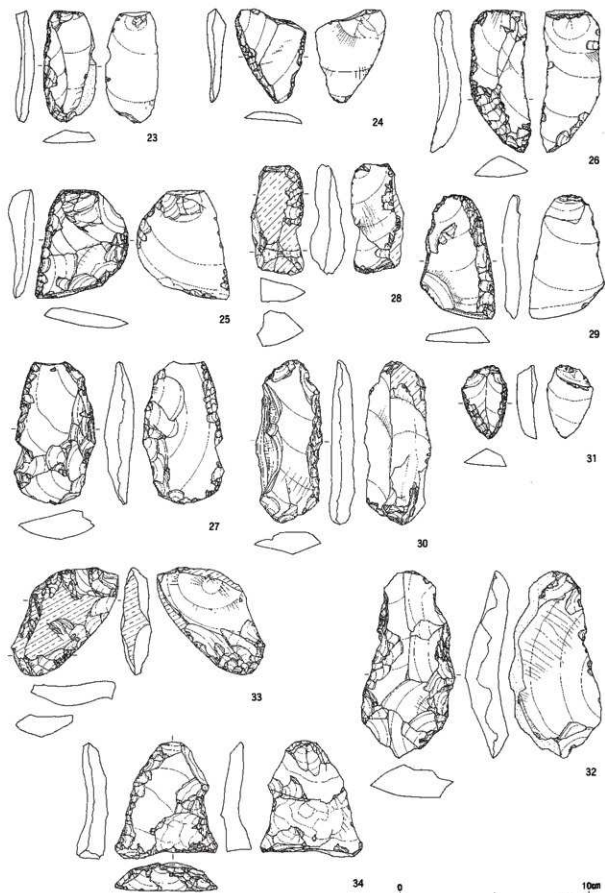
包含層出土の石器を63点図示した。1~9まで石鏃。すべて頁岩製のもの。1~8・9は有茎鏃。1~4まで基部との境が明瞭、5・6・9は菱形に近い。7・8は菱形のもの。10は石錐。剥片の両側縁を両面から調整し突出部を作り出している。頁岩製。12はつまみ付きナイフの未成品。剥片の上端に挿入する調整を加えている。頁岩製。11は黒曜石製の石槍。両面からの調整が丁寧に施されている。この遺物は19年度調査区との境、20年調査区に養生として盛られていた土から出土した。19年度調査区はオープンカット工法により工事用道路を作るため掘削され、そのときの土の一部が未調査区養生の盛土として使われたと考えられる。そのため、この石槍は矢不來9遺跡のものと判断し、包含層の遺物として扱った。13はナイフとしたもの。丁寧な両面調整が施されている。頁岩製。14~18まで両面調整石器。すべて頁岩製。14は丁寧な平坦剥離が周縁から施されている。19~37までスクレイパー。19~22まで、剥片の片面と側縁に調整が施されているもの。20がメノウ製、ほかは頁岩製である。23は縦長剥片の背面左側縁に調整がある。24~26まで、背面左側縁に二次加工があり、右側縁にもわずかに調整が加えられているもの。28・29は剥片の右側縁に調整が加えられているもの。27~34まで、縦長剥片の周縁に調整が加えられているもの。34はメノウ製、ほかは頁岩製のものである。35~37まで横長剥片のもの。両端に調整が施されている。35・36は頁岩、37がメノウ製である。38~41まで石核。すべて頁岩のもの。40には煤状のものが付着している。42~46まで石斧。42~44まで泥岩製。45・46は敲打調整の後、研磨し石斧にしているもの。共に閃緑岩製。47はすり石。閃緑岩。49~56までたたき石。49・50は縦長で扁平な礫の一端・一辺に敲き痕がある。49は砂岩、50は泥岩もしくは頁岩のもの。48は扁平な円礫の周縁に敲き痕がある。両面には平滑な擦り面がある。花崗岩。52・53は棒状礫の両端に幅広の敲き痕があるもの。共に砂岩。51は幅広の礫に3ヶ所の敲き痕がある。砂岩。54~56は円礫に敲き痕がある。54は頁岩、55・56はメノウである。57は砥石。両面に幅広の砥面がある。砂岩。58~63まで扁平打製石器。58は扁平で縦長の礫両端と一辺を打ち欠いている。砂岩。59は礫片の縁辺に調整が加えられている。泥岩。60は未成品。扁平な礫の両端に打ち欠きを施したものの。凝灰岩。61~63まで扁平な礫の周縁に打ち欠きを施しているもの。擦り面を持つ。61・63は凝灰岩、62は砂岩。

(袖岡)

2. (3) 包含層出土の石器

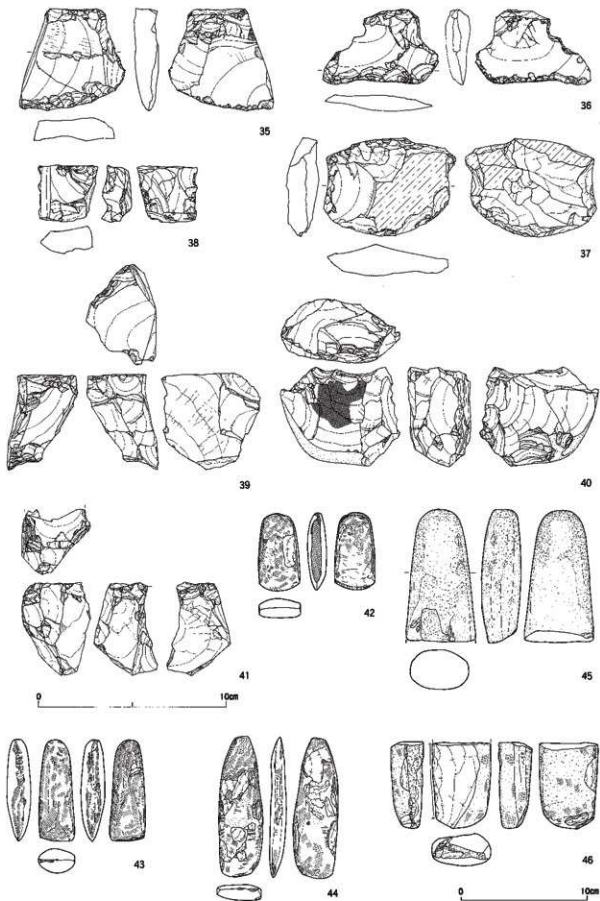


図IV-59 包含層出土の石器(1)

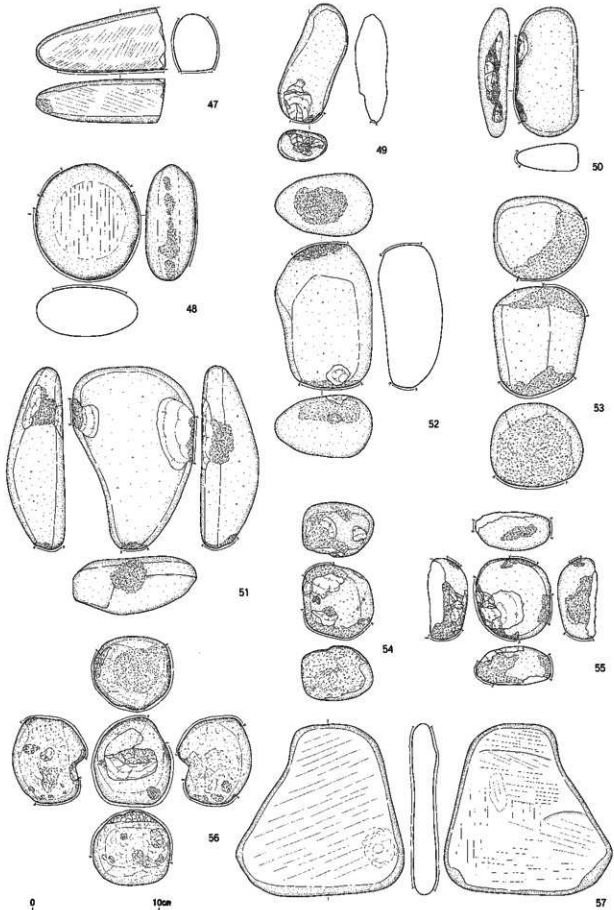


図IV-60 包含層出土の石器(2)

2. (3) 包含層出土の石器

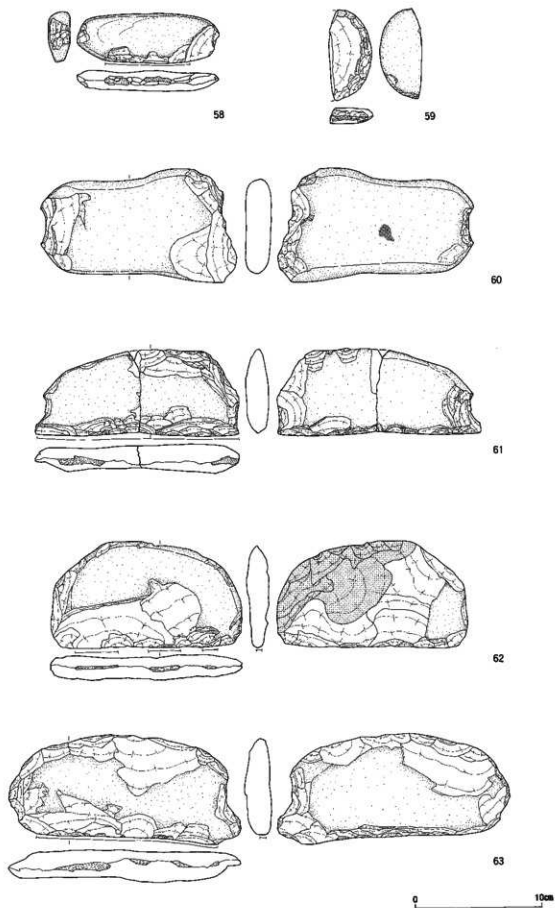


図IV-61 包含層出土の石器(3)



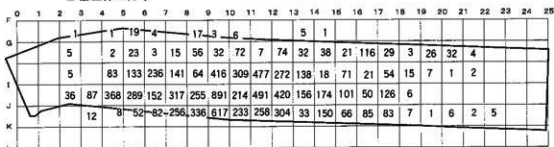
図IV-62 包含層出土の石器(4)

2. (3) 包含層出土の石器

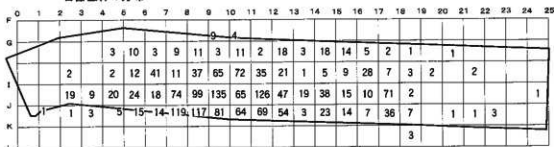


図IV-63 包含層出土の石器(5)

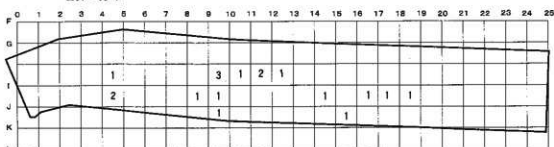
土器全体の分布



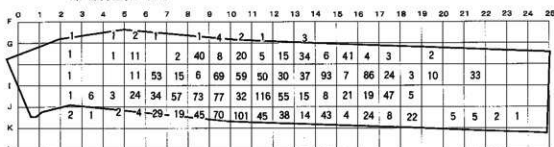
石器全体の分布



石斧の分布



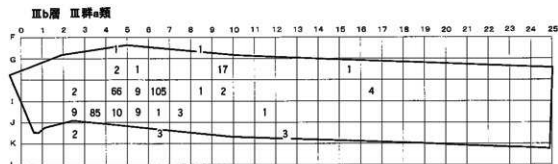
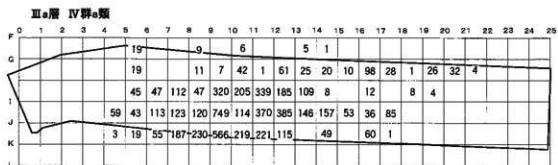
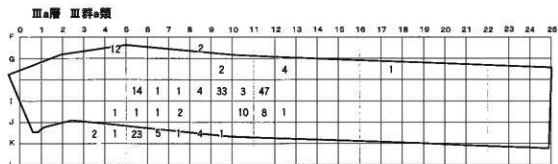
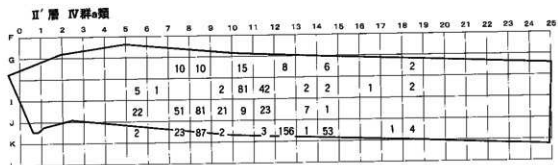
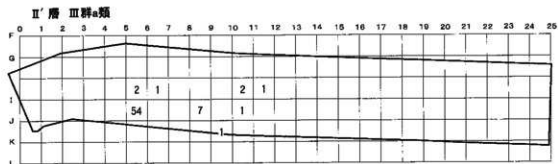
礫・礫片全体の分布



図IV-64 包含層遺物の分布(1)



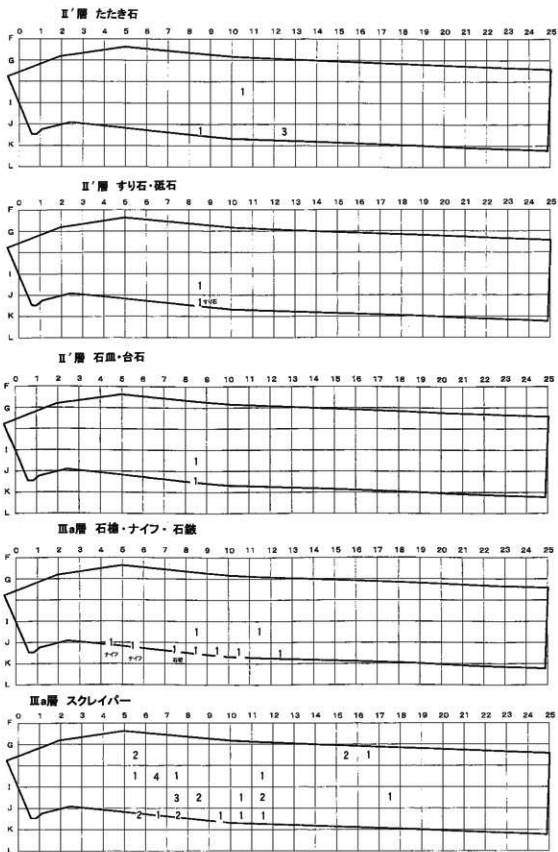
2. 包含層出土の遺物



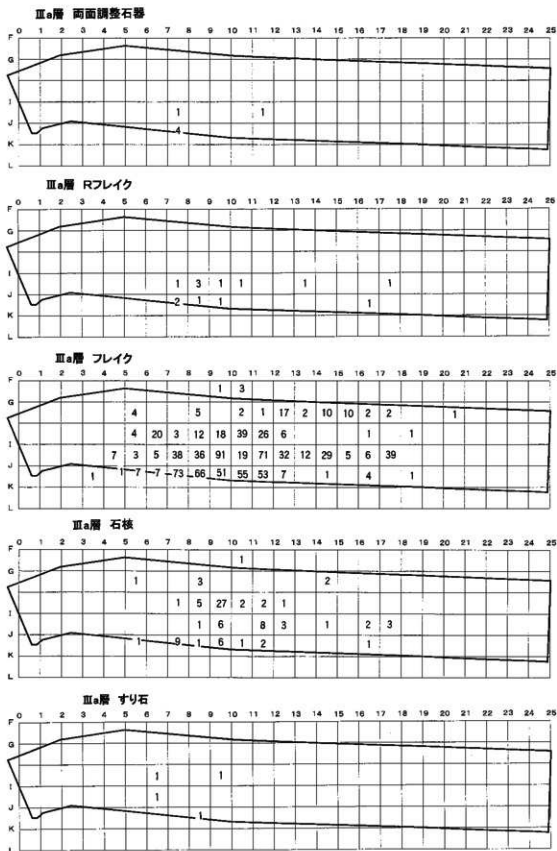
図IV-65 包含層遺物の分布(2)



2. 包含層出土の遺物

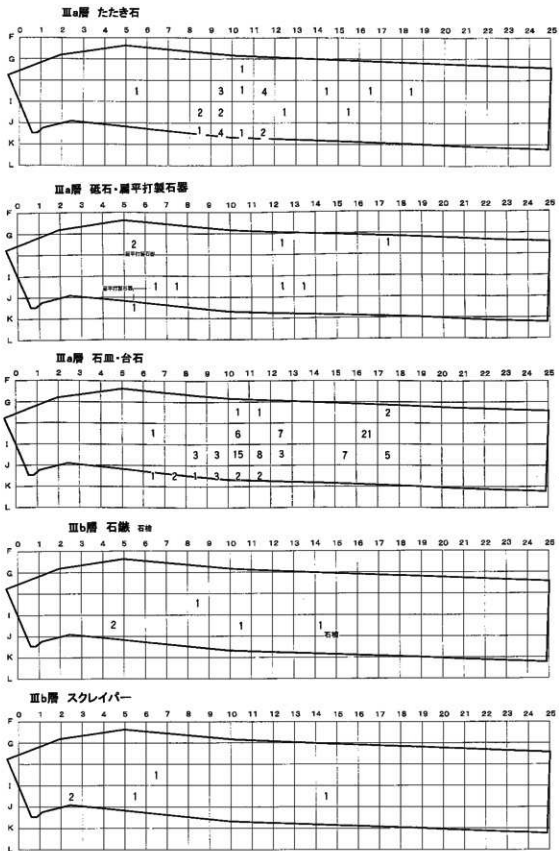


図IV-67 包含層遺物の分布(4)

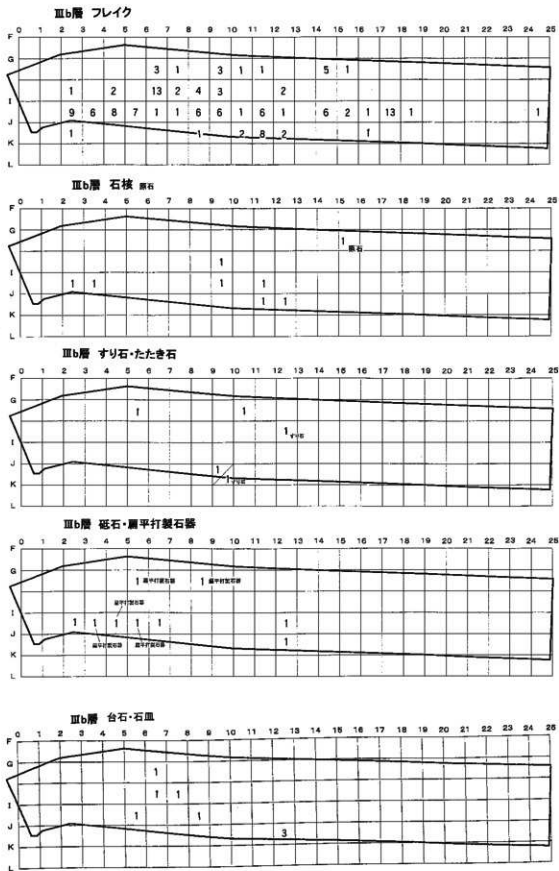


図IV-68 包含層遺物の分布5)

2. 包含層出土の遺物



図IV-69 包含層遺物の分布(6)



図IV-70 包含層遺物の分布(7)



## V章 矢不來10遺跡

### 概要

平成19年度の調査では、遺構は、土坑8基、Tピット1基、焼土1ヵ所を検出した。土坑は縄文時代早期後半のものが調査区南西側にまとまっており、周辺の包含層からも同時期の遺物が出土している。縄文時代後期前葉の土坑は調査区中央でみられる。Tピットは過去の調査で検出したTP-1から60m以上離れ、その長軸方向は異なっている。包含層での遺物出土状況は、縄文時代後期前葉のものがほとんどである。遺物は遺構・包含層あわせて223点出土した。

### 1. 遺構とその出土遺物

#### (1) 土坑

##### P-1 (図V-2 図版39)

位置・立地：G-23 平成19年度調査区南西側

確認・調査：V層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを検出した。平面形は楕円形である。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。周辺にはP-2～4があり、関連する可能性がある。

覆土：しまりがなから、自然堆積の可能性がある。

遺物出土状況：出土しなかった。

時期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代早期後半の可能性がある。

##### P-2 (図V-2 図版39)

位置・立地：F-22 平成19年度調査区南西側

確認・調査：V層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを検出した。平面形は円形である。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。周辺にはP-1・3・4があり、関連する可能性がある。

覆土：しまりがなから、自然堆積の可能性がある。

遺物出土状況：出土しなかった。

時期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代早期の可能性がある。

##### P-3 (図V-2 図版39)

位置・立地：F-23 平成19年度調査区南西側

確認・調査：V層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを検出した。平面形は円形である。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。周辺にはP-1・2・4があり、関連する可能性がある。

覆土：しまりがなから、自然堆積の可能性がある。

遺物出土状況：出土しなかった。

時期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代早期後半の可能性がある。

##### P-4 (図V-2 図版40)

位置・立地：F-23 平成19年度調査区南西側

確認・調査：V層上面を精査中に暗褐色土の落ち込みを検出した。平面形は楕円形である。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。周辺にはP-1～3があり、関連する可能性がある。

覆土：しまりがなから、自然堆積の可能性がある。

遺物出土状況：出土しなかった。



## 1. 遺構とその出土遺物

時期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代早期後半の可能性がある。

### P-5 (図V-3 図版40)

位置・立地：F-47 平成19年度調査区中央

確認・調査：V層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。平面形は円形である。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。周辺にはP-6があり、関連する可能性がある。

覆土：レンズ状の堆積でしまりがなから、自然堆積である。

遺物出土状況：出土しなかった。

時期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。

### P-6 (図V-3 図版40)

位置・立地：F-47 平成19年度調査区中央

確認・調査：V層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。平面形は楕円形である。坑底はやや丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。周辺にはP-5があり、関連する可能性がある。

覆土：レンズ状の堆積でしまりがなから、自然堆積である。

遺物出土状況：出土しなかった。

時期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。

### P-7 (図V-3 図版40・41)

位置・立地：F-42 平成19年度調査区中央

確認・調査：V層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。平面形は楕円形である。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。周辺にはP-8があり、関連する可能性がある。

覆土：レンズ状の堆積でしまりがなから、自然堆積である。

遺物出土状況：遺物は周辺からの流れ込みである。

時期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。

### P-8 (図V-3 図版41)

位置・立地：E・F-42・43 平成19年度調査区中央

確認・調査：V層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。平面形は楕円形である。坑底はやや丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。周辺にはP-7があり、関連する可能性がある。

覆土：レンズ状の堆積でしまりがなから、自然堆積である。

遺物出土状況：出土しなかった。

時期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。

### TP-2 (図V-4 図版41)

位置・立地：E・F-59 平成19年度調査区北東側

確認・調査：V層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。平面形は溝状である。坑底は平坦で、短軸側の壁はほぼ垂直、長軸側は少しオーバーハングして立ち上がる。

覆土：レンズ状の堆積でしまりがなから、自然堆積である。

遺物出土状況：遺物は周辺からの流れ込みである。

時期：検出状況と遺物出土状況から縄文時代中期前半から後期前葉の可能性がある。

## (2) 焼土

## F-1 (図V-2 図版41)

位置・立地：F-24 平成19年度調査区中央

確認・調査：Ⅲ層中位を調査中に焼土を検出した。焼成部分の検出状況から、その場で焚かれた焼土である。

覆 土：炭化物を含む灰層と下限が漸移的な焼成部分を検出した。

遺物出土状況：出土しなかった。

時 期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。(佐藤)

## (3) 遺構出土の遺物

## TP-1 (図V-4 1)

1は台石片。扁平な礫の表面に平滑な擦り面がある。流紋岩。

## 2. 包含層出土の遺物

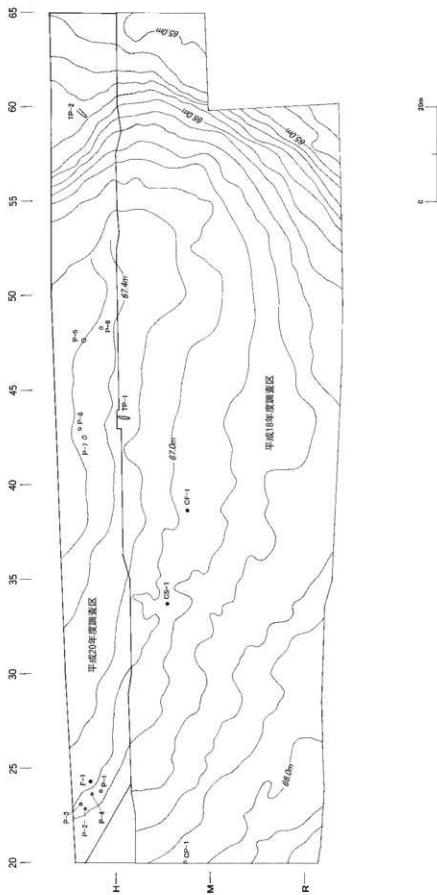
包含層出土の遺物は213点出土している。内訳は土器119点、剥片石器等66点、磨製石斧2点、礫石器類3点、礫・礫片が23点出土している。土器ではⅢ群a類10点、Ⅳ群a類109点である。剥片石器等ではフレイクが57点出土である。遺物の分布は調査区の中央より南～南西にかけ分布が見られる。

## (1) 土 器 (図V-5 図版42)

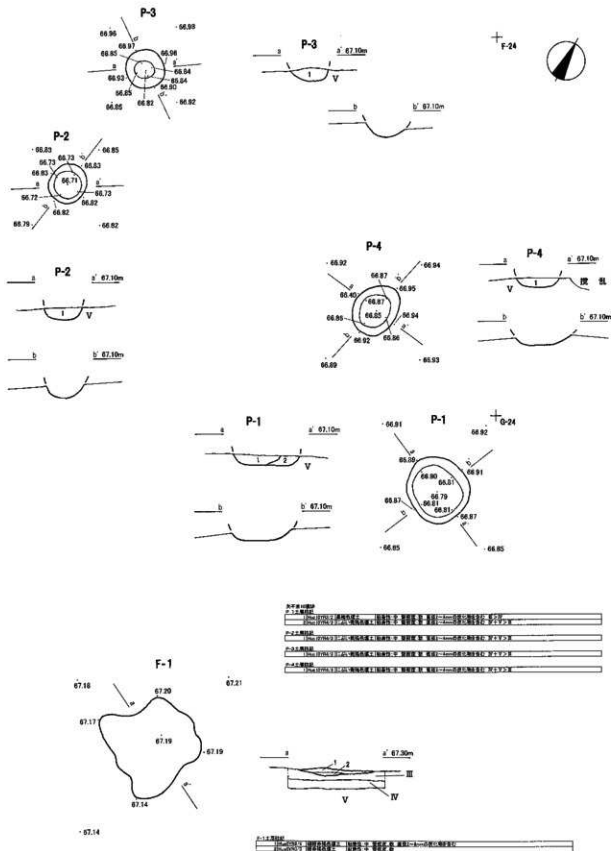
1はⅡ群b類。口縁が開き気味で、口頸部文様帯と体部の境目は屈曲して張り出している。口頸部文様帯には捻糸の圧痕による文様が施されている。胎土には繊維が多く含まれている。2はⅣ群a類。折り返し口縁のものである。

## (2) 石 器 (図V-6 図版42)

11点を図示した。1～9まで剥片石器で、すべて頁岩製である。1は石鉄。菱形に近い。剥片の両面、打点のほうから調整を施し先端部を作り出している。最大幅のあるところから下端にかけ、両面縁辺のみの調整となっている。2は石槍とした。粗い両面調整によるものである。3はナイフとした。図で上面としたところが欠損しているものと思われ、つまみ付きナイフであったことが推測される。両面には丁寧な二次加工が施されている。5・6はつまみ付きナイフ。共に背面に調整が施されている。5は剥片の中心に稜があったとみられ、両側縁から平行調整されている。6は左側縁が平行調整で覆面からも軽微な二次加工がみられる。右側縁にはやや急角度の調整が施されている。7～9までスクレイパー。いずれも腹面からの調整が見られるため、図は腹面を正面とした。7は腹面の左側縁に調整が施されている。背面の左側縁と下端にも粗工な調整がみられる。8は腹面の両側縁と下端、背面の左側縁と下端に調整が施されている。9は腹面の右側縁に調整がある。10は石斧の刃部破片。泥岩製。11は砥石。砂岩のもの。(袖岡)

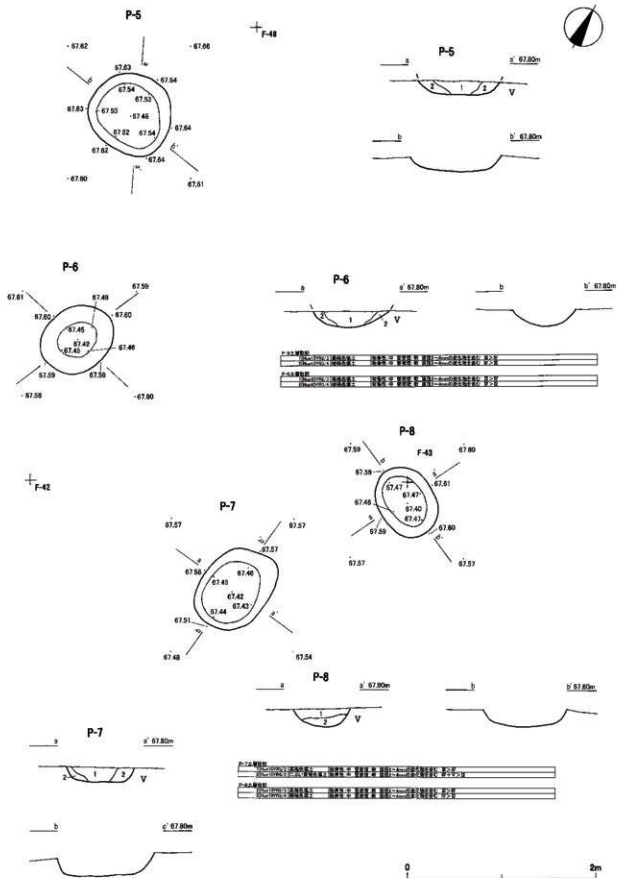


図V-1 矢不來10遺跡 遺構位置図



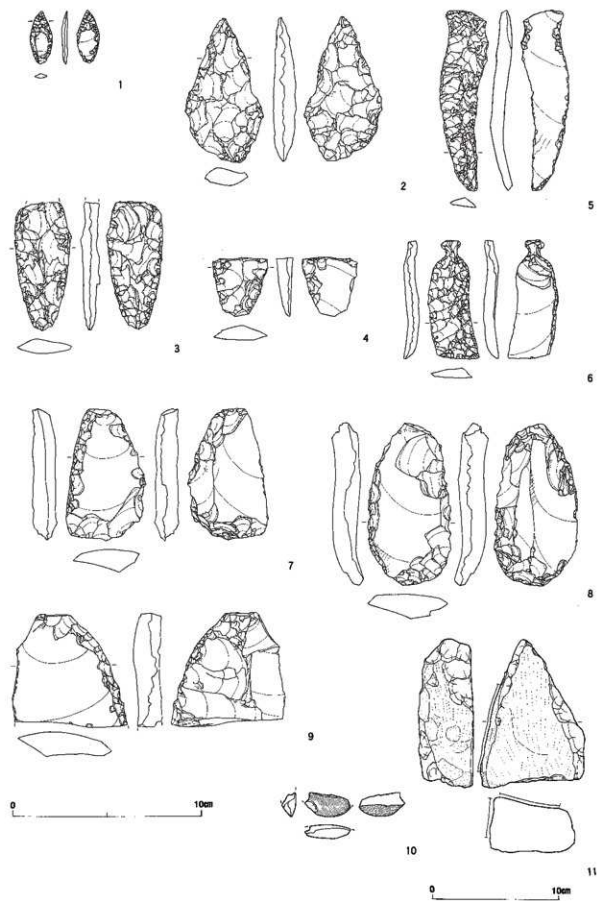
図V-2 P-2・3・4 F-1

1. (1) 土坑

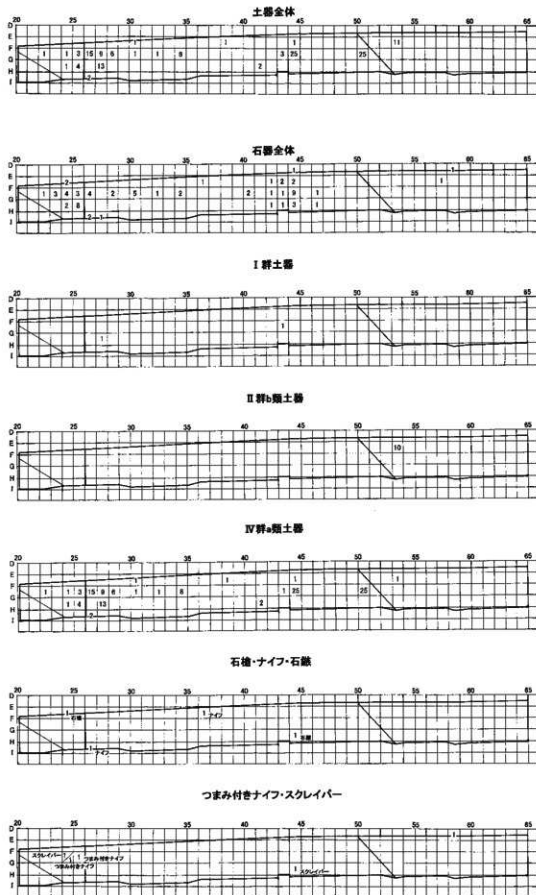




2. 包含層出土の遺物



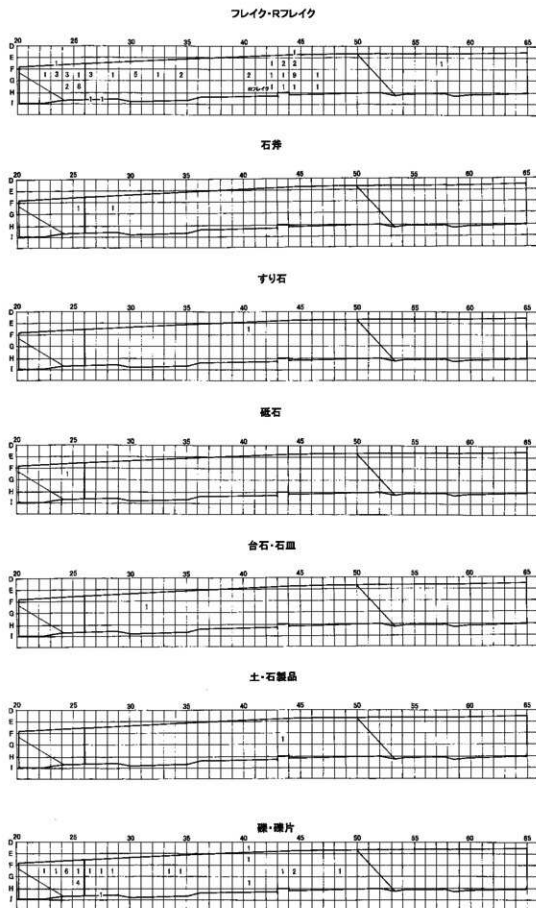
図V-6 包含層出土の石器



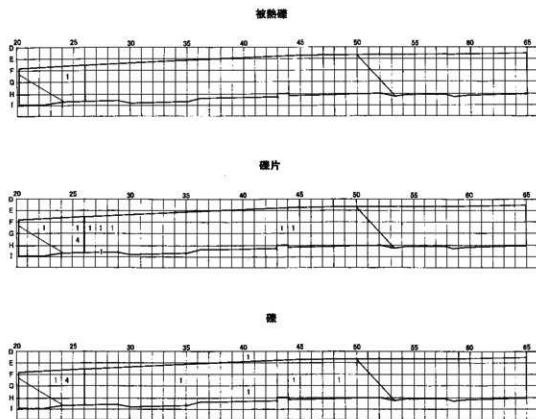
図V-7 矢不來10遺跡 包含層遺物の分布(1)



2. 包含層出土の遺物



図V-8 矢不來10遺跡 包含層遺物の分布(2)



図V-9 矢不來10遺跡 包含層遺物の分布(3)



## VI章 矢不來11遺跡

### 概要

平成21年度の調査では、遺構は土坑2基、Tピット2基、焼土6ヵ所、集石1ヵ所、遺物集中1ヵ所を検出した。縄文時代後期前葉の可能性が高いものが多い。TP-1は掘り込みの途中でやめた可能性がある。遺物集中は土器・石器と大型の礫がまとまって出土し、矢不來9遺跡の遺物集中と同様の出土傾向である。包含層の遺物出土状況は、縄文時代後期前葉のものがほとんどである。遺構・遺物の分布状況から、調査区外の北西側の山側にも遺構・遺物の分布は続いていることが想定できる。遺物は遺構・包含層あわせて6,012点出土した。

### 1. 遺構とその出土遺物

#### (1) 土坑

##### P-1 (図VI-2 図版45)

位置・立地：D-E-21・22 平成19年度調査区南西側

確認・調査：Ⅲ層下位を調査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。平面形は楕円形である。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

覆土：レンズ状の堆積でしまりがいいことから、自然堆積の可能性はある。

遺物出土状況：出土しなかった。

時期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性はある。

##### P-2 (図VI-2 図版45)

位置・立地：D-23 平成19年度調査区南西側

確認・調査：V層上面を精査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。平面形は楕円形である。坑底はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

覆土：レンズ状の堆積でしまりがいいことから、自然堆積の可能性はある。

遺物出土状況：出土しなかった。

時期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性はある。 (佐藤)

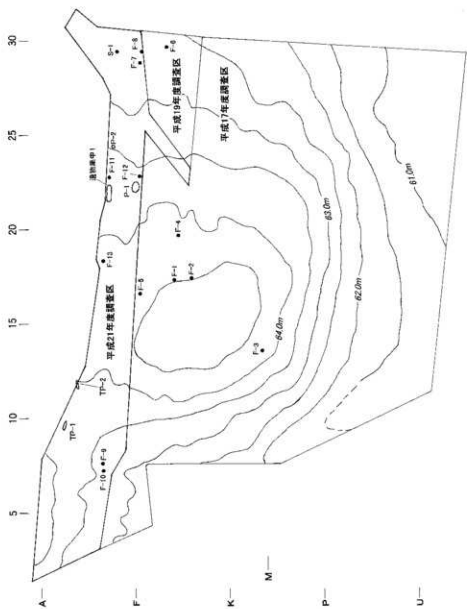
##### TP-1 (図VI-2 図版45)

位置・立地：標高64m付近の平坦面

確認・調査：IV層下面～V層上面で黒色土入り込みとして検出した。覆土上部はⅢ層主体の流入である。覆土下部はV層土も混在する。壁面はV層部分がずり落ちるよう崩落する。坑底は長軸東側に向かってより深くなる。壁面は坑底からほぼ垂直に立ち上がる。検出面より上位から掘り込まれたと考える。形状からTピットと判断した。開口部の大きさに比べて深さが浅いのは、V層中の礫が密だった為掘り込みを中断した可能性がある。

遺物出土状況：坑底からは人頭大から拳大の礫が散点的に出土した。抜き取りが不可能であり、これらの礫はV層中のものとする。覆土1層から礫片を一点取り上げた。

時期：検出状況から縄文時代の遺構と考える。



図VI-1 矢不來川遺跡 遺構位置図

## TP-2 (図VI-3 図版46)

位置・立地：B-11・12 標高64m付近の平坦面

確認・調査：V層上面で黒色土の入り込みとして検出した。覆土はⅢ層主体の流入である。覆土下部の一部にはV層の流入層が薄く入り込む。壁面はV層部分がずり落ちるよう崩落する。坑底はほぼ平坦である。壁面は坑底からの立ち上がりは垂直だが、そこから開口部にかけてはいびつで、ところどころオーバーハングする。検出面より上位から掘り込まれたと考える。形状からTビットと判断した。遺物出土状況：遺物の出土は無かった。

時期：検出状況から縄文時代の遺構と考える。

(大森司)

## (2) 焼土

## F-7 (図VI-4 図版46)

位置・立地：E-29 平成19年度調査区南西端

確認・調査：Ⅲ層中位を調査中に焼土を検出した。焼成部分の検出状況から、その場で焚かれた焼土である。

覆土：炭化物を含む灰層と下限が漸移的な焼成部分を検出した。

遺物出土状況：出土しなかった。

時期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。

## F-8 (図VI-4 図版46)

位置・立地：E-28 平成19年度調査区南西端

確認・調査：Ⅲ層中位を調査中に焼土を検出した。覆土の状況から、廃棄された焼土である。

覆土：焼土粒と炭化物粒を含み、下限は判然としている。

遺物出土状況：出土しなかった。

時期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性がある。

(佐藤)

## F-9 (図VI-4 図版46)

位置・立地：D・E-7 遺構確認範囲

確認・調査：重機による遺構確認作業において、Ⅲ層から暗赤褐色土の広がりを検出した。周辺を精査し、半截をおこなったところ、明赤褐色に被熱したところを確認し焼土と認定した。

時期：焼土から時期を特定できる遺物は検出しなかったが、周辺の遺物から縄文時代後期前葉と推測する。

## F-10 (図VI-4 図版46)

位置・立地：D-7 遺構確認範囲

確認・調査：F-9の調査時に検出した。半截をおこなったところ、暗赤褐色土の堆積を検出した。

F-9の上面と同様の土色を呈していたため、焼土と判断した。

時期：焼土から時期を特定できる遺物は検出しなかったが、周辺の遺物から縄文時代後期前葉と推測する。

(袖岡)

## F-11 (図VI-4 図版47)

位置・立地：D-22 標高63.5m付近の平坦面

確認・調査：Ⅲ層中位で赤味をおびた褐色の土を検出した。土層断面を観察したところその部分のⅢ層が木根の存在を示すかのような不明瞭な断面形に入り込み、そこに赤味がかった褐色の土がたまるように入り込んでいた。中央部分は明るく、橙色味をおびていた。土中の鉄分・マンガン等が水の作

## 1. (2) 焼土・(3) 集石・(4)遺物集中1

用で酸化した状況も考えられた。しかし明瞭な根拠が無かったため、焼土として記録した。焼けたものであったとしても人為的なものか、自然の営力によるものかは不明である。人為的なものであるとすれば、検出状況と土層断面から焼成面は検出面より上だが、ほぼ同じであると考え  
遺物出土状況 焼土検出面から頁岩のフレイクが1点、焼土とした土の直下からIV群a類土器が出土している。

時 期：人為的なものであれば、検出状況から縄文時代、特に遺物出土状況から後期前葉の可能性はある。

### F-12 (図VI-4 図版47)

位置・立地：F-22 標高63.5m付近の平坦面

確認・調査：IV層上面で赤味をおびた褐色の土を検出した。土層断面を観察したところその部分のIV層が木根の存在を示すかのような不明瞭な断面形に入り込み、そこに赤味がかかった褐色の土がたまるように入り込んでいた。中央部分はより明るい赤味をおびていた。土中の鉄分・マンガン等が水の作用で酸化した状況も考えられた。しかし明瞭な根拠が無かったため、焼土として記録した。焼けたものであったとしても人為的なものか、自然の営力によるものかは不明である。人為的なものであるとすれば、検出状況と土層断面から焼成面は検出面より上だが、ほぼ同じであると考え

遺物出土状況：遺物の出土は無かった。

時 期：人為的なものであれば、検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代の可能性が高い。  
(大泰司)

### F-13 (図VI-5 図版47)

位置・立地：E-28 平成19年度調査区南西端

確認・調査：Ⅲ層中位を調査中に焼土を検出した。焼成部分の検出状況から、その場で焚かれた焼土である。

覆 土：炭化物を含む灰層と下限が漸移的な焼成部分を検出した。

遺物出土状況：遺物は周辺に散在する。

時 期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性はある。  
(佐藤)

## (3) 集石

### S-1 (図VI-6 図版47)

位置・立地：D・E-29 平成19年度調査区南西端

確認・調査：Ⅲ層中位を調査中に礫の集中を検出した。礫は円礫で、被熱し破損しているものが多い。

遺物出土状況：狭い範囲にまとまっている。取り上げは2回に分けて位置を記録し取り上げた。

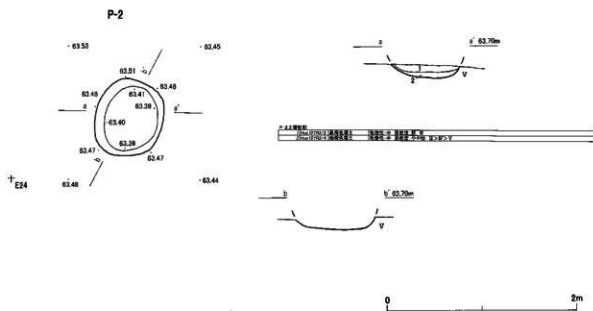
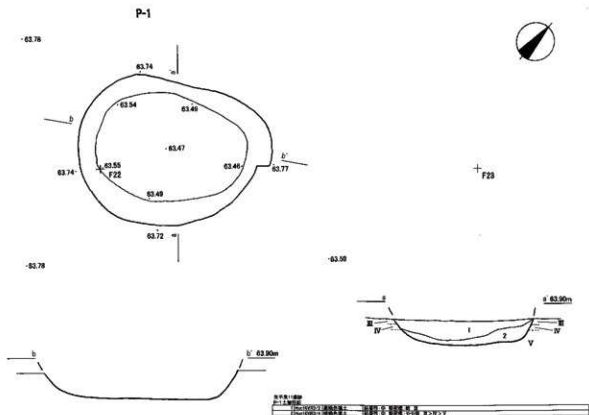
時 期：検出状況と周辺の遺物出土状況から縄文時代後期前葉の可能性はある。  
(佐藤)

## (4) 遺物集中

### 遺物集中1 (図VI-7 図版47)

位置・立地：D-19・20 標高64m付近の平坦面

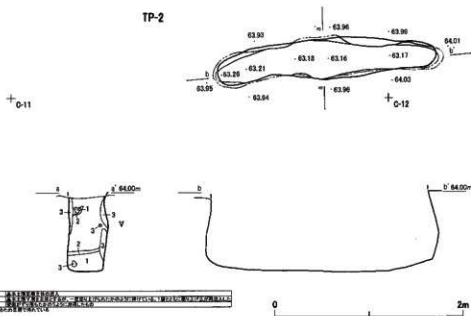
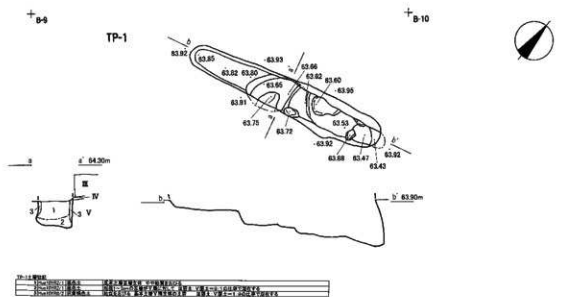
確認・調査：表土除去時、大型の礫を2点 (No3・4) のまとまりを検出した。周囲の包含層Ⅲ層について、遺物を残して掘り下げた。するとD-19・20区内で、検出された人頭大以上の礫は5点 (No1～4・6) となった。このふたつの調査区は、今年度の調査範囲内において、比較的まとまった遺物の出土が確認された。そこで大型礫5点を主体とした遺物集中1として取り上げを行ったものである。



VI-2 P-1・2

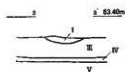
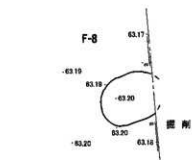


1. (土)坑

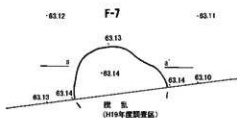


圖VI-3 TP-1 · 2

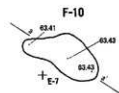
+ F29



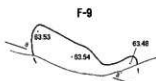
F-8 断面									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10



F-7 断面									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10



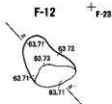
F-10 断面									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10



F-9 断面									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10



+ E-23



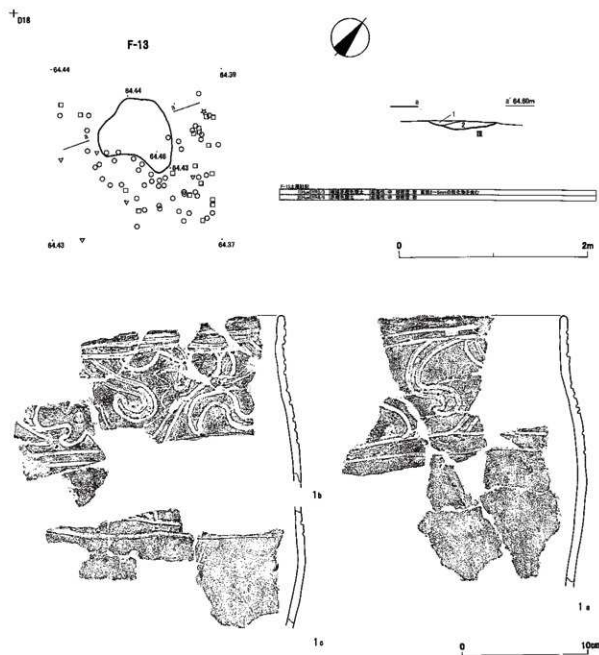
F-12 断面									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

F-12 断面									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

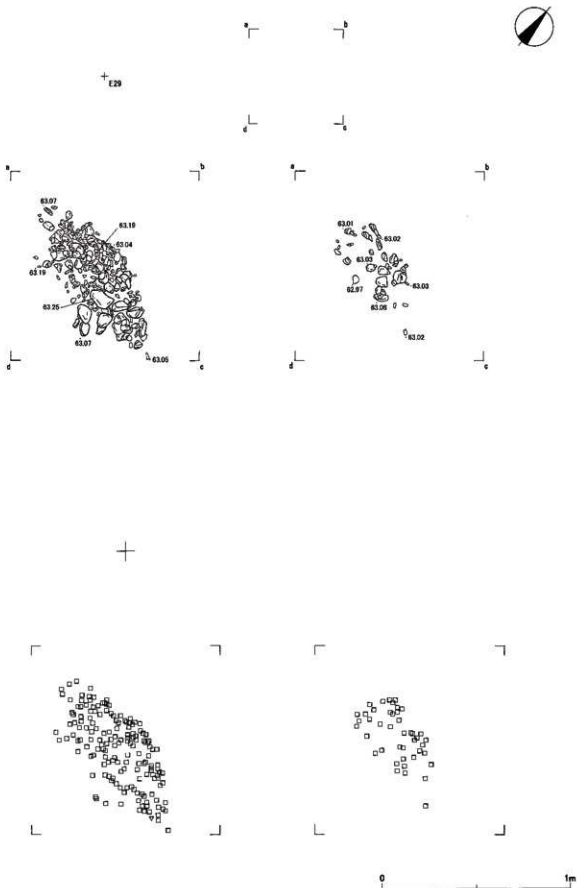


図VI-4 F-7・8・9・10

1. (2) 煨土

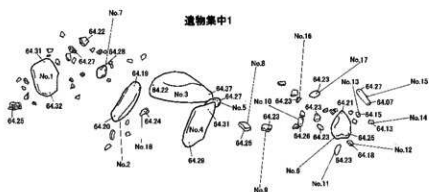


図VI-5 F-13とその出土遺物

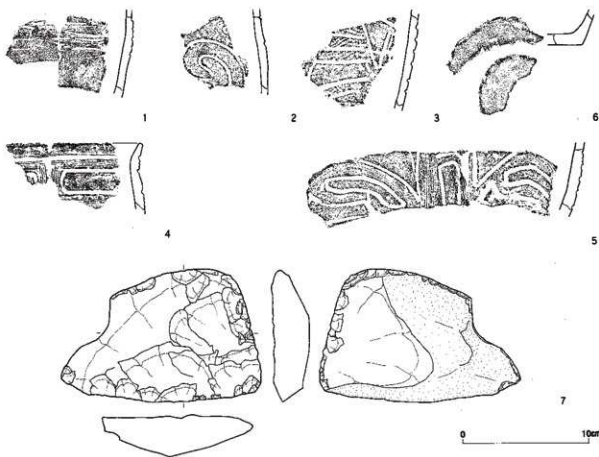


図VI-6 S-1

+  
D-20



+  
E-20



図VI-7 遺物集中1とその遺物

遺物出土状況：拳大以上の礫18点についてNo.1～18と位置を明記して取り上げ、他は調査区毎に取り上げた。遺物はⅢ層上面からⅢ層中位までのおよそ0.2mの以内の垂直分布を示しており、Ⅳ層にまで至るものはない。遺物集中の平面的な範囲は3.90×1.10mに収まる。位置を明記して取り上げたものの内訳は、No.1～4・7・11・15・17は礫、No.5・8は礫片、No.6は台石、No.9は扁平打製石器、No.10は石斧、No.12～14・16・18は頁岩のフレイクであった。No.2・4・8は被熱礫であった。調査区別にあげたものの内訳は、D-19区で土器が117点、礫が6点、礫片が6点、頁岩フレイクが8点である。D-20区で土器が34点、礫が2点、礫片が4点、頁岩フレイクが2点である。土器破片は沈線文様が入ったものについては大津式が目立つ。

時期 共存する土器から、縄文時代後期前葉の可能性がある。

(大森司)

#### 5) 遺構出土の遺物

##### F-13 (図VI-5 1 図版48)

1は深鉢形のもの。平縁で口唇は角形、外反はなく、胴部で張り出し、底部へ向けすばまる器形である。無文地で、口唇直下と張り出す胴部には2条の沈線が廻らされ文様帯が区画されている。このあいだに曲線を描く沈線が施されている。胎土に砂礫を含むが、内外面の調整は丁寧で、焼成は良く堅い。

##### S-1 (図VI-6)

たたき石としたもの19点(2954.2g)、フレイク1点(5.2g)、礫55点(4682.9g)、礫片149点(8692.8g)出土している。S-1でたたき石と分類したものについては礫の一端が軽微につぶれているもので、掲載はしていない。泥岩の垂円～円礫の礫片・礫等が主体である。

##### 遺物集中1 (図VI-7 1～6 図版48)

1～6までⅣ群a類土器。1は深鉢形土器の胴部破片。わずかに張り出しを持ち、無文地に沈線が施されている。3は縄文地に直線的な沈線を施し磨消によって文様を区画している。4・5は無文地に沈線と櫛目状工具によって文様が施されている。6は無文の底部。7は扁平打製石器(取り上げNo.9)。流紋岩の扁平な礫片の縁辺に打ち欠きを施している。

(楢岡)

## 2. 包含層出土の遺物

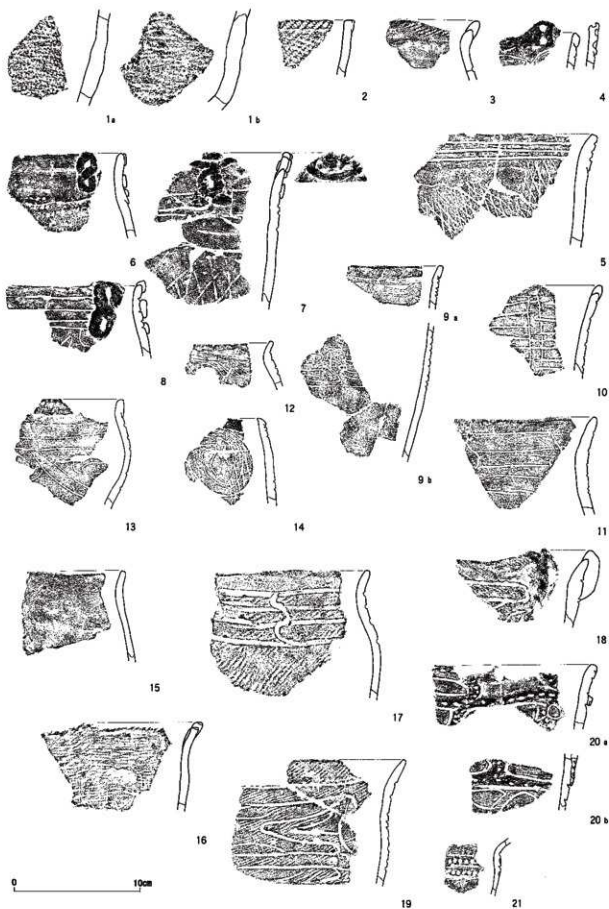
包含層からは遺物が4,462点出土している。内訳は土器が4,521点、剥片石器等783点、磨製石斧4点、礫石器等36点、礫・礫片118点である。土器はIV群a類のもの4,509点、I群b類8点、III群のものが4点である。剥片石器類ではフレイクが708点出土しており、石鏃、スクレイパーが10点ずつ出土している。土製品としたものは焼成粘土であり図示していない。礫石器はたたき石が目立ち、20点出土している。分布はいずれも調査区の中央より北～北東にかけみられる。

### (1) 土器(図VI-8 図版49)

1がII群b類、2～21がIV群a類のものである。1は土器表面に撚糸圧痕文が施されている。胎土には砂礫と繊維を多く含む。2は口唇が角で貼付帯上から縄文が施されている。3は波状口縁の破片で、無節の縄文が施されている。口唇部直下が強く外反する。4は折り返し口縁のものともみられ、波状口縁の突起部に棒状工具による刺突が2ヶ所施されている。折り返し口縁の下には曲線状の沈線が施されている。5は口唇直下に横走る3条の沈線が施され、胴部には網目状の撚糸文が施されている。6～8まで口縁部に貼付帯で文様が施されているもの。6は折り返し口縁に8の字の貼付帯があるもの、7は波状口縁の頂部とその下に下垂し交差する貼付帯がある。口縁と貼付帯のあいだには横走る沈線がみられる。胴部には網目状になる撚糸の圧痕が施されていると考えられるが、煤状の炭化物付着により不明瞭である。8は平縁の口縁に8の字の貼付帯が施されている。9～13まで無文地に沈線が施されているもの。9は小形の深鉢形のもの。10は波状口縁に平行な沈線と直線状の沈線が見られるもの。13は口縁がすばまり、胴部が張り出す。折り返し口縁である。14は無文地に直線状の撚糸圧痕文が施され、その上から沈線が施されている。15は無文のもの。16は口唇上に縄文が施されている。17～19は縄文地に沈線が施されている。20は平成19年度に報告した北理調報257図IV-19-1のものと同一個体と考えられる。図示しなかったが貼付帯を除く無文部分には赤彩のような着色が施されていると考えられる。21には沈線と刺突が施されている。

### (2) 石器(図VI-9・10 図版50)

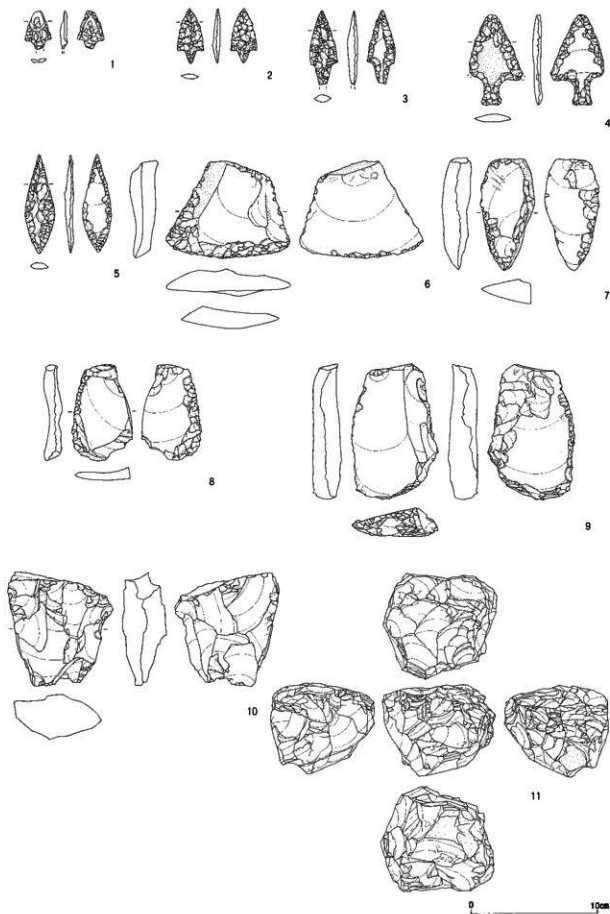
1～5は石鏃。1～4は有茎のもの、5は菱形のもの。1はメノウ、そのほかは頁岩製である。6～9までスクレイパー。6は横長の剥片左側縁と幅広の下端に調整が加えられている。7・8は原石面が残る縦長の剥片背面左側縁を両側から調整が加えられている。9は背面下端と腹面両側縁に調整が施されている。11は石核。6～11は頁岩製。12・13は磨製石斧。12は刃部が角形である。泥岩製。13は刃部が丸みを帯びる。閃緑岩製と考えられる。14・15はたたき石。11は棒状礫の端部に敲き痕があり、15は扁平な面を持つ縦長な礫の端部と平坦な両面に、くぼんだ敲き跡がみられる。14は安山岩、15は砂岩である。16は縦長で扁平な礫の一辺に擦り面を持つもの。泥岩。17・18は砥石。17は砂岩、18は泥岩のもの。19は扁平打製石器。扁平な礫の2ヶ所に加工が施されている。凝灰岩製。(袖岡)



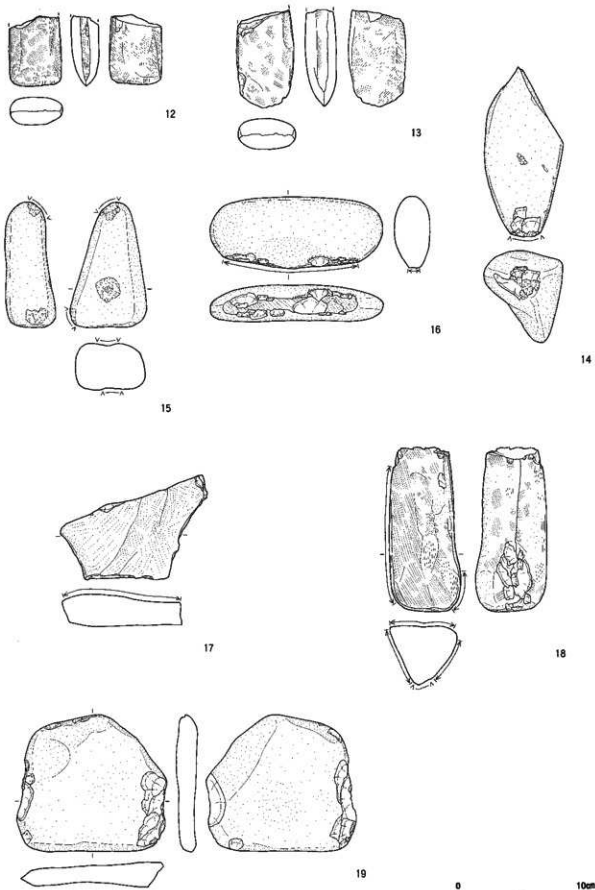
図VI-8 包含層出土の土器



2. 包含層出土の遺物

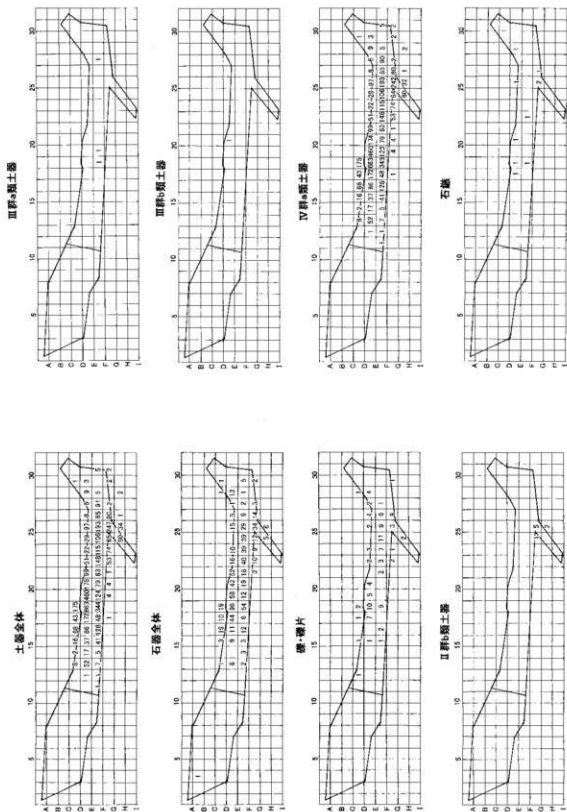


図VI-9 包含層出土の石器(1)

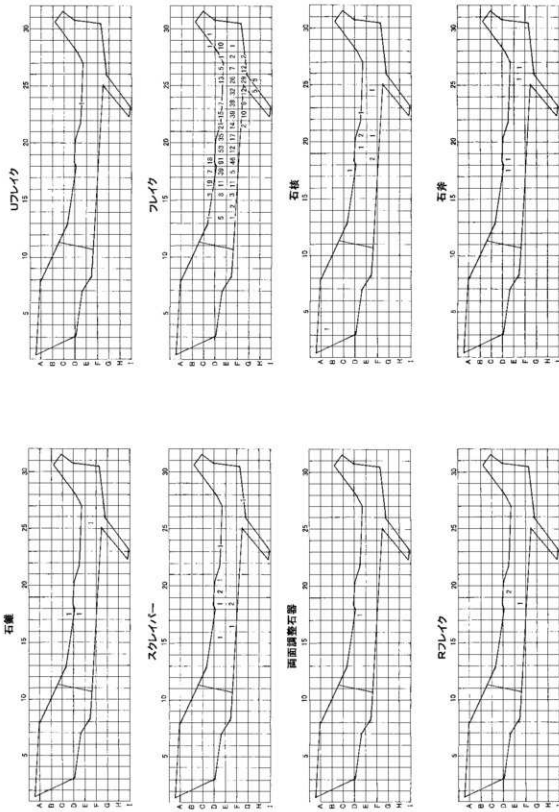


図VI-10 包含層出土の石器(2)

2. 包含層出土の遺物

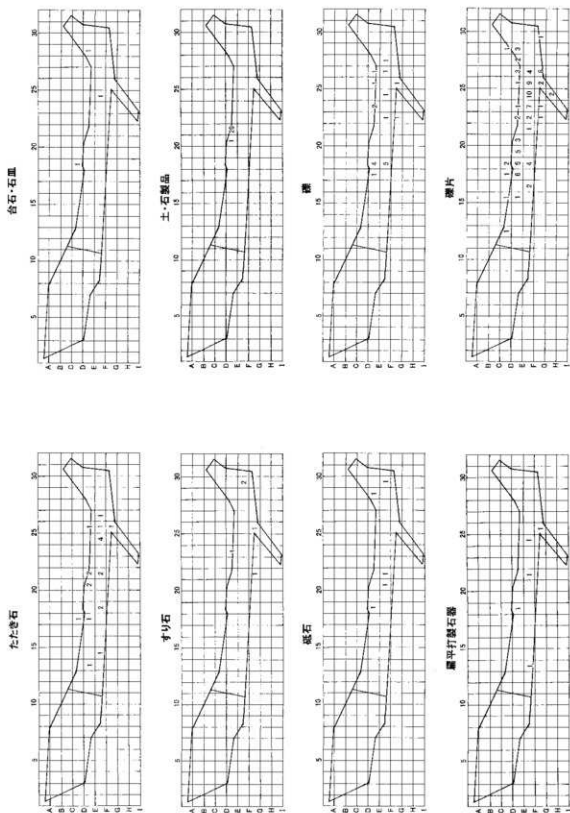


図VI-11 包含層遺物の分布(1)



図VI-12 包含層遺物の分布(2)

2. 包含層出土の遺物



図VI-13 包含層遺物の分布(3)

## 矢不來 9 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

（株）加速器分析研究所

## 1 測定対象試料

測定対象試料は、北海道北斗市矢不來 9 遺跡の H 3 HF-3 出土炭化物 (1:IAAA-91599)、H 3 HCB-1 出土炭化物 (2:IAAA-91600)、H 6 HF-1 出土炭化物 (3:IAAA-91601)、合計 3 点である。

## 2 測定の意義

遺構の実年代を明らかにする。

## 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理 (AAA: Acid Alkali Acid) により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1 N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1 N の水酸化ナトリウム水溶液 (80°C) を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が 1 N 未満の場合、表中に AaA と記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1 N の塩酸 (80°C) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90°C で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500°C で 30 分、850°C で 2 時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを精製する。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

## 4 測定方法

測定機器は、3 MV タンデム加速器をベースとした <sup>14</sup>C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9 SDH-2) を使用する。測定では、米国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOxII) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

## 5 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。
- (2) <sup>14</sup>C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$  によって補正された値である。<sup>14</sup>C 年代と誤差は、1 桁目を四捨五入して 10 年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の <sup>14</sup>C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2% であることを意味する。
- (3)  $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の <sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰)で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cを測定した場合には表中に(AMS)と注記する。

- (4) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の<sup>14</sup>C濃度の割合である。
- (5) 暦年校正年代とは、年代が既知の試料の<sup>14</sup>C濃度を元に描かれた校正曲線と照らし合わせ、過去の<sup>14</sup>C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年校正年代は、<sup>14</sup>C年代に対応する校正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差(1σ=68.2%)あるいは2標準偏差(2σ=95.4%)で表示される。暦年校正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない<sup>14</sup>C年代値である。なお、校正曲線および校正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年校正年代の計算に、IntCal04データベース(Reimer et al 2004)を用い、OxCal4.1校正プログラム(Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001)を使用した。

## 6 測定結果

<sup>14</sup>C年代は、1が4460±30yrBP、2が4330±30yrBP、3が3610±30yrBPである。1は縄文時代中期前葉～中葉頃、2は縄文時代中期中葉頃、3は縄文時代後期前葉頃に相当する。

炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ <sup>13</sup> C (‰) (AMS)	δ <sup>13</sup> C補正あり	
						Libby Age(yrBP)	pMC(%)
IAAA-91599	1	H 3 HF-3 床(地床炉)	炭化物	AAA	-24.50±0.41	4,460±30	57.42±0.23
IAAA-91600	2	H 3 HCB-1 床	炭化物	AAA	-25.17±0.39	4,330±30	58.36±0.24
IAAA-91601	3	H 6 HF-1 床(地床炉)	炭化物	AAA	-25.41±0.67	3,610±30	63.80±0.27

[#3247]

測定番号	δ <sup>13</sup> C補正なし		暦年校正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-91599	4,450±30	57.48±0.23	4,456±32	3322BC-3235BC (35.7%)	3339BC-3206BC (45.3%) 3196BC-3015BC (50.1%)
				3171BC-3162BC ( 3.2%)	
				3116BC-3084BC (13.6%) 3065BC-3028BC (15.7%)	
IAAA-91600	4,330±30	58.34±0.24	4,326±33	3010BC-2981BC (21.6%) 2937BC-2896BC (46.6%)	3021BC-2891BC (95.4%)
IAAA-91601	3,620±30	63.75±0.25	3,610±33	2023BC-1992BC (23.1%) 1984BC-1926BC (45.1%)	2116BC-2098BC ( 2.6%) 2039BC-1886BC (92.8%)

[参考値]

### 参考文献

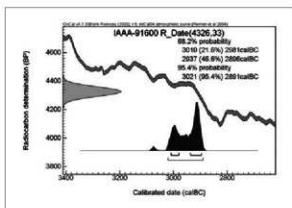
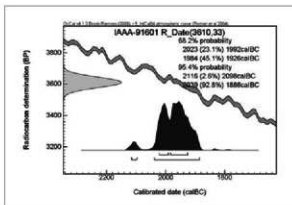
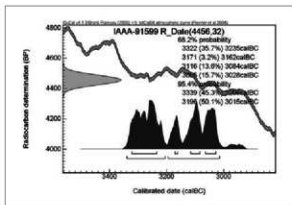
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of <sup>14</sup>C data, *Radiocarbon* 19, 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal. *Radiocarbon* 43 (2A), 355–363

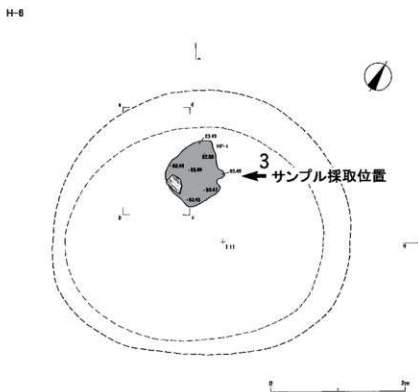
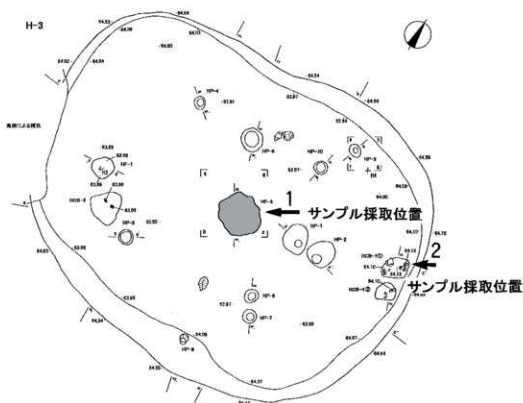
Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates. *Radiocarbon* 43 (2A), 381–389

Reimer, P. J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0–26cal kyr BP. *Radiocarbon* 46, 1029–1058



[参考] 暦年較正年代グラフ





図Ⅶ-1 矢不來9遺跡 放射性炭素年代測定試料採取位置

## Ⅷ章 総 括

### 1. 矢不來地区と茂別地区の遺跡の土層区分について

矢不來地区と茂別地区では、当センターにおいて1985年の矢不來2遺跡から今年度の矢不來11遺跡までの24年に渡り、断続的に調査を行っている（北埋調報37・47・121・232・235・244・257・272）。これらの遺跡は比較的近接した地域内に所在しているものの、調査で確認してきた基本土層は、各遺跡での土層の確認状況の違いにより、認識が異なっている場合がある。

そのため、矢不來地区と茂別地区で調査を行った各遺跡の土層区分を整理し、基本土層の認識を示しておくこととする。各遺跡の土層区分は整理し、年代順に示した（表Ⅶ-1）。火山灰については、表記を近年のものに変更し、対比が行われているものをまとめた。

それぞれの遺跡の基本土層では、表土・耕作土、ローム層、漸移層が確認でき、層準は異なるものの、認識は共通している。

表土・耕作土と漸移層に挟まれた層については、遺跡によって確認状況が違っているため、認識が異なっている。1998年度の茂別遺跡において、腐植土（Ⅲ層）の上層に火山灰及びその風化土壌（Ⅱ層）を確認した。また、2006年度の矢不來8・10遺跡（北埋調報244）において、表土・耕作土の下に黒色土（矢不來8遺跡のⅡ層、矢不來10遺跡のⅠ層）がみられ、その土層中に駒ヶ岳降下火山灰d（Ko-d）、その数cm下に砂質火山灰を確認した。そのため、2008年度の矢不來6・9・11遺跡の調査（北埋調報257）以降は表土・耕作土をⅠ層とし、その下の「黒色土」と「腐植土（Ⅲ層）」の上層にある火山灰及びその風化土壌を含めてⅡ層と認識している。またⅡ'層はⅡ層下位の白頭山苦小牧火山灰（B-Tm）の二次堆積を含む層と認識している。

各遺跡では、Ⅴ層より下位のローム層の下に「礫層」や「礫・砂利層」、「亜角から亜円の小礫を少量含む層」、「粘土層」を確認している。各遺跡での堆積状況は河成・海成による水成堆積の状況を示している。

火山灰については、Ⅰ層の下に駒ヶ岳降下火山灰d（Ko-d）、砂質火山灰、白頭山苦小牧火山灰（B-Tm）の3種を確認している。各遺跡の火山灰の対比は表（表Ⅶ-1）のとおりである。なお砂質火山灰の噴出起源については現在も不明である。今後の調査を待ちたい。（佐藤）





表Ⅲ-4 矢不來8遺跡 遺構掲載土器一覽(2)

遺構番号	図番号	復元・接合・破片				同一個体未接合破片				分類	図版番号	復元個体 (cm)			
		掲載番号	層位	調査区	遺物番号	接合点数	調査区	層位	遺物番号			接合点数	口徑	底形	器高
CP-4	図Ⅲ-4	2 b	Ⅲ	CP-4	1	2					V群 a類	3			
			Ⅲ	F-46	1	10									
			Ⅲ	G-46	1	3									
CP-4	図Ⅲ-4	3		CP-4	4	3	CP-4	Ⅲ	4	39	V群 a類	3			
						P-11	Ⅲ	8	2						
CP-5	図Ⅲ-4	1 a	Ⅲ a	CP-5	1	2	CP-5	Ⅲ a	1	13	Ⅲ群 a類	3			
			Ⅲ a	CP-5	1	8									
		1 b													

表Ⅲ-6 矢不來8遺跡 包含層掲載土器一覽

図番号	掲載番号	復元・接合・破片				同一個体未接合破片				分類	図版番号	復元個体 (cm)		
		調査区	層位	遺物番号	接合点数	調査区	層位	遺物番号	接合点数			口徑	底形	器高
図Ⅲ-5	1	E-39	Ⅲ	2	2					Ⅲ群 a類	4			
図Ⅲ-5	2	E-43	Ⅲ	1	1	E-43	Ⅲ	1	6	V群 a類	4			
		E-40	Ⅲ	2	2	D-41	Ⅲ	1	2					
図Ⅲ-5	3					E-40	Ⅲ	2	3	IV群 a類	4			
						E-41	I	1	2					
						E-41	Ⅲ	2	6					
図Ⅲ-5	4	G-46	Ⅲ	1	3					IV群 a類	4			
図Ⅲ-5	5	G-42	Ⅲ	2	1	G-42	Ⅲ	1	3	V群 a類	4			
						G-42	Ⅲ	2	7					
図Ⅲ-5	6a	E-43	Ⅲ	1	6	E-43	Ⅲ	1	8	IV群 a類	4			
	6b	E-43	Ⅲ	1	2									
図Ⅲ-5	7a	E-46	Ⅲ	1	2	E-45	Ⅲ	2	1	V群 a類	4			
		E-48	Ⅲ	1	1	E-46	Ⅲ	1	1					
		E-46	Ⅲ	1	1	E-48	Ⅲ	1	1					
図Ⅲ-5	7b					F-43	Ⅲ	1	1	IV群 a類	4			
図Ⅲ-5	8	E-45	Ⅲ	1	1	E-45	Ⅲ	1	18	IV群 a類	4			

表Ⅲ-7 矢不來8遺跡 包含層掲載土器一覽

器種名	図番号	掲載番号	調査区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	図版番号
石鏃	図Ⅲ-5	1	E-40	Ⅲ	(2.90)	1.30	0.50	(1.33)	頁岩	2	4
		2	D-32	IV	7.80	4.30	1.50	35.56	頁岩	1	4
		3	G-46	Ⅲ	5.90	3.70	2.20	32.69	頁岩	1	4
		4	G-1	Ⅲ	9.30	4.90	1.80	67.94	頁岩	1	4
		5	F-49	Ⅲ	5.20	6.10	1.50	42.20	頁岩	1	4
石核	6	E-39	Ⅲ	4.10	6.00	2.10	55.70	頁岩	2	4	
石斧	7	G-42	Ⅲ	4.50	1.70	0.70	6.99	泥岩	1	4	
石斧片	図Ⅲ-6	8	E-41	Ⅲ	(7.90)	3.70	2.60	(108.20)	閃緑岩	1	4
		9	G-44	Ⅲ	(6.60)	5.80	2.50	(109.63)	閃緑岩	1	4
たたき石	図Ⅲ-6	10	F-41	Ⅲ	14.90	8.80	3.40	650	安山岩	1	4
		11	E-44	Ⅲ	10.40	7.20	4.70	400	めのう	1	4
すり石	12	E-47	Ⅲ	7.80	10.20	5.20	480	砂岩	1	4	

表Ⅳ-1 矢不來9遺跡 検出遺構規模一覽

遺構名	位 置	規 模 (m)			時 期	備考
		長 軸	短 軸	深 さ		
		確認面/床面	確認面/床面			
H-3	G-2~G-4 H-2~H-4	(6.12/5.79)	4.65/3.99	0.53	縄文時代中期前半	
H-5	H-7~H-8	4.91/4.57	3.70/3.30	0.40	縄文時代中期前半	
H-6	H-10~H-11 I-10~I-11	(4.43/3.86)	(3.92/3.16)	(0.62)	縄文時代後期前葉	
P-21	H-12~H-13 I-12~I-13	2.72/2.24	(1.37/1.27)	0.77	縄文時代後期前葉	
P-22	I-8	(0.98/0.53)	(0.50/0.35)	0.48	縄文時代後期前葉	
P-23	H-9	0.50/0.32	0.46/0.30	0.07	縄文時代後期前葉	
P-24	G-9~H-9	(0.78/0.60)	0.58/0.47	0.57	縄文時代後期前葉	
P-25	I-1~I-2	1.31/1.08	1.09/0.86	0.25	縄文時代中期前葉	
P-26	G-8	(0.16/0.90)	(0.76/0.64)	0.46	縄文時代中期前葉	
P-27	H-2~I-2	1.61/1.37	(1.43/1.25)	0.32	縄文時代後期前葉	
F-22	H-17	0.60	0.57	0.08	縄文時代後期前葉	
F-24	J-11	0.71	0.49	0.15	縄文時代後期前葉	
F-25	I-13	0.55	0.43	0.10	縄文時代後期前葉	
F-26	J-9	0.50	0.42	0.07	縄文時代後期前葉	
F-27	J-9	0.40	0.40	0.07	縄文時代後期前葉	
F-28	H-9	0.41	0.27	0.10	縄文時代後期前葉	
F-29	J-14	0.52	0.18	0.10	縄文時代後期前葉	
F-30	H-10	0.59	0.30	0.10	縄文時代後期前葉	
F-31	H-6	0.90	0.49	0.07	縄文時代後期前葉	
F-32	H-14~I-14	0.86	0.42	0.13	縄文時代中期~後期前葉	
F-33	I-12	0.48	0.17	0.08	縄文時代後期前葉	
F-34	H-6	0.25	0.19	0.03	縄文時代後期前葉	
F-35①	I-9	0.96	0.60	0.10	縄文時代後期前葉	
F-35②	I-9	0.45	0.35	0.09	縄文時代後期前葉	
F-35③	I-9	0.67	0.41	0.10	縄文時代後期前葉	
F-36	I-9	(0.28)	(0.22)	0.07	縄文時代後期前葉	
F-37	G-5	0.55	0.44	0.14	縄文時代後期前葉	
F-38	G-5	0.22	0.17	0.06	縄文時代後期前葉	
F-39	I-10	1.51	1.08	0.20	縄文時代中期前半~後期前葉	
F-40	H-12	1.30	0.86	0.15	縄文時代後期前葉	
F-41	I-5	0.57	0.40	0.14	縄文時代後期前葉	
F-42	J-8	1.54	0.56	0.09	縄文時代後期前葉	
F-43	I-2	0.86	0.78	0.11	縄文時代中期前半	
F-44	I-4	0.61	(0.45)	0.10	縄文時代中期前半~後期前葉	
F-45	G-20	0.40	(0.18)	0.12	縄文時代後期前葉	
F-46	H-9	0.53	0.31	0.08	縄文時代後期前葉	
F-47	H-3	0.56	(0.53)	0.17	縄文時代中期前半	
F-48	H-3	0.33	0.26	0.06	縄文時代中期前半	
F-49	H-3	0.66	0.48	0.10	縄文時代中期前半	
F-50	H-4	0.83	(0.53)	0.11	縄文時代中期前半	
F-51	J-9	(0.42)	(0.20)	0.20	縄文時代後期前葉	
S-2	H-17	0.60	0.50	0.15	縄文時代後期前葉	

## 2. 表

表IV-2 矢不來9遺跡 遺構遺物一覧(1)

遺構名	層位	土 器		割 片 石 器 群										磨 製 石 器		礫 石 器 群					合 計						
		Ⅲ群 a型	Ⅳ群 a型	石輪	石鏃	石鏃	1400 1400	スラ イ ド	スラ イ ド	両面 削	両面 削	フ レ イ ク	フ レ イ ク	石 鏃	原 石	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃		石 鏃	石 鏃				
H-3	覆土	364	68	2		2	3				1	71	1		1	3			2		1	1	13	23	305		
	覆土下位	13		1								4	1								1			3	4	28	
	HP-3		4																							4	
	HP-1覆土		2									1														3	
	HP-4覆土											1															1
	覆り上ロ土	283	6		5		2	5	2			44	1	2	1		4			2	2			50	17	426	
	覆乱											1					1									2	
床	45			2		1	6				31									2					6	95	
合 計	307	78		10		5	14	2		1	153	3	2	2	3	5	2		6	2	1	66	49	912			
H-5	覆土	5	28		2		2		1		6	1								3				8	8	114	
	覆土下位		9								5									2				3	1	18	
	床	80									2									1					3	86	
	HP-1覆土																				1					1	
	HP-1覆土																			1						3	
合 計	85	87		2		2		1		11	1					1	2	5		5			13	12	222		
H-6	覆土	15	291		1		1				39	2		1	3					3				19	14	390	
	覆土下位		12																							12	
	HP-1		3																	3				1		6	
	HP-1覆土																									4	
	合 計	15	306		1		1				39	2		1	3					3				24	14	412	

遺構名	材質遺構名	層 位	陶磁器	キタタ	合 計
H-4	HP-2	覆土		2	2
	HP-3	覆土		3	3
	HP-4	覆土		1	1
	合 計			3	1

表IV-2 矢不來9遺跡 遺構出土遺物一覧(2)

遺構名	層位	土 器		割 片 石 器 群										磨 製 石 器		礫 石 器 群					合 計					
		Ⅲ群 a型	Ⅳ群 a型	石輪	石鏃	石鏃	1400 1400	スラ イ ド	スラ イ ド	両面 削	両面 削	フ レ イ ク	フ レ イ ク	石 鏃	原 石	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃		石 鏃				
F-21	覆土	4	13					1				1														2
F-22	覆土	1	5																							1
F-23	覆土	2																								2
F-24	覆土	3	7									1														11
F-25	覆土	5						1																		10
F-26	覆土		11																							11
F-27	焼土																									1
F-24	焼土	1																								2
F-26	焼土	2																								2
F-28	焼土	3										1				1										2
F-29	焼土	34																								35
F-31	焼土																				1					1
F-32	焼土																									1
F-33	焼土	7																								8
F-35	焼土	75										5				1								2	3	85
F-35(1)	焼土	9																								9
F-35(2)	焼土	9																								9
F-36	焼土	1																								2
F-38	焼土													1												1
F-39	焼土	3	2																							34





表IV-4 矢不來9遺跡 遺構掲載土器一覽(2)

遺構番号	区画番号	階層番号	復元・組合・破片				同一個体未接合破片				分類	図面番号	復元個体 (cm)			
			種別	部位	遺構番号	接合点数	種別・部	種別	遺構番号	接合点数			口徑	底形	體高	
H-3	区IV-8	3	甕土	H-3	78	1	J-3	Ⅲb	1	1	群a類	21	(14.50)	(7.30)	22.20	
			甕土	H-3	119	1										
			甕土	H-3	120	1										
			甕土	H-3	121	1										
			甕土	H-3	122	1										
			甕土	H-3	123	1										
			甕土	H-3	124	1										
			甕土	H-3	125	1										
			甕土	H-3	126	1										
			甕土	H-3	127	1										
			甕土	H-3	128	1										
			甕土	H-3	129	1										
			甕土	H-3	130	1										
			甕土	H-3	131	1										
			甕土	H-3	132	2										
			甕土	H-3	133	1										
			甕土上位	H-3	271	10										
H-3	区IV-8	4	甕土	H-3	47	1	H-3	甕土	53	1	群a類	21				
			甕土	H-3	49	1	H-3	甕土	56	1						
			甕土	H-3	51	1	H-3	甕土	58	1						
			甕土	H-3	52	1	H-3	甕土	59	1						
			甕土	H-3	59	1	H-3	甕土	63	1						
			甕土	H-3	61	1	H-3	甕土	73	1						
			甕土	H-3	62	1	H-3	甕土	76	1						
			甕土	H-3	99	1	H-3	甕土	90	1						
			甕土	H-3	102	1	H-3	甕土	100	1						
			甕土	H-3	103	1	H-3	甕土	104	1						
			甕土	H-3	169	1	H-3	甕土	167	1						
			甕土	H-3	179	1	H-3	甕土	182	1						
			甕土	H-3	181	1	H-3	甕土	202	2						
			床	H-3	335	1	H-3	甕土	206	1						
			床	H-3	364	1	H-3	甕土	239	1						
			甕土	H-3	369	1	H-3	甕土	240	1						
					不明	1	H-3	甕土	266	1						
				H-3	甕土	268	1									
H-3	区IV-8	5	甕土	H-3	38	2	H-3	甕土	94	1	群a類	51				
			甕土	H-3	152	1	H-3	甕土	145	1						
			甕土	H-3	153	1										
			甕土	H-3	154	1										
			甕土	H-3	155	1										
			甕土	H-5	144	1										
甕土上位	H-4(D)	3	2													
H-5	区IV-17	1	床	H-5	102	1	H-5	床	102	9	群a類	21				
							H-5	床	106	1						
H-5	区IV-17	2	床	H-5	102	1	H-5	床	102	7	群a類	21				
			床	H-5	117	1	H-5	床	117	2						
H-5	区IV-17	3	Ⅲa	H-9	6	1					群a類	21				
			床	H-5	102	7	J-8	Ⅲa	9	2						
H-5	区IV-17	4	Ⅲ	J-9	18	1					群a類	21				
			Ⅲa	J-15	5	1										
H-5	区IV-17	4	床	H-5	102	1	H-5	床	115	1	群a類	21				
			床	H-5	117	1	H-5	床	117	2						

表IV-4 矢不來9遺跡 遺構揭露土器一覽(3)

遺構番号	区画番号	期層番号	復元・組合・破片				同一個体未接合破片				分類	図面番号	復元個体 (cm)			
			層位	部位・遺跡	遺物番号	接合点数	部位・遺跡	層位	遺物番号	接合点数			口徑	底形	器高	
H-5	図IV-17	5 a	覆土	H-5	27	1	H-5	覆土	12	1	IV群 a 類	21				
			覆土	H-5	119	1	H-5	覆土	24	1						
			Ⅲ a	H-7	3	9	H-5	覆土	31	1						
			Ⅲ a	H-7	6	1	H-5	覆土	34	1						
			Ⅲ a	H-8	1	1	H-5	覆土	46	1						
			覆土	H-5	12	2	H-5	覆土	47	1						
		5 b	覆土	H-5	119	1	H-5	覆土	92	1						
			Ⅲ a	H-8	1	1	H-5	覆土	119	2						
							G-8	Ⅲ a	6	1						
							H-7	Ⅲ a	3	3						
							H-8	Ⅲ a	1	3						
							I-10	Ⅱ	18	1						
H-5	図IV-17	6	覆土	H-5	20	1	J-7	Ⅲ b	11	1	IV群 a 類	21				
			覆土	H-5	56	1										
			覆土	H-5	59	1										
			覆土	H-5	60	1										
			覆土	H-5	61	1										
			覆土	H-5	64	1										
H-6	図IV-22	1	覆土	H-6	87	1	H-6	覆土	435	1	IV群 a 類	25	(17.00)		(18.20)	
			覆土	H-6	89	1	H-11	Ⅲ a	4	1						
			覆土	H-6	224	1	H-11	Ⅲ a	8	5						
			覆土	H-6	225	1	I-11	Ⅲ a	10	1						
			覆土	H-6	229	1										
			覆土	H-6	232	1										
			覆土	H-6	235	1										
			覆土	H-6	237	1										
			Ⅲ a	H-11	4	8										
			Ⅲ a	H-11	7	2										
			Ⅲ a	H-11	8	6										
			Ⅲ a	H-11	9	3										
			I	I-11	3	1										
			Ⅱ	I-11	18	1										
			Ⅲ a	I-11	5	1										
			Ⅲ a	I-11	10	1										
			Ⅲ a	I-14	1	1										
			H-6	図IV-22	2	覆土下位	H-6	414	7	H-6						覆土
						H-6	覆土下位	414	2							
						I-10	Ⅲ a	11	1							
H-6	図IV-22	3					I-11	Ⅲ a	11	1	IV群 a 類	25				
			覆土	H-6	351	1										
			覆土	H-6	352	1										
H-6	図IV-22	4	覆土	H-6	359	3					IV群 a 類	25				
			覆土	H-6	13	2	H-5	覆土	218	1						
			覆土	H-6	51	1										
H-6	図IV-22	4	覆土	H-6	109	1					IV群 a 類	25				
			覆土	H-6	112	1										
			覆土下位	H-6	414	1										

表IV-4 矢不來9遺跡 遺構掲載土器一覽(4)

遺構番号	区画番号	階層番号	復元・組合・破片				同一個体未接合破片				分類	図面番号	復元個体 (cm)			
			層位	部位・遺跡	遺物番号	接合点数	部位・層位	遺物番号	接合点数	口径			底径	器形	器高	
H-6	図IV-22	5	覆土	H-6	306	1	H-16	覆土	299	1	IV群 a 類	25				
			覆土	H-6	307	1	G-15	皿 b	6	1						
			■	H-15	5	1	G-17	皿 a	3	1						
			I	I-10	13	1	H-14	皿 b	3	2						
							H-15	I	2	1						
							H-15	I	3	3						
							H-15	■	5	6						
							I-10	■	3	1						
							I-14	皿 b	3	1						
							J-15	■	3	4						
				J-15	■	4	1									
H-6	図IV-22	6	覆土	H-6	18	2	H-6	覆土	103	3	IV群 a 類	25				
			覆土	H-6	19	1	H-6	覆土	108	1						
			覆土	H-6	20	1	H-6	覆土	151	1						
			覆土	H-6	22	1	H-11	覆土	362	1						
			覆土	H-6	113	1	I-9	■'	20	1						
			覆土	H-6	116	1	I-9	皿 a	10	1						
			覆土	H-6	117	2	I-9	皿 a	14	1						
			覆土	H-6	118	1	I-9	皿 b	17	2						
			覆土	H-6	146	1	I-9	皿 a	18	3						
			覆土	H-6	420	1	(98No.11)	皿 a	4	1						
			焼土	F-35	42	1	I-10	皿 a	9	1						
			皿 a	I-9	4	1	I-10	皿 a	11	1						
			皿 a	I-9	14	2	I-10	皿 a	19	1						
			皿 a	I-10	4	1	I-10	焼瓦	8	1						
皿 a	J-7	13	1	I-11	■'	2	1									
				I-11	皿 a	10	1									
H-6	図IV-22	7	覆土	H-6	24	1					IV群 a 類	25				
			覆土	H-6	47	1										
			覆土	H-6	131	5										
			覆土	H-6	147	1										
			皿 a	I-10	11	1										
H-6	図IV-23	8	覆土	H-6	65	1	H-9	皿 a	6	4	IV群 a 類	25				
			覆土	H-6	67	1	H-9	皿 a	8	1						
			覆土	H-6	74	1	H-9	皿 b	10	1						
			覆土	H-6	124	1	H-10	皿 a	4	5						
			覆土	H-6	133	1	H-10	■'	6	1						
			覆土	H-6	143	4	I-9	皿 a	13	1						
			覆土	H-6	144	1	I-9	皿 a	14	1						
			覆土	H-6	157	1	I-9	皿 a	15	4						
			皿 a	H-9	6	1	I-9	■'	21	1						
			皿 a	H-10	4	10	I-10	皿 a	15	1						
			皿 a	H-10	5	2										
			■'	H-10	6	5										
			皿 a	H-10	7	2										
			B調	I-9	6	2										
			皿 a	I-9	10	1										
			皿 a	I-9	15	1										
			表採		1	1										
P-22	図IV-25	1	覆土	P-22	4	1				IV群 a 類	26					
P-22	図IV-25	2	覆土	P-22	3	1	I-9	皿 a	14	5	IV群 a 類	26				
			皿 b	I-8	14	2	I-9	皿 a	17	2						
			皿 a	I-9	13	1	J-9	皿 a	6	1						
			皿 a	I-9	14	1										
P-24	図IV-26	1	覆土	P-24	2	1	P-24	覆土	2	3	IV群 a 類	26				
P-24	図IV-26	2	覆土	P-24	1	2				群 a 類	26					

表Ⅳ-4 矢不來9遺跡 遺構揭露土器一覽(5)

遺構番号	区画番号	周壁番号	復元・综合・破片				同一個体未接合破片				分類	区画番号	復元個体 (cm)			
			層位	部材・遺物	遺物番号	接合点数	部材・遺物	層位	遺物番号	接合点数			口徑	底形	器高	
P-24	ⅧⅣ-26	3	覆土	P-24	1	1					Ⅳ群 a 類	26				
P-25	ⅧⅣ-26	1	覆土	P-25	2	1					Ⅳ群 a 類	26				
P-25	ⅧⅣ-26	2	覆土	P-25	4	3					Ⅳ群 a 類	26				
P-26	ⅧⅣ-27	1	覆土	P-26	11	1					Ⅳ群 a 類	26				
P-26	ⅧⅣ-27	2	覆土	P-26	4	1	P-26	覆土	1	1	Ⅳ群 a 類	26				
						P-26	覆土	2	1							
						P-26	覆土	3	1							
						P-26	覆土	6	1							
						P-26	覆土	7	1							
						P-26	覆土	8	1							
						P-26	覆土	9	1							
			P-26	覆土	10	1										
F-24	ⅧⅣ-29	1 a	Ⅲ a	J-11	2	1	I-11	Ⅲ a	6	1	Ⅳ群 a 類	26				
			Ⅲ a	J-11	3	3	J-11	Ⅲ a	2	2						
			Ⅲ a	J-11 (ⅧⅣ-29)	6	10	J-11 (ⅧⅣ-29)	Ⅲ a	7	4						
		Ⅲ a	J-11 (ⅧⅣ-29)	7	2											
		Ⅲ b	J-10	8	1											
		Ⅲ a	J-11	3	3											
1 b	Ⅲ a	J-11 (ⅧⅣ-29)	7	1												
	Ⅲ a	J-11 (ⅧⅣ-29)	6	1	H-5	覆土	2	1								
F-24	ⅧⅣ-29	2	Ⅲ a	J-9		1	G-17	Ⅲ a	3	1	Ⅳ群 a 類	26				
			Ⅲ	J-11		1	I-6	Ⅲ a	5	2						
			Ⅲ b	J-11	5	1	I-8	Ⅲ a	5	2						
			Ⅲ a	J-12	2	2	I-9	B溝穴	12	1						
			Ⅲ	K-9-d		3	I-17	埋瓦	6	1						
			Ⅲ	K-9		7	J-9	Ⅲ a	6	3						
			Ⅲ	K-11		1	J-10	Ⅲ	2							
							J-10	Ⅲ a	2	3						
							J-10	Ⅲ a	10	1						
							J-11	Ⅲ	1							
							J-11	Ⅲ a	3	3						
							J-11 (ⅧⅣ-29)	Ⅲ a	6	2						
							J-11	Ⅲ b	5	1						
							J-12	H'	5	2						
							K-7	Ⅲ	1							
							K-9	Ⅲ	2							
							K-9-d	Ⅲ	3							
				K-10	Ⅲ	3										
				K-11	Ⅲ	2										
				L-9	Ⅲ	1										
				L-10	Ⅲ	1										
F-29	ⅧⅣ-31	1 a	焼土	F-29	1	4	F-29	焼土	1	11	Ⅳ群 a 類	26				
			Ⅲ	J-14	5	1	H-12	Ⅲ a	10	1						
		1 b	H'	J-14	6	1	H-15	I	4	12						
			焼土	F-29	1	2	H-15	Ⅲ	5	2						
		1 c	Ⅲ	J-14	5	1	I-14	Ⅲ a	1	1						
						J-11	Ⅲ a	3	1							
						J-14	I	1	1							
						J-14	Ⅲ	5	6							
				J-14	H'	6	2									
				J-14	Ⅲ b	8	1									

表IV-4 矢不來9遺跡 遺構掲載土器一覽(6)

遺構番号	図番号	復元・組合・破片				同一個体未接合破片				分類	図番号	復元個体 (cm)				
		層位	部位・遺物	遺物番号	接合点数	部位・遺物	層位	遺物番号	接合点数			口	径	底	形	器
F-35	図IV-33	1	Ⅲ a	I-9 (9/3/6/11)	18	56	I-9 (9/3/6/11)	Ⅲ a	18	13	IV群 a類	27				
			Ⅲ a	I-9	8	1	I-9	I	1	1						
			Ⅲ a	I-9	16	1	I-9	Ⅲ a	4	6						
			I	I-9	1	1	I-9	Ⅲ a	10	4						
			Ⅲ a	I-9	4	8	I-9	Ⅲ a	14	1						
			Ⅲ a	I-9	14	1	I-9	Ⅱ	20	1						
			Ⅲ a	I-9	17	2										
			Ⅲ a	J-8	11	1										
F-35	図IV-33	2	Ⅲ a	H-6	99	1	I-9 (9/3/6/11)	Ⅲ a	18	3	IV群 a類	27	(17.10)	7.10	(21.50)	
			Ⅲ a	H-6	121	1										
			Ⅲ a	H-10	5	1										
			Ⅲ a	H-11	4	5										
			Ⅲ a	I-9 (9/3/6/11)	18	6										
			Ⅲ a	I-10	11	2										
F-35	図IV-33	3	焼土	F-35	59	3	F-35	焼土	59	4	IV群 a類	27				
F-35	図IV-33	4	Ⅲ a	I-9 (9/3/6/11)	18	2					IV群 a類	27				
			Ⅲ a	J-9	6	1										
F-41	図IV-35	1	Ⅲ b	I-9 (9/3/6/10)	8	118	I-9 (9/3/6/10)	Ⅲ b	8	50	IV群 a類	27				
							I-4	Ⅲ a	11	1						
S-2	図IV-40	1	Ⅲ	S-2	72	1					IV群 a類	28				
			Ⅲ	S-2	124	1										
			Ⅲ	S-2	125	1										
			Ⅲ	S-2	126	1										
			Ⅲ	S-2	127	1										
S-2	図IV-40	2	Ⅲ	S-2	203	1				IV群 a類	28					

表IV-5 矢不來9遺跡 遺構掲載遺物一覧

遺構名	図番号	掲載番号	器種名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	備考	図版番号
H-4	図IV-14	1	キセル	H P覆土	9.40	1.20	0.08	13.92	銅	1	処理前	23

表IV-6 矢不來9遺跡 遺構掲載石器一覧(1)

遺構名	図番号	掲載番号	器種名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	備考	図版番号	
H-3	図IV-9	6	石鏃	床	2.60	1.00	0.60	1.13	頁岩	324		22	
		7		覆土下位	2.80	( 1.10)	0.60	(1.72)		280		22	
		8		床	3.40	1.40	0.40	1.55		305		22	
		9		覆土	3.20	1.30	0.50	1.73		44		22	
		10		掘り上げ土	4.40	1.30	0.90	4.16		429		22	
		11		覆土	( 3.90)	1.40	0.50	(2.52)		161		22	
		12		掘り上げ土	( 4.60)	1.70	0.70	(3.87)		435		22	
		13		掘り上げ土	( 4.40)	1.80	0.50	(3.21)		429		22	
		14		掘り上げ土	4.40	3.00	1.10	11.97		415		22	
		15		前面隠石	掘り上げ土	8.60	3.50	1.50		44.86	406		22
		16		つば附掛け	床	5.70	3.00	1.00		12.84	320		22
		17			掘り上げ土	5.60	3.00	0.60		9.66	420		22
		18		スレイバー	掘り上げ土	5.20	3.60	0.80		16.71	414		22
		19			掘り上げ土	5.80	4.20	1.70		39.61	377		22
	20	床	7.90		4.25	1.50	43.52	284		22			
	21	床	7.80		4.30	1.80	52.30	331		22			
	22	床	8.40	5.40	1.70	62.23	282		22				
	図IV-10	石斧	覆土	12.20	5.20	2.70	310.00	片岩	116		22		
			覆土	12.60	4.80	2.70	249.74	泥岩	162		22		
		たたき石	掘り上げ土	8.40	7.10	4.40	330.00	凝灰岩	403		22		
		扉附隠石	掘り上げ土	10.90	6.90	2.40	239.51	砂岩	421		22		
			掘り上げ土	8.90	12.70	2.40	284.79	凝灰岩	411		22		
台石		床	16.00	12.10	6.10	1270.0	流紋岩	312		22			
		床	17.50	(14.10)	8.20	(2070.0)	砂岩	336		22			
H-5	図IV-18	7	石鏃	床面	2.90	1.30	0.45	1.82	頁岩	97		24	
		8	石鏃	床	3.70	1.40	0.50	2.34		114		24	
		9	スレイバー	覆土	4.45	2.80	0.80	16.22		25		24	
		10	スレイバー	覆土	2.80	3.70	0.80	7.49		44		24	
		11	すり石	焼土	12.10	8.50	4.00	650.0		砂岩	113		24
		12	台石	床面	17.20	14.60	8.00	2560.0		砂岩	103		24
		13	礫片	焼土	7.80	( 6.20)	3.90	(260.0)		砂岩	112		24
		14	台石	焼土	16.40	10.50	( 3.90)	(700.0)		凝灰岩	111		24
15	台石	H P 4覆土	41.90	19.20	15.90	17300.0	凝灰岩	125		24			
H-6	図IV-24	9	土製品	覆土	( 5.30)	4.50	0.80	(17.36)	-	119	焼 成 粘 土塊	25	
		10	石鏃	覆土	2.00	1.20	0.35	(0.62)	めのう	344		25	
		11	石斧	覆土	6.90	4.40	2.30	114.34	砂岩	383		25	
		12	石斧	覆土	6.25	4.20	2.50	110.22	泥岩	223		25	
		13	台石片	覆土	26.50	17.00	12.20	8000	凝灰岩	130		25	
14	台石	砂	25.40	18.70	9.70	7500	凝灰岩	419		25			
P-21	図IV-25	1	スレイバー	覆土	4.20	5.30	2.30	50.09	頁岩	3		26	

表IV-6 矢不來9遺跡 遺構掲載石器一覧(2)

遺構名	図番号	掲載番号	器種名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	備考	図版番号	
P-25	図IV-26	3	スタレイト	覆土	5.80	5.70	1.50	28.74	頁岩	5		26	
F-24	図IV-28	3	たたき石	Ⅲ a	17.95	9.10	5.60	1190.0	砂岩	20		26	
F-28	図IV-30	1	たたき石	焼土	11.70	10.70	4.70	810.00	砂岩	5		27	
F-35	図IV-33	5	石斧	焼土	( 6.30)	4.00	1.90	(86.06)	砂岩	56		27	
F-41	図IV-35	2	台石片	Ⅲ b	20.90	13.40	3.30	1465.0	砂岩	8		27	
F-42	図IV-36	1	石錐	焼土	1.70	0.90	0.90	0.89	頁岩	3		27	
		2	石錐	焼土	3.90	1.60	1.30	7.76	頁岩	10		27	
F-50		1	石鏃	焼土	( 4.00)	1.40	0.60	(2.36)	頁岩	2		27	
S-2	図IV-41	3	台石	Ⅲ	71.50	24.80	12.00	28000	砂岩	36,37,38,59,60,62, 66,67,68,69,70,71, 72(2点),73(2点), 74(2点),75,76, 77,78,79,80,83,85, 86,87,88,89,90,91, 94,95,96,103,104, 109,164,165,166, 168,169,172,173, 174,176,177,178, 179,180(2点),182, 183,185,197,198, 199,200(2点),201 (4点),202,206,207	1	G-17区	28
				I									
S-2	図IV-42	4	台石	Ⅲ	(32.10)	(25.40)	(16.70)	(6000)	砂岩	1,2,3,5,6,7,8,9,10, 11,12,13,14,15,16, 17,18,19,20,21,22, 23,24,25(2点),26, 27,28,29,30,31,32, 33,34,35,39,40,41, 42,43,44,45,46,47, 48,49,50,51,52,53, 54,55,56,57,58,61, 63,64,65,81,82, 105,106,107,109, 110,129,130,131, 135,136,137,138, 139,140,141,142, 143(4点),144,145, 148,149,150,151, 152,153,156,157, 158,159,160,161, 181,184,186,187, 188,189,191,192, 193,194,195,196	6	H-17区	28
S-2	図IV-42	5	台石	Ⅲ	(30.50)	(13.30)	(14.50)	(7000)	砂岩	112(2点),113,114, 115,116,117,118, 119,120,121,122, 204,205,	2	H-16区	28
				Ⅲ									
				Ⅲ a									
				Ⅳ									
				11									
17													

表IV-7 矢不來9遺跡 包含層遺物出土狀況掲載土器一覽(1)

図番号	発掘番号	復元・集合・破片				同一個体未集合破片				分期	図番番号	復元個体 (cm)		
		調査区	層位	遺物番号	集合点数	調査区	層位	遺物番号	集合点数			口徑	底徑	器高
ISIV-43	1	1-3 (復元No13)	Ⅱb	3	9	1-3 (復元No17)	Ⅱb	2	33	Ⅳ群a類	29			
ISIV-43	2	1-3 (復元No13)	Ⅱb	3	36					Ⅳ群a類	29			
ISIV-44	5	1-4 (復元No14)	Ⅱb	13	25	1-4 (復元No14)	Ⅱb	13	1	Ⅳ群a類	29	9.00	5.50	10.80
ISIV-44	6 a	1-4 (復元No14)	Ⅱb	13	1	1-4 (復元No14)	Ⅱb	13	36	Ⅳ群a類	29			
	6 b	1-4 (復元No14)	Ⅱb	13	5	H-4	Ⅱb	3	2					
ISIV-45	9	1-4 (復元No13)	Ⅱb	14	42	1-4 (復元No13)	Ⅱb	14	36	Ⅳ群a類	30	(22.70)	(10.60)	34.50
		1-4 (復元No13)	Ⅱb	15	30	1-4 (復元No13)	Ⅱb	15	18					
		1-4 (復元No13)	Ⅱb	不明	2									
ISIV-45	10	1-4 (復元No13)	Ⅱb	14	39	1-4 (復元No13)	Ⅱb	14	5	Ⅳ群a類	29	16.50	( 8.20)	26.30
		1-4 (復元No13)	Ⅱb	15	27	1-4 (復元No13)	Ⅱb	15	9					
ISIV-46	11 a	1-10 (復元No10)	Ⅱa	4	32	07K-7	Ⅱ		2	Ⅳ群a類	29			
		J-10 (復元No10)	Ⅱa	10	1	07K-8	Ⅱ		4					
	07k-8-4	Ⅱ		4	07K-8-a	Ⅱ		5						
					07K-8-b	Ⅱ		22						
					07K-8-c	Ⅱ		2						
					07K-8-d	Ⅱ		2						
					07K-8-e	Ⅱ		2						
					07K-9	Ⅱ		4						
					07K-11	Ⅱ		1						
					07L-7	Ⅱ		1						
					07L-9	Ⅱ		1						
		11 b	1-10	Ⅱa		19	1							
	1-11		Ⅱ		4	1								
	1-11		Ⅱa		6	2								
1-11	Ⅱa			9	3									
1-11	Ⅱa			10	1									
1-11	Ⅱa			15	3									
		J-8	Ⅱ'		3	3								
		J-9	Ⅱa		8	1								
		J-9	Ⅱa		13	1								
		J-10	Ⅱb		8	1								
ISIV-46	12	J-10 (復元No10)	Ⅱa	4	6	J-10 (復元No10)	Ⅱa	4	1	Ⅳ群a類	29			
ISIV-47	13	J-9 (復元No9)	Ⅱa	11	39	J-9 (復元No9)	Ⅱa	11	50	Ⅳ群a類	30	(18.60)	9.00	19.70
		J-9	Ⅱa	7	1									
ISIV-47	14	J-9 (復元No9)	Ⅱa	11	67	J-9 (復元No9)	Ⅱa	11	23	Ⅳ群a類	30	(12.70)	(32.30)	
		J-9	Ⅰ	3	1	J-9	Ⅰ	3	1					
		J-9	Ⅱa	6	1	J-9	Ⅱa	7	8					
		J-9	Ⅱa	7	14	J-10	Ⅱa	2	1					
		J-9	Ⅱa	9	3	1-9	Ⅱa	13	1					
		J-10	Ⅰ	2	4	1-10	Ⅱ	8	1					
		J-10	Ⅰ	12	1	不明			1					
ISIV-47	15	J-9	Ⅱa	9	3	H-10	Ⅱb	10	1	Ⅳ群a類	29			
		L-9	Ⅱ		1	J-9 (復元No9)	Ⅱa	11	2					
ISIV-47	16	J-9 (復元No9)	Ⅱa	11	1	J-9 (復元No9)	Ⅱa	11	21	Ⅳ群a類	29			
ISIV-48	17 a	1-7 (復元No7)	Ⅱa	8	4	1-7 (復元No7)	Ⅱa	8	58	Ⅳ群a類	31			
		1-8 (復元No8)	Ⅱa	8	6	1-7 (復元No7)	Ⅱ	7	10					
	17 b	1-7 (復元No7)	Ⅱa	8	6	1-7 (復元No7)	Ⅱ	8	2					



表IV-7 矢不来9遺跡 包含層遺物出土状況掲載土器一覽(2)

図番号	復元・接合・破片				同一個体未接合破片				分期	図番番号	復元個体 (cm)								
	図番番号	調査区	層位	遺物番号	接合点数	調査区	層位	遺物番号			接合点数	口徑	底形	器高					
ISIV-48	18a	I-7 (復元破片)	複乱	7	8	I-7 (復元破片)	複乱	7	53	IV群a類	31								
				7	21			H-7	器a						3	1			
					H-7	器b	5	8											
					I-7	器	2	1											
					I-7	器a	6	12											
	18b					I-7	器b	9	3										
ISIV-48	19	I-7 (復元破片)	複乱	7	2	I-7 (復元破片)	複乱	7	1	IV群a類	31								
				K-b-d	器			2	I-7							器'	3	13	
																I-7	器'	10	8
																I-8	器a	5	1
																I-8	器b	13	1
				J-8	器a	7	1												
				J-9	器a	14	1												
ISIV-48	20	I-7 (復元破片)	複乱	7	3	I-7 (復元破片)	複乱	7	4	IV群a類	31								
				I-7	器'			10	1										
				I-7	器a			6	1										
				I-8	器b			12	1										
ISIV-49	23	I-6 (復元破片)	器a	8	32	I-6 (復元破片)	器a	8	29	IV群a類	31								
				I-11 (復元破片)	器a			8	27							H-12 (復元破片)	器a	10	2
ISIV-51	26a	I-11 (復元破片)	器a	5	1	I-11 (復元破片)	器a	8	8	IV群a類	32								
				I-11	I			7	5							H-6	覆土	250	1
				I-11	器a			10	1							F-33	焼土	1	6
				I-11	器a			11	2							F-35	焼土	43	1
				I-11	器b			14	1							I-9	器a	4	6
				I-12	器			3	1							I-9	複乱	5	2
	I-12	器a	8	1	I-9	器a	13	1											
	26b	I-11 (復元破片)	器a	8	7	I-9	器a	14	2										
				I-9	複乱			16	1							I-9	複乱	16	3
				I-11	器a			7	1							I-9	器a	17	1
	26c	I-11 (復元破片)	器a	11	1	I-10	器a	2	1										
				I-11	器a			8	3							I-10	器a	9	1
									I-11	I	2	1							
									I-11	器a	6	2							
									I-11	器a	9	7							
									I-11	器a	10	11							
									I-11	器a	11	9							
									I-11	器b	16	1							
									I-12	器	3	5							
									I-12	器a	6	10							
									I-12	器a	8	1							
									J-9	器a	7	2							
									J-9	器b	17	1							
				J-11	器a	3	4												

表IV-7 矢不來9遺跡 包含層遺物出土狀況掲載土器一覽(3)

図番号	掲載番号	復元・接合・破片				同一個体未接合破片				分期	図番番号	復元個体 (cm)		
		調査区	層位	遺物番号	接合点数	調査区	層位	遺物番号	接合点数			口 径	底 形	器 高
BIV-32	27	07L-8-a	Ⅲ		1	07J-7	Ⅲ		2	IV群a類	32			
		1-11	Ⅲa	6	1	07K-8	Ⅲ		8					
		1-12	Ⅲa	6	3	07K-8-a	Ⅲ		1					
		1-13	Ⅲa	8	10	07K-8-b	Ⅲ		1					
		1-13	Ⅲa	9	10	07K-8-c	Ⅲ		2					
		J-15	I	2	1	07K-8-d	Ⅲ		1					
						07K-9-c	Ⅲ		1					
						07L-7	Ⅲ		2					
						07L-8	Ⅲ		1					
						07I-8-a	Ⅲ		2					
						G-5	Ⅲa		2					
						H-11	Ⅲa	8	1					
						H-11	Ⅲa	10	1					
						H-15	I	2	1					
						H-18	Ⅲa	4	1					
						H-19	I	1	1					
						I-7	Ⅲa	8	1					
						I-11	Ⅲa	11	2					
						I-12	I	1	2					
						I-12	Ⅲa	6	3					
						(復元品) I-12	Ⅲa	10	3					
						I-13	Ⅲa	8	12					
						I-15	Ⅲb	4	1					
						I-17	Ⅲa	3	1					
						J-7	I	4	1					
						J-7	Ⅲ		3					
						J-7	Ⅲa	5	3					
				J-7	Ⅲa	7	7							
				J-7	Ⅲa	10	1							
				J-12	Ⅲ	4	1							
				J-12	Ⅲ'	5	1							
				J-15	Ⅲ	4	3							
				K-8-a	Ⅲ		2							
				K-8-d	Ⅲ		2							
				K-10	Ⅲ		2							
				L-9	Ⅲ		1							
BIV-32	28	(復元品) I-12	Ⅲa	10	61	(復元品) I-12	Ⅲa	10	43	IV群a類	32			
						G-15	Ⅲa	2	1					
BIV-33	30	(復元品) J-7	Ⅲa	17	11	(復元品) J-7	Ⅲa	17	2	IV群a類	32			
		H-6	覆土	131	1									
		J-7	Ⅲa	15	2									

表IV-7 矢不來9遺跡 包含層遺物出土狀況掲載土器一覽(4)

図番号	掲載番号	復元・統合・破片				同一個体未統合破片				分類	図番番号	復元個体 (cm)		
		調査区	層位	遺物番号	接合点数	調査区	層位	遺物番号	接合点数			口径	底形	器高
BGV-53	31	J-9 (H-6)	Ⅲ a	17	8	H-6	覆土	90	5	IV群 a 類	33			
		H-6	覆土	102	1	H-6 (I-11-16)	覆土	181	1					
		H-6	覆土	108	1	H-6	覆土	196	1					
		H-6 (I-11-20)	覆土	152	1	H-6	覆土	197	1					
		H-6 (I-11-26)	覆土	192	1	H-6	覆土	203	1					
		H-6	覆土	193	1	H-6	覆土	215	1					
		H-6	覆土	199	1	H-6	覆土	293	1					
		H-6	覆土	200	1	H-6	覆土	319	1					
		H-6	覆土	201	1	P-24	覆土	1	2					
		H-6	覆土	202	1	I-10	Ⅲ a	11	1					
		H-6	覆土	204	1	I-11	I	2	1					
		H-6	覆土	214	1	I-11	Ⅲ a	10	1					
		H-6	覆土	300	1									
		H-6	覆土	381	1									
		H-6	覆土	386	1									
		H-6	覆土	403	1									
		I-10	Ⅱ	3	3									
		I-10	Ⅲ a	11	2									
		I-11	Ⅲ a	9	3									
		併) J-7	Ⅲ		4									
J-17	Ⅲ a	17	1											

表IV-8 矢不來9遺跡 包含層掲載土器一覽(1)

図番号	掲載番号	復元・統合・破片				同一個体未統合破片				分類	図番番号	復元個体 (cm)		
		調査区	層位	遺物番号	接合点数	調査区	層位	遺物番号	接合点数			口径	底形	器高
BGV-54	1	I-17	Ⅲ b	1	6	I-17	Ⅲ a	3	1	IV群 a 類	33	(12.70)		(12.70)
		I-17	Ⅲ a	3	9									
		I-17	Ⅲ	5	6									
		J-17	Ⅲ	4	3									
		J-17	Ⅲ'	8	1									
BGV-54	2	J-6	Ⅲ a	4	1	J-6	Ⅲ a	3	16	II群 b 類	33			
		J-6	Ⅲ a	9	3	J-6	Ⅲ a	4	10					
		J-6	Ⅲ a	10	1	J-6	Ⅲ b	5	2					
						J-6	Ⅲ b	6	3					
						J-6	Ⅲ a	9	3					
				J-6	Ⅲ a	10	2							
BGV-54	3	I-3	Ⅲ b	1	1				Ⅲ群 a 類	33				
BGV-54	4	J-2	Ⅲ b	1	2				Ⅲ群 a 類	33				
BGV-54	5	I-2	Ⅲ b	3	1				Ⅲ群 a 類	33				
BGV-54	6	H-4	Ⅲ b	7	1	F-4	Ⅲ a	1	1	Ⅲ群 a 類	33			
		H-4	Ⅲ b	9	7	G-8	Ⅲ a	7	2					
		I-5	Ⅲ'	5	1	H-9	Ⅲ a	7	1					
						H-9	Ⅲ a	9	1					
						H-16	Ⅲ b	2	3					
				M-9	I	4	1							
BGV-54	7	I-3	Ⅲ'	5	1				Ⅲ群 a 類	33				

表IV-8 矢不來9遺跡 包含層揭載土器一覽(2)

図番号	期番号	復元・統合・破片				同一個体未統合破片				分期	図番号	復元個体 (cm)		
		調査区	層位	遺物番号	接合点数	調査区	層位	遺物番号	接合点数			口徑	底形	器高
BSIV-54	8	H-17	Ⅱa	4	1	G-12	Ⅱa	2	4	Ⅱ群a類	33			
						H-5	Ⅱb	10	1					
						H-6	Ⅱb	1	27					
						H-6	Ⅱb	2	1					
						H-6	Ⅱb	6	11					
						H-6	Ⅱb	7	1					
				J-5	Ⅱ'	5	1							
BSIV-54	1	I-17	Ⅱb	1	6	I-17	Ⅱa	3	1	Ⅳ群a類	33	(12.70)	7.30	(12.70)
		I-17	Ⅱa	3	9									
		I-17	Ⅱ	5	6									
		J-17	Ⅱ	4	3									
		J-17	Ⅱ'	8	1									
BSIV-54	2	J-6	Ⅱa	4	1	J-6	Ⅱa	3	16	Ⅱ群b類	33			
		J-6	Ⅱa	9	3	J-6	Ⅱa	4	10					
		J-6	Ⅱa	10	1	J-6	Ⅱb	5	2					
						J-6	Ⅱb	6	3					
						J-6	Ⅱa	9	3					
						J-6	Ⅱa	10	2					
BSIV-54	3	I-3	Ⅱb	1	1				Ⅱ群a類	33				
BSIV-54	4	J-2	Ⅱb	1	2				Ⅱ群a類	33				
BSIV-54	5	I-2	Ⅱb	3	1				Ⅱ群a類	33				
BSIV-54	6	H-4	Ⅱb	7	1	F-4	Ⅱa	1	1	Ⅱ群a類	33			
		H-4	Ⅱb	9	7	G-8	Ⅱa	7	2					
		I-5	Ⅱ'	5	1	H-9	Ⅱa	7	1					
						H-9	Ⅱa	9	1					
						H-16	Ⅱb	2	3					
						M-9	I	4	1					
BSIV-54	7	I-5	Ⅱ'	5	1					Ⅱ群a類	33			
		H-17	Ⅱa	4	1	G-12	Ⅱa	2	4					
BSIV-54	8					H-5	Ⅱb	10	1	Ⅱ群a類	33			
						H-6	Ⅱb	1	27					
						H-6	Ⅱb	2	1					
						H-6	Ⅱb	6	11					
						H-6	Ⅱb	7	1					
						J-5	Ⅱ'	5	1					
BSIV-54	9	I-10	Ⅱ'	7	1				V群a類	33				
BSIV-54	10	H-16	Ⅱa	6	1				V群a類	33				
BSIV-55	11a	J-12	Ⅱa	2	5	J-12	Ⅱ'	5	31	Ⅳ群a類	33			
		J-12	Ⅱ'	5	2	J-12	Ⅱa	2	2					
	J-12	Ⅱa	6	3										
	J-12	Ⅱ'	5	2										
BSIV-55	11b	J-12	Ⅱa	6	1									
		J-12	Ⅱa	6	1									
BSIV-55	12	J-5	Ⅱa	4	1				Ⅳ群a類	33				
BSIV-55	13	J-12	Ⅱa	3	2				Ⅳ群a類	33				
BSIV-55	14	I-11	Ⅱa	10	5	I-11	Ⅱa	10	3	Ⅳ群a類	33			
		I-16	Ⅱa	1	1									

表IV-8 矢不來9遺跡 包含層揭露土器一覽(2)

図番号	発掘番号	復元・統合・破片				同一個体未統合破片				分類	図番番号	復元個体 (cm)		
		調査区	層位	遺物番号	接合点数	調査区	層位	遺物番号	接合点数			口徑	底形	器高
BSIV-55	15a	G-12	Ⅱa	2	2	G-12	Ⅱa	2	1	IV群a類	33			
		H-10	Ⅱ	2	2	G-13	Ⅰ	1	5					
		H-11	Ⅱ'	2	1	G-13	Ⅱa	3	1					
		H-12	Ⅱb	7	1	H-10	Ⅱ'	1	1					
		H-13	Ⅰ	1	3	H-10	Ⅱ	2	1					
		H-13	Ⅱ	6	1	H-10	Ⅰ	13	1					
	H-13	Ⅱa	8	15	H-11	Ⅰ	1	1						
	H-13	Ⅱa	8	38	H-11	Ⅰ	3	4						
					H-11	Ⅱa	8	1						
					H-12	Ⅱa	10	3						
					H-13	Ⅰ	3	3						
					H-13	Ⅱ	5	1						
					H-13	Ⅱa	8	42						
					I-6	Ⅰ	1	1						
					I-6	攪乱	2	2						
					I-10	Ⅱa	18	1						
				I-11	Ⅰ	3	2							
				I-13	Ⅱa	9	1							
				J-20	Ⅱ	2	1							
BSIV-56	16a	I-9	Ⅱa	13	2	I-9	Ⅱa	13	1	IV群a類	33			
		I-9	Ⅱa	15	1									
	H-10	Ⅱ'	6	1										
	I-11	Ⅱa	10	2										
16b	J-9	Ⅱa	17	1										
BSIV-56	17	I-14	Ⅱa	1	2					IV群a類	33			
		I-14	Ⅱa	2	3									
BSIV-56	18a	G-16	Ⅱa	1	2	G-16	Ⅱa	1	5	IV群a類	33			
		G-16	Ⅱa	2	7	G-16	Ⅱa	2	27					
		G-16	Ⅱa	4	2	G-16	Ⅱa	4	12					
		G-16	攪乱	5	6	G-16	攪乱	5	10					
	G-16	Ⅱa	2	8	G-17	Ⅱa	1	2						
	18b					G-17	Ⅱa	3	4					
					H-15	Ⅱ	5	1						
BSIV-57	19	H-16	Ⅱa	3	7					IV群a類	33			
		H-21	Ⅱa	3	1									
BSIV-57	20a	H-11	Ⅱa	4	1	H-10	Ⅱ	2	1	IV群a類	33			
		H-11	風倒木	10	1	H-11	Ⅱa	4	6					
		H-12	Ⅱ	8	1	H-11	Ⅱa	7	2					
		H-12	Ⅱa	10	3	H-11	Ⅱa	8	2					
		H-12	Ⅱ	14	4	H-11	風倒木	10	12					
		H-11	風倒木	10	5	H-11	風倒木	11	2					
	20b	H-12	Ⅱ	14	1	H-11	風倒木	12	1					
		H-11	Ⅱa	8	1	H-12	Ⅰ	4	1					
		H-11	風倒木	10	1	H-12	Ⅱb	8	11					
	20c	H-12	Ⅱ	10	1	H-12	Ⅱa	10	16					
						H-12	Ⅱ	14	4					
						H-13	Ⅱa	8	1					

表IV-8 矢不來9遺跡 包含層揭露土器一覽(3)

図番号	层番号	復元・综合・破片				同一個体未综合破片				分期	図番番号	復元個体 (cm)		
		調査区	层位	遺物番号	综合点数	調査区	层位	遺物番号	综合点数			口 径	底 形	器 高
ISIV-58	21	H-6 (H-10C)	覆土	396	1	H-6	覆土	135		IV群 a 類	33			
		H-6 (H-10C)	覆土	397	1	H-6	覆土	136						
		H-6	覆土	409	1	H-6	覆土	142						
		H-11	Ⅱ a	4	5	H-6	覆土	340						
		H-11	Ⅱ a	7	1	H-6 (H-10C)	覆土	398						
		H-11	Ⅱ a	8	1	H-6 (H-10C)	覆土	399						
						H-6	覆土	435						
						H-7	Ⅱ a	3						
						H-10	Ⅱ'	1						
						H-10	Ⅱ a	4						
						H-10	Ⅱ a	9						
ISIV-58	22	J-8	Ⅱ a	9	5	J-7 (3007)	Ⅱ	1	IV群 a 類	33				
		J-7 (3007)	Ⅱ	4										
ISIV-58	23	I-11	Ⅱ a	10	1	H-6	覆土	355	1	IV群 a 類	33			
		J-10	Ⅱ a	2	1	I-9	Ⅱ a	4	1					
		J-11	Ⅱ b	5	1	I-11	I	3	1					
						I-11	Ⅱ a	8	1					
						I-11	Ⅱ a	9	2					
						I-11	Ⅱ a	11	2					
ISIV-58	24	I-5	Ⅱ'	4	1	I-15	複瓦	7	1	IV群 a 類	33			
ISIV-58	25	J-9(207)	Ⅱ		1	J-9 (2007)	Ⅱ		1	IV群 a 類	33			
		K-8-a (2007)	Ⅱ		1	M-8 (2007)	複瓦		1					
		I-8	Ⅱ'	8	5	I-10	Ⅱ a	11	1					
		J-8	Ⅱ a	7	1									

表IV-9 矢不來9遺跡 包含層遺物出土状況掲載石器一覧

器種名	図番号	掲載番号	調査区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	備考	図版番号
スレイバー	図IV-43	3	I-3	Ⅲ b	4.30	3.30	1.70	24.14	頁岩	3		29
副刃部		4	I-3	Ⅲ b	9.00	15.90	1.60	261.70	凝灰岩	4		29
石斧片	図IV-44	7	I-4	Ⅲ b	8.05	3.40	1.50	72.72	泥岩	2		29
石槍	図IV-45	8	I-4	Ⅲ b	10.90	3.30	1.60	51.42	黒曜石	8		8
		24	I-11	Ⅲ a	19.60	17.00	9.40	3150.0	凝灰岩	18		31
台石	図IV-50	25	I-11	Ⅲ a	19.65	11.20	7.80	2250.0	凝灰岩	16		31
		29	I-12	Ⅲ a	16.10	12.80	6.10	1830.0	砂岩	17		32
たたき石	図IV-52	29	I-12	Ⅲ a	16.10	12.80	6.10	1830.0	砂岩	17		32
スレイバー	図IV-49	21	I-7	Ⅲ a	8.60	4.050	2.00	53.77	頁岩	11		31
砥石		22	I-7	Ⅲ a	12.20	(7.50)	5.45	(715.00)	砂岩	20		31

表IV-10 矢不來9遺跡 包含層掲載石器一覧(1)

器種名	図番号	掲載番号	調査区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	備考	図版番号
石鏃	図IV-59	1	J-9	Ⅲ a	2.55	(1.05)	0.25	(0.36)	頁岩	10		35
		2	J-17	Ⅲ	2.75	1.25	0.35	0.58	頁岩	5		35
		3	H-21	Ⅲ	2.40	1.50	0.40	0.97	頁岩	1		35
		4	J-7	Ⅱ'	3.32	1.45	0.35	1.15	頁岩	33		35
		5	I-10	Ⅲ b	3.50	1.30	0.50	1.87	頁岩	19		35
		6	I-4	Ⅲ b	3.35	1.45	0.50	2.15	頁岩	4		35
		7	J-7	Ⅲ a	2.95	1.20	0.45	1.15	頁岩	5		35
		8	J-12	Ⅲ a	3.05	1.60	0.55	2.23	頁岩	3		35
		9	I-4	Ⅲ b	4.40	1.55	0.65	3.27	頁岩	3		35
石錐	図IV-59	10	J-7	Ⅲ a	3.10	1.40	5.05	2.52	頁岩	31		35
石槍		11	J-22	法面盛土	(11.00)	3.60	1.65	(60.18)	黒曜石	1		35
球状付石		12	J-4	Ⅲ a	8.45	4.05	0.80	23.47	頁岩	3	未成品	35
ナイフ		13	H-5	Ⅲ a	8.10	2.70	1.10	23.58	頁岩	5		35
籠状石器		14	J-7	Ⅲ a	3.30	2.45	1.25	8.94	頁岩	21		35
両面調整石		15	J-7	Ⅲ a	2.20	2.60	1.05	5.87	頁岩	20		35
		16	I-7	Ⅲ a	2.80	3.15	1.05	6.74	頁岩	9		35
		17	I-9	B調穴	4.20	2.90	1.60	14.45	頁岩	11		35
		18	I-11	Ⅲ a	5.15	4.10	1.75	35.46	頁岩	7		35
		19	J-7	Ⅲ a	2.45	3.90	1.00	10.75	頁岩	19		35

表IV-10 矢不來9遺跡 包含層掲載石器一覽(2)

器種名	図番号	掲載番号	調査区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	備 考	図版番号	
スクリッパー	図IV-59	20	I-2	Ⅲ b	4.25	3.10	0.90	14.59	めのう	6		35	
		21	I-9	B調穴		3.90	3.20	0.85	10.15	頁岩	12		35
		22	J-7	Ⅲ a		3.95	3.15	1.30	16.99	頁岩	10		35
		23	I-2	Ⅲ b		5.85	2.80	0.75	13.71	頁岩	5		35
		24	I-5	Ⅲ b		4.40	3.65	1.00	11.95	頁岩	7		35
		25	J-10	Ⅲ a		5.70	4.50	1.35	29.25	頁岩	6		35
		26	I-2	I		7.50	3.00	1.20	24.98	頁岩	2		35
		27	H-11	Ⅲ a		7.40	4.20	1.50	42.38	頁岩	4		35
		28	I-11	Ⅲ a		5.80	2.75	1.85	25.14	頁岩	27		35
	図IV-60	29	J-20	Ⅱ		6.35	3.90	0.80	21.85	頁岩	1		35
		30	H-6	Ⅲ b		8.65	3.50	1.25	38.27	頁岩	5		35
		31	J-6	Ⅲ a		3.85	2.40	1.10	7.87	頁岩	4		35
		32	J-9	Ⅲ a		9.80	4.65	1.70	75.01	頁岩	4		35
		33	J-11	Ⅲ a		5.00	4.50	1.60	41.79	頁岩	5		35
		34	H-15	Ⅲ		5.85	5.40	1.50	39.98	めのう	4		35
		35	H-7	Ⅲ a		5.30	5.25	1.30	38.46	頁岩	1		35
		36	J-7	Ⅲ a		3.90	5.80	1.30	22.92	頁岩	11		35
		37	I-17	Ⅲ a		5.10	6.50	1.70	57.21	めのう	4		35
		38	J-17	Ⅱ		2.95	3.15	1.50	14.11	頁岩	3		35
石核	図IV-61	39	J-10	Ⅲ a		4.70	3.10	5.05	77.81	頁岩	8		35
		40	G-14	Ⅲ a		5.10	5.90	3.30	110.85	頁岩	4		35
		41	H-11	Ⅲ a		4.85	3.60	3.10	43.05	頁岩	7		35
		42	I-14	Ⅲ a		6.10	3.20	1.50	49.74	泥岩	1		36
		43	I-16	Ⅲ a		8.00	2.80	1.90	63.54	泥岩	1		36
		44	H-9	Ⅲ b		11.10	3.50	1.25	79.59	泥岩	1	被熱	36
		45	H-9	Ⅲ b (10.50)		5.50	3.10	2.70	270.00	泥岩	3		36
		46	H-9	Ⅲ b (6.80)		4.65	2.60	2.60	134.20	閃緑岩	2		36
		47	J-7	I (4.90)		10.20	3.45	3.45	248.00	閃緑岩	3		36
		48	J-9	Ⅲ b		9.10	8.20	3.90	477.60	花崗岩	41		36
石斧	図IV-62	49	J-10	Ⅲ a		8.80	4.15	2.55	134.00	砂岩	19		36
		50	H-11	Ⅲ a		10.10	4.90	2.35	141.80	泥岩or頁岩	15		36
		51	J-9	Ⅲ b		14.40	9.50	4.50	715.00	砂岩	35		36
		52	H-11	Ⅲ a		11.35	7.60	5.00	630.00	砂岩	18		36
		53	H-10	Ⅲ a		8.60	7.25	6.55	610.00	砂岩	26		36
		54	J-9	Ⅲ a		5.50	5.45	4.30	196.30	頁岩	34		36
		55	I-8	Ⅲ a		6.35	5.80	(3.10)	(157.40)	めのう	24		36
		56	G-10	Ⅱ'		6.80	6.05	5.70	328.00	めのう	7		36
		57	I-2	Ⅲ b		13.50	13.20	1.90	383.80	砂岩	2		36
		58	G-5	Ⅲ b		3.95	11.20	1.65	99.00	砂岩	2		36
すり石	図IV-63	59	I-5	Ⅲ b (3.35)		7.10	1.25	(32.43)	泥岩	7		36	
		60	I-4	Ⅲ b		8.80	15.00	2.00	396.80	凝灰岩	4		36
		61	H-5	I		6.75	16.00	2.25	266.80	凝灰岩	1		36
		62	G-5	Ⅲ a		8.35	15.00	1.85	288.00	砂岩	6		36
		63	G-8	Ⅲ b		8.10	17.40	2.40	436.40	凝灰岩	10		36
		63	G-8	Ⅲ b		8.10	17.40	2.40	436.40	凝灰岩	10		36





表V-7 矢不來10遺跡 包含層掲載石器一覧

器種名	図番号	掲載番号	調査区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	図版番号
石鏃	図V-6	1	G-44	Ⅲ	2.80	1.20	0.30	0.69	頁岩	2	42
石槍		2	E-24	Ⅲ	7.60	4.20	1.20	30.81	頁岩	1	42
ナイフ		3	H-26	Ⅲ	6.80	3.00	0.90	17.02	頁岩	2	42
		4	E-36	Ⅲ	3.10	2.90	0.80	6.95	頁岩	1	42
つまみ付きナイフ		5	F-26	Ⅲ	9.50	2.60	0.70	15.32	頁岩	2	42
		6	F-25	Ⅲ	6.30	2.60	0.60	10.00	頁岩	2	42
スレイバー		7	F-24	Ⅲ	6.90	4.20	1.20	35.34	頁岩	1	42
		8	B-58	Ⅲ	8.50	4.40	1.40	59.75	頁岩	1	42
		9	G-44	Ⅲ	( 6.00)	( 6.10)	1.40	( 53.96)	頁岩	3	42
石斧片		10	F-28	Ⅲ	( 1.90)	( 3.60)	(1.10)	( 7.25)	泥岩	1	42
砥石		11	E-24	Ⅲ	11.70	8.10	4.30	410.00	砂岩	1	42



表VI-4 矢不來11遺跡 遺構掲載土器一覽

遺構番号	図番号	復元・接合・破片				同一個体未接合破片				分類	図版番号	復元個体 (cm)											
		掲載番号	層位	高さ・遺跡	遺物番号	接合点数	高さ・層位	層位	遺物番号			接合点数	口	径	底	形	器	高					
F-13	図VI-6	1 a	Ⅲ	D-18	1	1	D-18	Ⅲ	1	3	IV群 a 類	48											
			Ⅲ	D-18	9	3		Ⅲ	現乱	4							3						
			Ⅲ	F-13	18	1		Ⅲ		5							1						
			Ⅲ	F-13	46	1		Ⅲ		6							1						
			Ⅲ	F-13	48	1		Ⅲ		9							2						
			Ⅲ	F-13	50	1	F-13	Ⅲ	49	1													
			Ⅲ	F-13	53	1		Ⅲ	52	1													
		1 b	Ⅲ	D-18	1	8																	
			Ⅲ	現乱	D-18	3	1																
			Ⅲ	現乱	D-18	4	2																
		1 c	Ⅲ	D-18	1	2																	
			Ⅲ	D-18	9	1																	
			Ⅲ	F-13	38	1																	
		遺物集中1	図VI-7	1	Ⅲ	遺物集中1	20	3										IV群 a 類	48				
				2	Ⅲ	遺物集中1	20	1															
3	Ⅲ			遺物集中1	20	2																	
4	Ⅲ			遺物集中1	20	1																	
4	Ⅱ			D-19	5	1	遺物集中1	Ⅲ	19	1													
							D-18	Ⅲ	1	7													
							D-18	Ⅲ	6	1													
							D-19	Ⅲ	2	1													
							D-19	Ⅲ	8	1													
							F-13	Ⅲ	44	1													
5	Ⅲ			遺物集中1	20	2																	
5	Ⅲ	G-26	1	1																			
6	Ⅲ	遺物集中1	19	1																			

表VI-5 矢不來11遺跡 遺構掲載石器一覽

遺構名	図番号	掲載番号	器種名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	図版番号
遺物集中1	図VI-7	7	扁平打石蓋	Ⅲ	10.50	15.80	3.20	435.00	流紋岩	6	48

表VI-6 矢不來11遺跡 包含層掲載土器一覽

図番号	複元・接合・破片					同一個体未接合破片				分類	図版番号	複元個体 (cm)			
	発掘番号	調査区	層位	遺物番号	接合点数	調査区	層位	遺物番号	接合点数			口徑	底形	器高	
DVI-8	1 a	F-25	■	5	1	F-24	■	2	1	II群b類	49				
	1 b	F-25	■	3	1	F-25	■	3	2						
						F-25	■	4	4						
						G-25	■	1	2						
	2	E-23	■	1	1					IV群a類	49				
	3	E-19	■	2	1					IV群a類	49				
	4	E-25	■	3	1					IV群a類	49				
	5	F-25	■	7	1	E-24	■	1	1	IV群a類	49				
		G-24	■	1	3	G-24	■	1	14						
						F-25	■	7	32						
	6	E-16	■	1	1					IV群a類	49				
	7	E-26	■	2	5	E-22	■	3	1	IV群a類	49				
						G-25	■	2	4						
	8	E-23	■	1	1	E-18	■	6	3	IV群a類	49				
		F-22	■	1	1	E-23	■	4	1						
						E-24	■	3	1						
						E-25	■	3	1						
	9 a	D-17	■	1	1	D-17	■	1	1	IV群a類	49				
		D-17	■	5	1	D-17	■	5	1						
		D-17	■	6	1										
	9 b	D-18	■	1	2										
10	F-23	■	3	1	F-23	■	3	1	IV群a類	49					
	F-23	■	4	1											
11	E-21	■	1	1	E-21	■	1	1	IV群a類	49					
12	E-24	■	1	1	D-17	■	1	1	IV群a類	49					
					D-17	■	5	2							
					D-23	■	1	2							
					D-24	■	1	1							
					E-23	■	1	1							
13	E-25	■	3	1	F-25	■	7	1	IV群a類	49					
	F-25	■	4	1											
14	F-22	■	2	2	D-21	■	5	1	IV群a類	49					
15	D-18	複瓦	4	1	D-17	複瓦	4	1	IV群a類	49					
16	E-16	■	1	1					IV群a類	49					
17	D-18	■	1	1	D-18	■	7	1	IV群a類	49					
18	E-21	■	1	1	E-21	■	1	5	IV群a類	49					
19	E-20	■	2	2	E-19	■	2	1	IV群a類	49					
20 a	D-25	■	2	1					IV群a類	49					
	E-25	■	2	1											
20 b	E-25	■	4	1											
21	E-24	■	1	1					IV群a類	49					

表VI-7 矢不來11遺跡 包含層掲載石器一覧

器種名	図番号	掲載番号	調査区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	遺物番号	図版番号
石鏃	図VI-9	1	D-25	Ⅲ	( 2.00)	1.40	0.40	( 0.53)	めのう	2	50
		2	D-17	Ⅲ	2.90	1.40	0.40	0.95	頁岩	4	50
		3	E-18	Ⅲ	( 3.90)	1.50	0.50	( 2.44)	頁岩	12	50
		4	D-20	Ⅲ	4.80	( 2.80)	0.40	( 4.98)	頁岩	6	50
		5	E-22	Ⅲ	5.20	1.60	0.50	2.63	頁岩	1	50
スクレイパー	図VI-9	6	E-18	Ⅲ	5.10	6.50	1.30	36.42	頁岩	1	50
		7	E-18	Ⅲ	5.90	2.90	1.40	23.80	頁岩	2	50
		8	D-20	Ⅲ	5.10	3.20	0.90	13.00	頁岩	5	50
		9	F-27	Ⅲ	7.10	4.60	1.50	50.86	頁岩	1	50
角形調整石器		10	D-17	Ⅲ	6.00	5.60	2.30	66.95	頁岩	7	50
石核		11	E-24	Ⅲ	4.80	6.00	5.50	171.43	頁岩	2	50
石斧	図VI-10	12	E-25	Ⅲ	( 5.60)	4.20	2.20	( 83.10)	泥岩	1	50
		13	E-26	Ⅲ	( 7.60)	4.50	2.40	(130.03)	閃緑岩	1	50
たたき石		14	E-14	Ⅲ	13.30	6.20	6.90	510.00	安山岩	1	50
すり石	図VI-10	15	D-17	Ⅲ	9.90	6.10	3.90	310.00	砂岩	4	50
		16	F-21	Ⅲ	5.60	13.70	2.80	355.00	泥岩	1	50
砥石	図VI-10	17	E-21	Ⅲ	8.20	11.60	2.50	220.00	砂岩	5	50
		18	D-28	Ⅲ	13.00	5.60	4.60	280.00	泥岩	5	50
扇形調整石器		19	C-28	Ⅲ	10.80	11.80	2.00	315.00	凝灰岩	1	50

### 3. 引用・参考文献

- 上磯町教育委員会 2003 「押上1遺跡」  
上磯町教育委員会 2004 「押上1遺跡」  
上磯町 1997 「上磯町史」  
上磯町地方史研究会 1997 「上磯町年表」

- 松前町教育委員会 1974 「松前町大津遺跡発掘報告書」  
松前町教育委員会 1983 「白板」

- 財北海道埋蔵文化財センター 1986 「知内町 湯の里3遺跡」北埋調報32  
財北海道埋蔵文化財センター 1986 「木古内町 札苧遺跡」北埋調報34  
財北海道埋蔵文化財センター 1987 「上磯町 矢不來2遺跡」北埋調報37  
財北海道埋蔵文化財センター 1987 「木古内町 建川2遺跡・新道4遺跡」北埋調報43  
財北海道埋蔵文化財センター 1988 「上磯町 矢不來天満宮遺跡」北埋調報47  
財北海道埋蔵文化財センター 1998 「上磯町 茂別遺跡」北埋調報121  
財北海道埋蔵文化財センター 2004 「森町 濁川左岸遺跡 -A地区-」北埋調報208  
財北海道埋蔵文化財センター 2006 「北斗市 矢不來7遺跡・矢不來8遺跡」北埋調報232  
財北海道埋蔵文化財センター 2006 「北斗市 矢不來6遺跡・矢不來11遺跡」北埋調報235  
財北海道埋蔵文化財センター 2007 「北斗市 矢不來8遺跡(2)・矢不來10遺跡」北埋調報244  
財北海道埋蔵文化財センター 2008 「北斗市 矢不來6遺跡(2)・矢不來9遺跡・矢不來11遺跡(2)」  
北埋調報257

- 田原 良信 2008 『五稜郭』「日本の遺跡 27」同成社  
野村 祐一・石井 淳平・塚田 直哉 2008 「下国館跡 茂別館跡・矢不來館跡の基礎的研究」  
第29回 北海道考古学情報交換会 発表資料 Vol.2

# 写 真 图 版

图版 1～4 矢不来 8 遺跡

图版 5～36 矢不来 9 遺跡

图版 37～42 矢不来 10 遺跡

图版 43～50 矢不来 11 遺跡







遺構確認区調査状況（北から）



調査区完掘（北西から）

図版 2



P-11 検出及び遺物出土状況 (南から)



P-11 土層断面 (西から)



F-6 確認及び土層断面 (南から)



P-11 完場 (南西から)



F-7 検出及び土層断面 (南から)



CP-2 検出 (南西から)



CP-3 検出 (北西から)



CP-5 検出 (南から)



CP-2・1



P-11・1



CP-4・1 a



CP-4・1 b



CP-4・2 a



CP-4・3



CP-3・1



CP-5・1 a

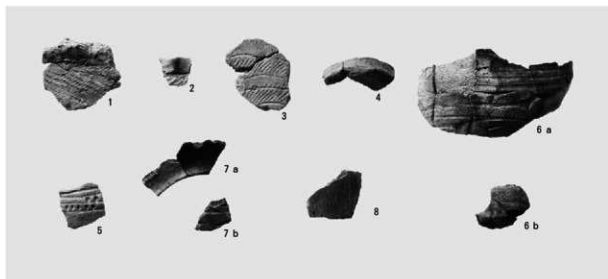


CP-5・1 b



CP-4・2 b

P-11・CP-2・3・4・5の出土遺物



包含層出土の土器



包含層出土の石器



平成20年度調査区 II' 層上面検出 (南東から)



調査状況 (南西から)



H-3 調査状況 (南東から)



H-3 調査状況 (南東から)



H-3 b-b' (東西) 土層断面 (南から)



H-3 b-b' 土層断面 (西から)



H-3 b-b' 土層断面 (東から)



H-3 C-C' 土層断面 (東から)



H-3 C-C' 土層断面 (東から)



H-3 全景 (南東から)



H-3 床面遺物出土状況 (西から)



H-3 床面遺物出土状況 (西から)



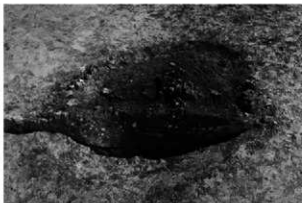
HCB①・②床面の炭化物集中(南から)



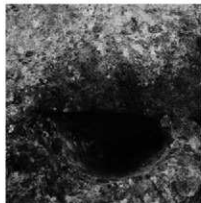
図版 8



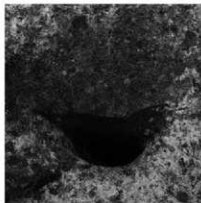
H-3 HF-3 検出 (南から)



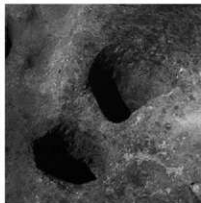
H-3 HF-3 土層断面 (南西から)



H-3 HP-1 土層断面(南から)



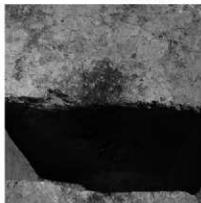
H-3 HP-2 土層断面(南から)



H-3 HP-1・2 完掘(北東から)



H-3 HP-3 土層断面(南から)



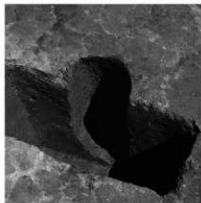
H-3 HP-4 土層断面(西から)



H-3 HP-5 土層断面(南から)



H-3 HP-3 完掘 (南から)



H-3 HP-4 完掘 (南から)



H 3 HP-5 完掘 (西から)



H-3 HP-6・7 土層断面 (南西から)



H-3 HP-6・7 完掘 (南西から)



H-3 HP-9 土層断面(南から)



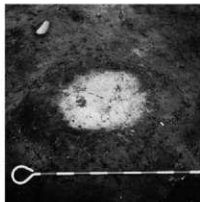
H-3 HP-9 完掘 (南から)



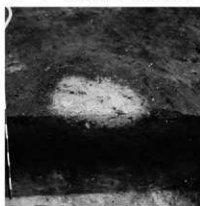
S-2 検出 (東から)



H-4 平地式住居跡検出状況(北から)



HF-1 炉跡の検出(南西から)



HF-1 炉跡の断面(南から)



H-4 HP-1 土層断面(東から)



H-4 HP-2 土層断面(南西から)



H-4 HP-3 断層断面(南から)



H-4 HP-1 完掘(東から)



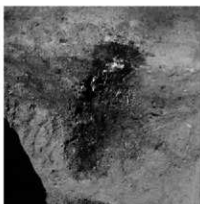
H-4 HP-4 完掘(南西から)



H-4 HP-3 完掘(南から)



H-4 HP-4 土層断面(南から)



H-4 HP-5 土層断面(南から)



H-4 HP-6 土層断面(南西から)



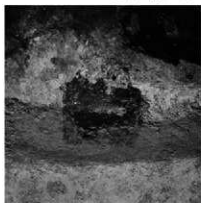
H-4 HP-4 完堀(南から)



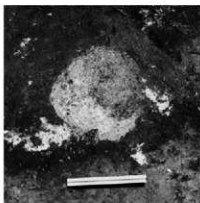
H-4 HP-5 完堀(南から)



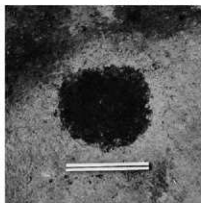
H-4 HP-6 完掘(西から)



H-4 HP-7 土層断面(東から)



H-4 HP-8 検出(西から)



H-4 HP-9 検出(北から)



H-4 HP-7 完堀(東から)



H-4 HP-8 土層断面(南から)

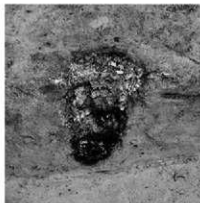


H-4 HP-9 完堀(北西から)

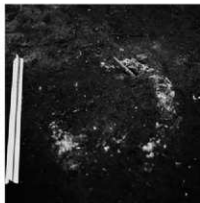
図版12



H-4 HP-10 土層断面(東から)



H-4 HP-11 土層断面(東から)



H-4 HP-3 キセル検出状況(西から)



H-4 HP-10 完掘(東から)



H-4 HP-11 完掘(東から)



調査状況(北から)



H-5 a-a' 土層断面(南から)



H-5 床面遺物出土状況 (北東から)



H-5 覆土下位炭化物(HCB-1)検出状況(北西から)



H-5 床面検出状況 (北東から)



H-5 HF-1 検出(南西から)



H-5 HF-1 土層断面(南西から)



H-5 HP-1 土層断面(北から)



H-5 HP-1 完掘(北から)

図版14



H-5 a-a' 土層断面東側（南から）



H-5 a-a' 土層断面西側（南から）



H-5 b-b' 土層断面（東から）



H-5 b-b' 土層断面南側（東から）



H-5 b-b' 土層断面北側（東から）



H-6 遺物出土状況（南西から）



H-6 HF-1 検出（西から）



H-6 HF-1 土層断面（西から）





P-21 土層断面 (南から)



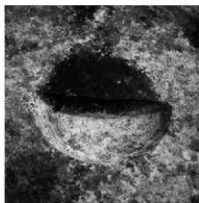
P-22 土層断面 (北から)



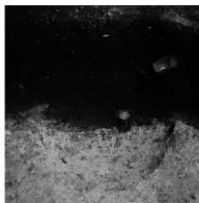
P-21 完掘 (南から)



P-22 完掘 (北東から)



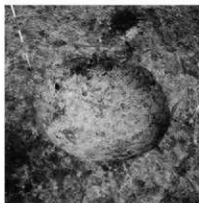
P-23 土層断面 (南東から)



P-24 土層断面 (東から)



P-25 土層断面 (北から)



P-23 完掘 (南東から)



P-24 完掘 (南東から)



P-25 完掘 (北東から)



P-27 土層断面 (北西から)



P-27 完掘 (西から)



F-35①・② 土層断面 (南西から)



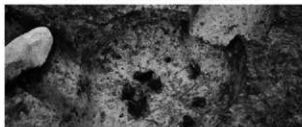
F-35③ 土層断面 (南西から)



F-35 検出と遺物出土状況 (南から)



F-28 検出 (南から)



P-26 完掘 (東から)



F-28 土層断面 (東から)

図版18



包含層遺物出土状況(北から) 図IV-23-1~4



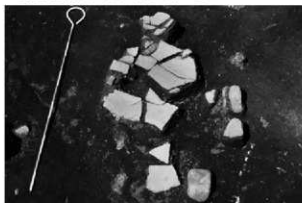
包含層遺物出土状況(南東から) 図IV-45-8・9・10



包含層遺物出土状況(北から) 図IV-46-11・12



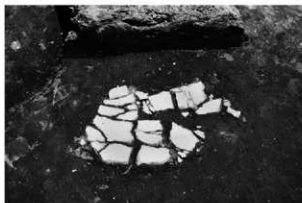
包含層遺物出土状況(北西から) 図IV-43-13・14・15・16



包含層遺物出土状況(南から) 図IV-51-26



包含層遺物出土状況(北東から) 図IV-51-27・28



包含層遺物出土状況(南から) 図IV-49-23



包含層遺物出土状況(東から) 図IV-53-30・31



包含層遺物出土状況（南東から） 図IV-45-8



包含層遺物出土状況（南東から） 図IV-53-30



包含層遺物出土状況（南から） 図IV-35-1



包含層の調査状況 J-11区（西から）



J-8区 II' ~ III a層の遺物出土状況（西から）



J-9区 土層断面（西から）



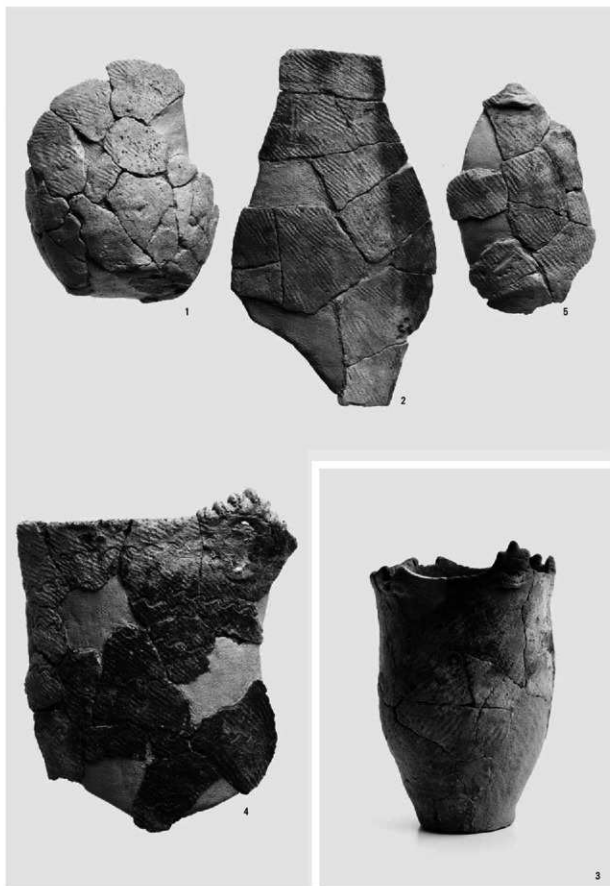
J-8区 土層断面（西から）



調査区北壁（G-6～8区）土層断面（北東から）

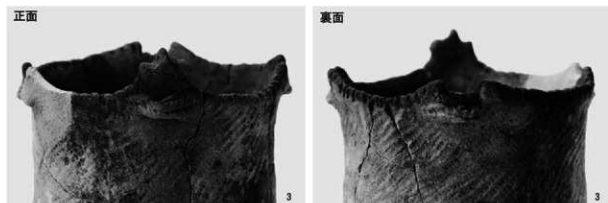


調査区北壁（G-17～20区）土層断面（北東から）

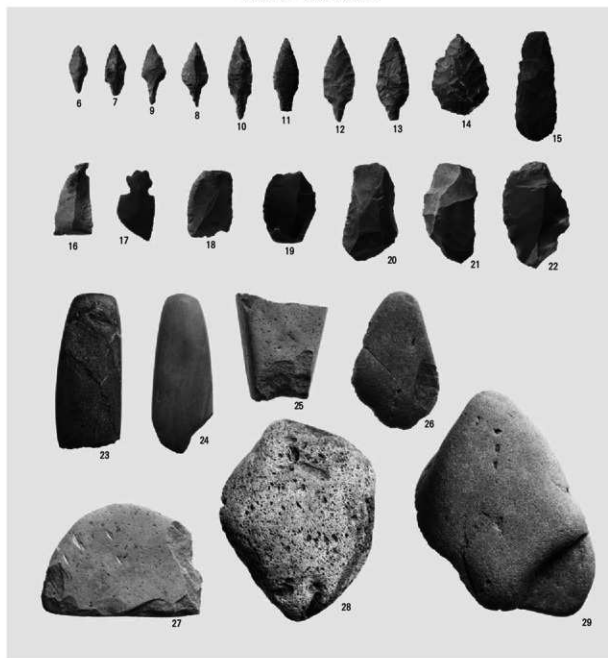


H-3 出土遺物(1)

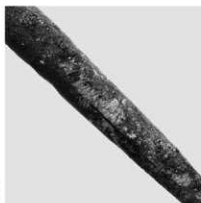
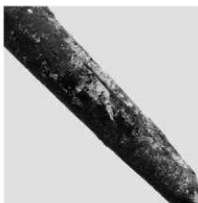
図版22



波状口縁・波頂部の拡大



H-3 出土遺物(2)



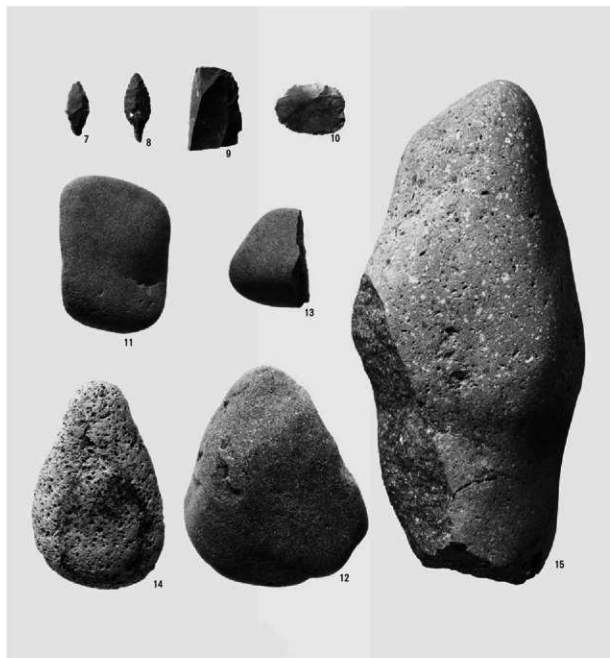
H-4・HP-3 出土のキセル

キセル鑢付け部分の拡大



H-4・H-5 出土遺物(1)

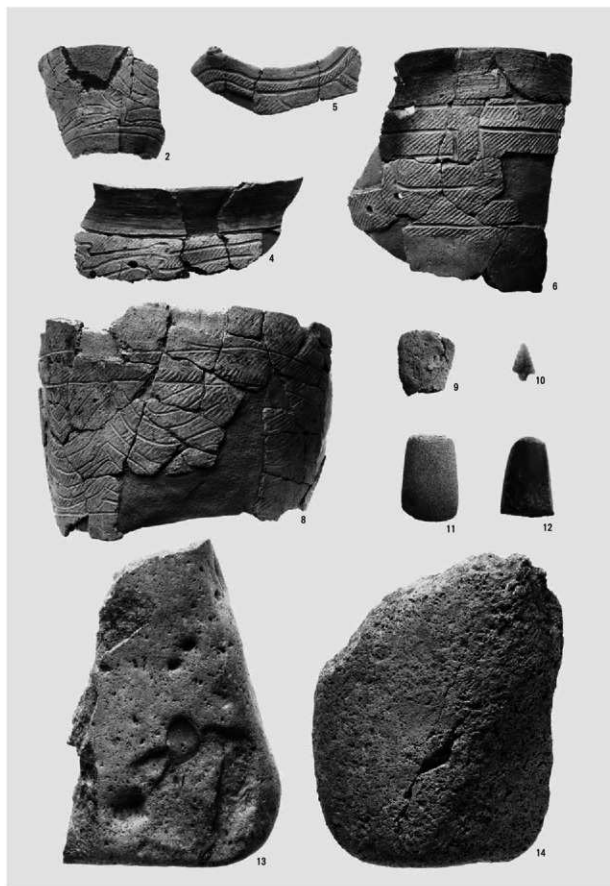




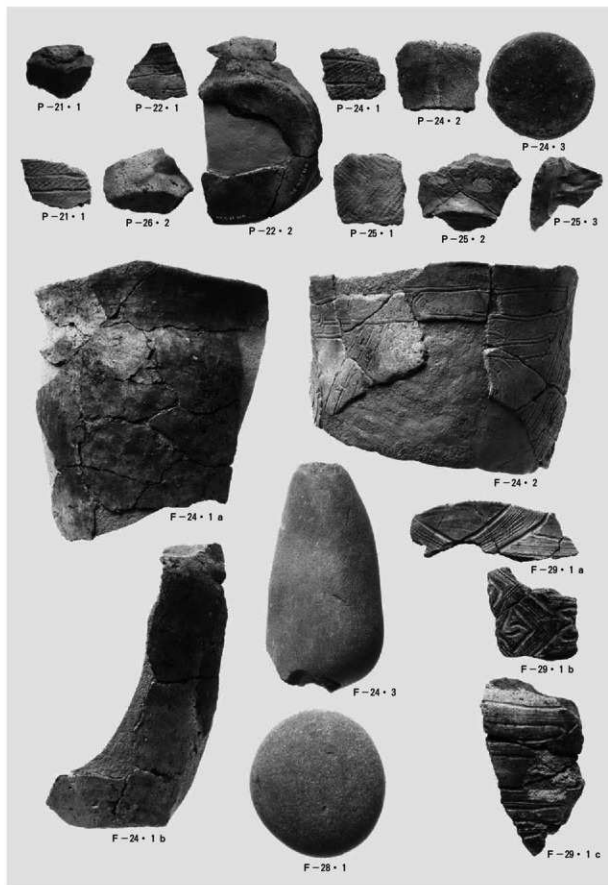
H-5 出土遺物(2)



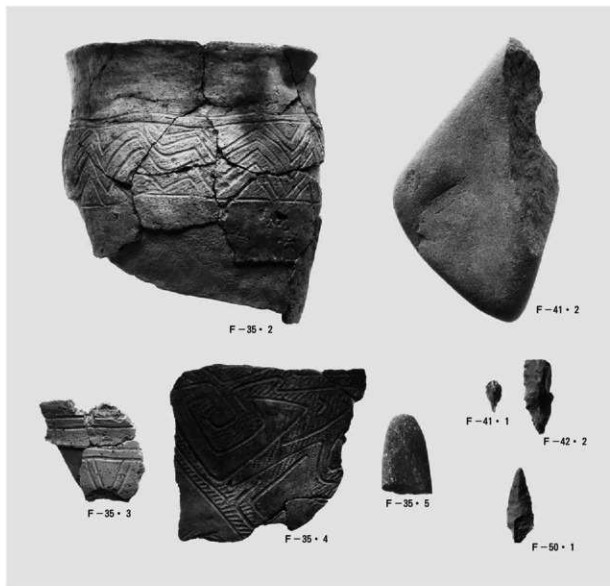
H-6 出土遺物(1)



H-6 出土遺物(2)



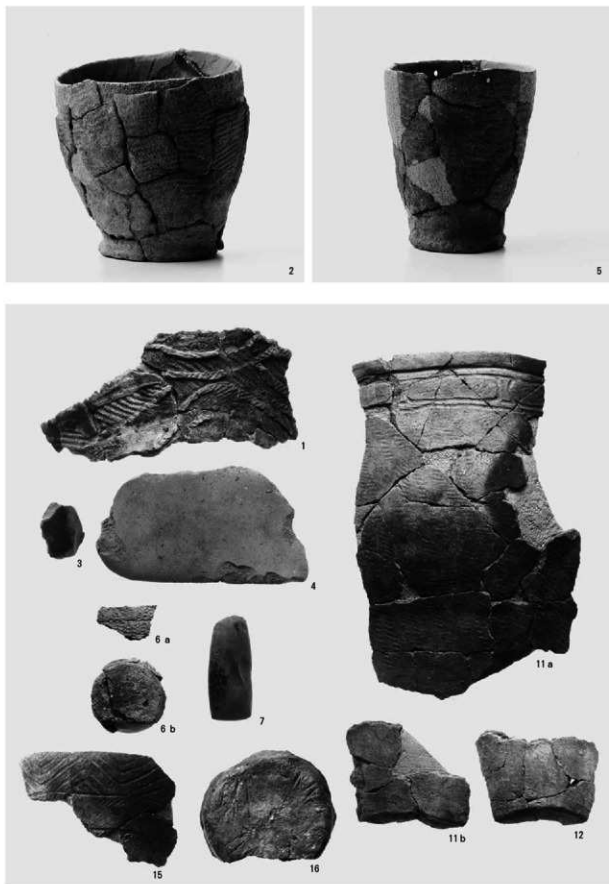
P-21 · 22 · 24 · 25 · 26 · F-24 · 28 · 29出土遺物



F-35·41·42·50出土遺物



S-2 出土遺物



包含層遺物出土状況の遺物(1)

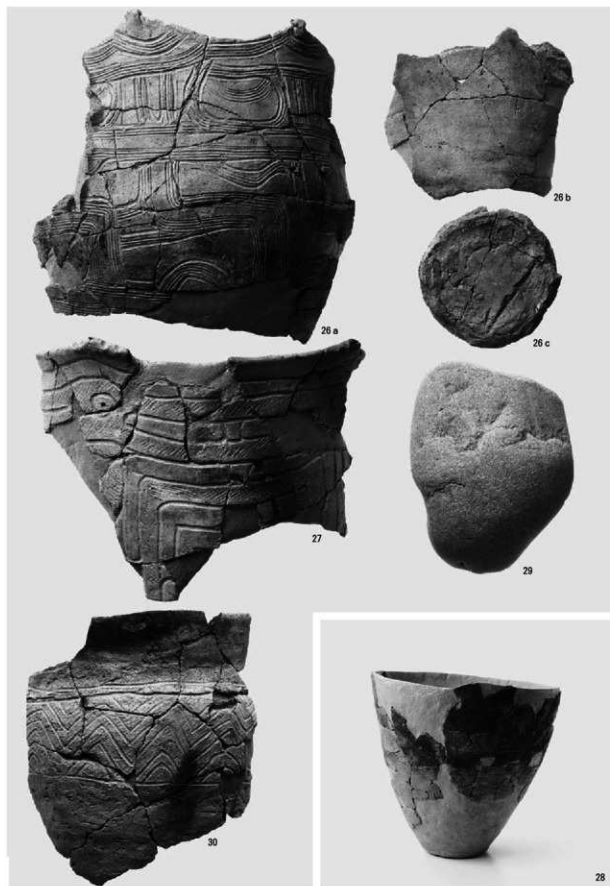


包含層遺物出土状況の遺物(2)

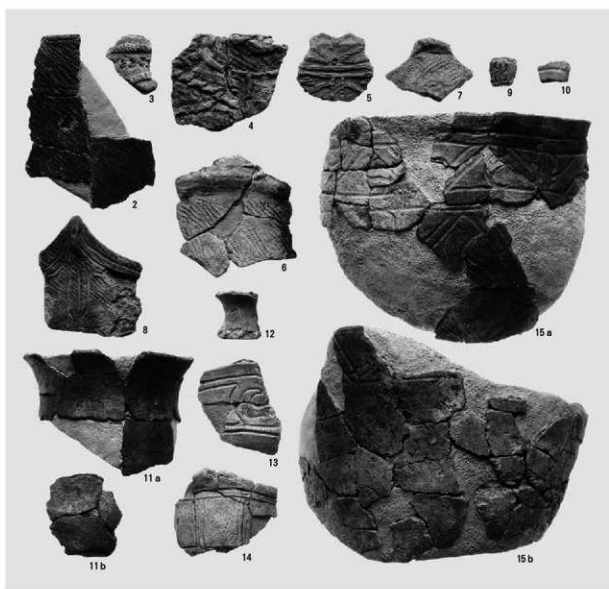


包含層遺物出土状況の遺物③

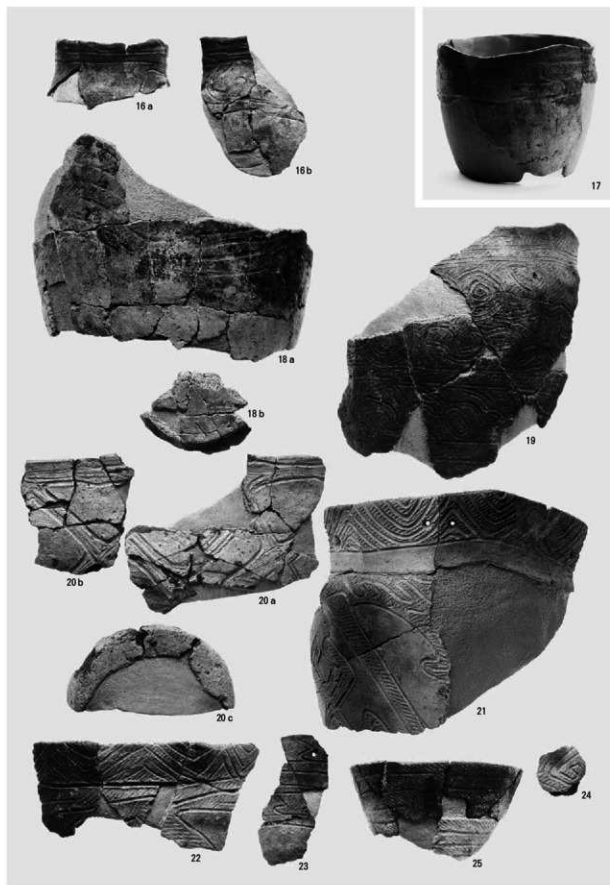




包含層遺物出土状況の遺物(4)



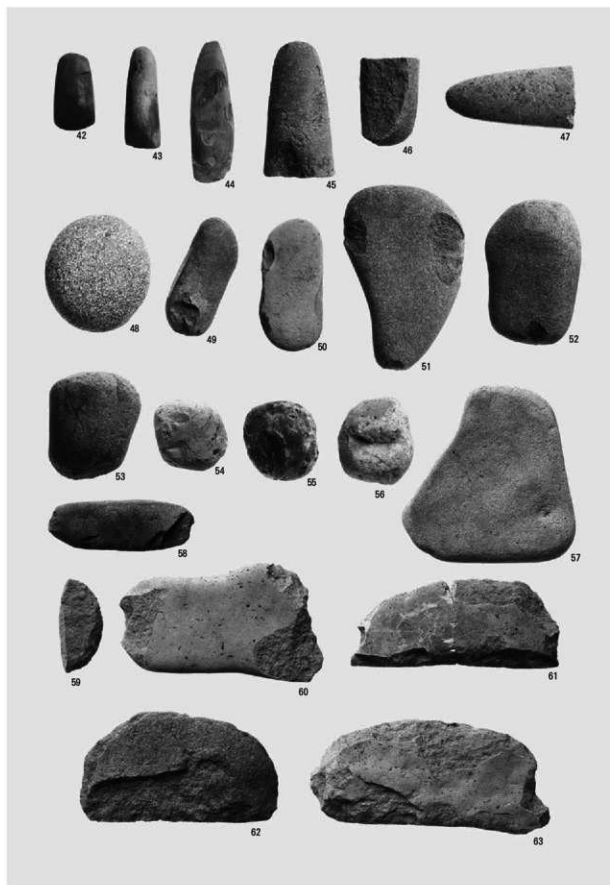
包含層出土の土器(1)



包含層出土の土器②



包含層出土の石器(1)



包含層出土の石器②



25%調査状況（南西から）



遺構確認区完掘（南西から）



調査区完掘（南西から）



基本土層断面（南東から）



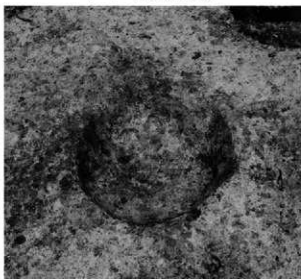
P-1 土層断面 (南から)



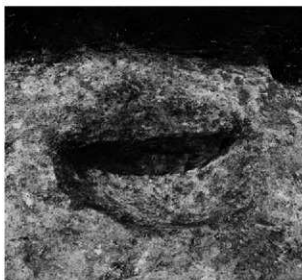
P-1 完掘 (南から)



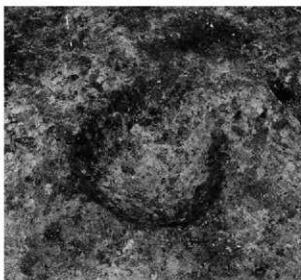
P-2 土層断面 (南東から)



P-2 完掘 (南東から)



P-3 土層断面 (南東から)



P-3 完掘 (南東から)





P-4 土層断面 (南東から)



P-4 完掘 (南東から)



P-5 土層断面 (南東から)



P-6 土層断面 (西から)



P-6 完掘 (南東から)



P-7 土層断面 (南から)



P-7 完掘 (南東から)



P-8 土層断面 (東から)



TP-2 土層断面 (南から)



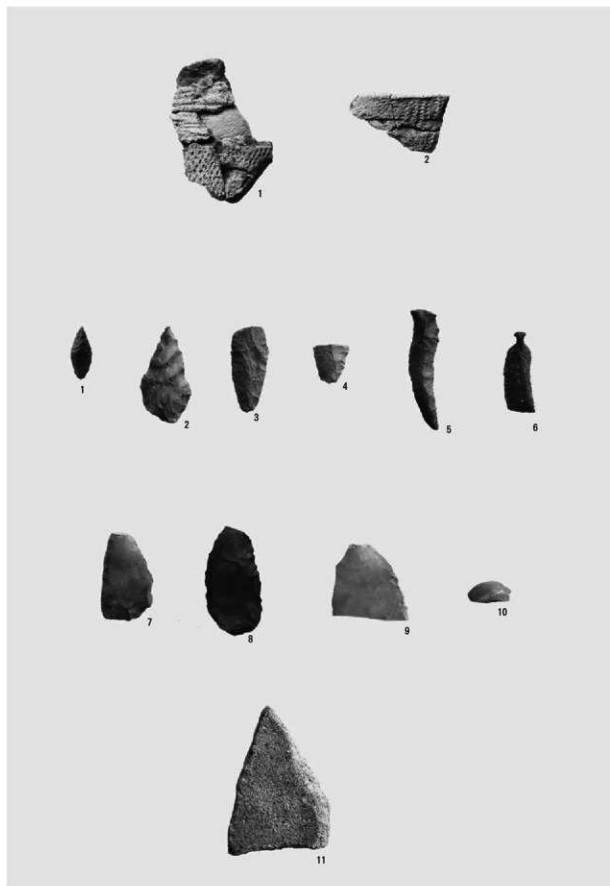
P-8 完掘 (東から)



TP-2 完掘 (南から)



F-1 検出及び土層断面 (南から)



包含層出土の遺物



調査区北東側完掘（北から）



調査区完掘（北東から）



遺構確認区完掘（南東から）



基本土層断面（15ライン付近）（東から）



P-1 土層断面 (北東から)



P-1 完掘 (北東から)



P-2 土層断面 (南東から)



P-2 完掘 (南東から)



TP-1 土層断面 (北東から)



TP-1 完掘 (北東から)



TP-2 土層断面 (南から)



TP-2 完掘 (北東から)



F-7 検出及び土層断面 (北から)



F-8 検出及び土層断面 (南東から)



F-9 土層断面 (南から)



F-10 土層断面 (南から)



F-11 土層断面 (西から)



F-12 検出 (東から)



F-13 検出及び土層断面 (東から)

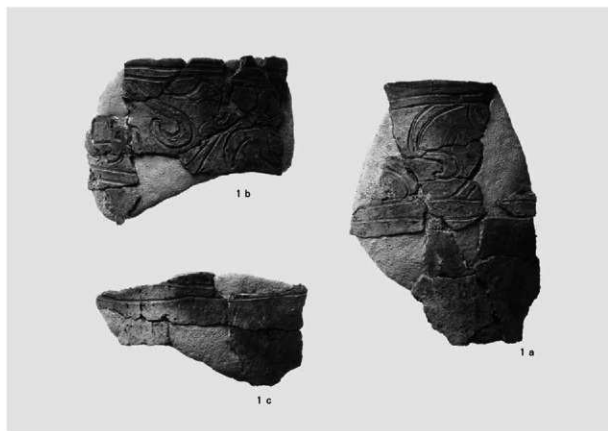


S-1 検出 (北東から)

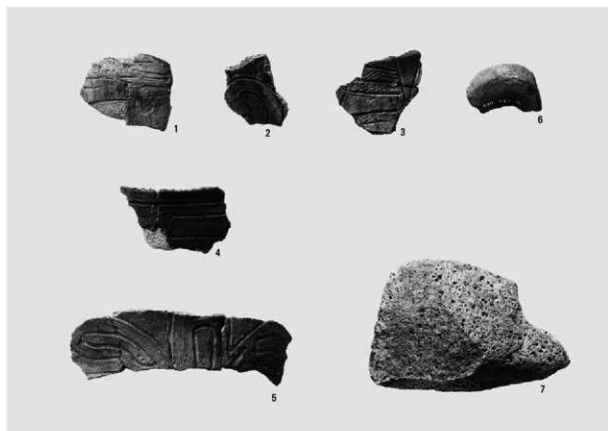


遺物集中1検出 (南から)

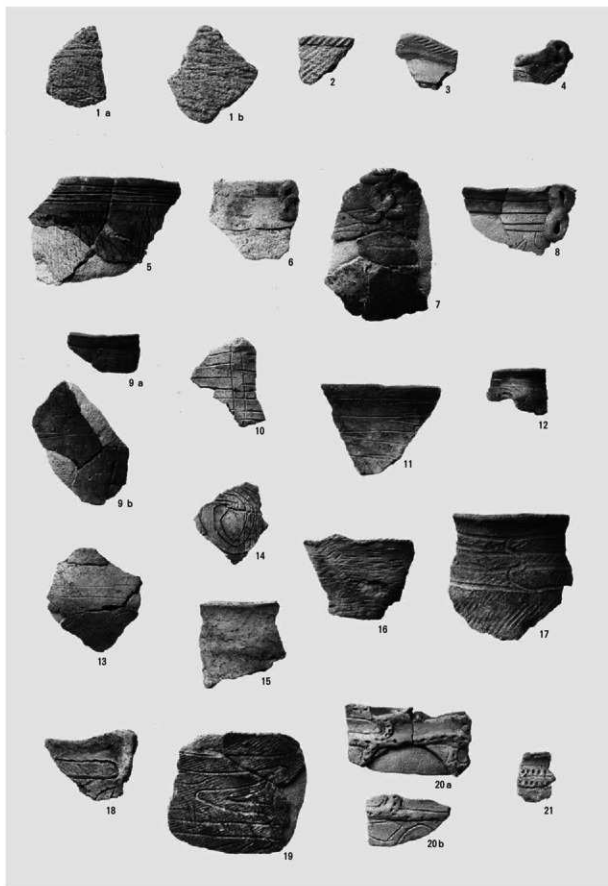




F-13



遺物集中1出土の遺物



包含層出土の土器



包含層出土の石器

## 報告書抄録

ふりがな	ほくとし やふらい8いせき かっこ3 やふらい9いせき かっこ2 やふらい10いせき かっこ2 やふらい11いせき かっこ3					
書名	北斗市 矢不來8遺跡(3) 矢不來9遺跡(2) 矢不來10遺跡(2) 矢不來11遺跡(3)					
副書名	高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事業地内埋蔵文化財調査報告書					
巻次	なし					
シリーズ名	財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書					
シリーズ番号	第272集					
編著者名	佐川 俊一・袖岡 淳子・佐藤 剛・大泰司 統					
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター (URL: <a href="http://www.domaibun.or.jp">http://www.domaibun.or.jp</a> )					
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野観685番地1 TEL. 011-386-3231					
発行年月日	西暦2010年3月26日					
所収遺跡	所在地	コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号			
矢不來8遺跡	北海道北斗市 矢不來421外	01345	B-06-74	41°46'35" 140°36'03"	20080512 ～ 20080718	1,791㎡
矢不來9遺跡	北海道北斗市 矢不來415		B-06-75	43°46'40" 140°36'14"	20080512 ～ 20080804	1,514㎡
矢不來10遺跡	北海道北斗市 矢不來229外		B-06-76	41°46'45" 140°36'14"	20080512 ～ 20080718	1,907㎡
矢不來11遺跡	北海道北斗市 矢不來270外		B-06-77	41°46'51" 140°36'38"	20080512 ～ 20090630	1,349㎡
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
矢不來8遺跡	集落跡	縄文時代中期～晩期前葉	土坑・焼土・土器集中	縄文土器(晩期前葉)・石器	矢不來8遺跡では縄文時代晩期前葉の遺構・遺物が出土した。 矢不來9遺跡では、縄文時代中期前半の竪穴住居跡2軒を検出した。また、近世以降の平地式住居跡1軒を検出し、柱穴覆土からキセルが出土した。	
矢不來9遺跡	集落跡	縄文時代中期前半～後期前葉 近世以降	竪穴住居跡 2軒 平地式住居跡 1軒 土坑 7基 焼土 29ヶ所	縄文土器(中期～後期中葉)・石器 陶磁器(染付・擂鉢)キセル(吸口)	矢不來10遺跡では縄文時代早期後半の土坑を検出した。 矢不來11遺跡では縄文時代後期前葉の遺物集中を検出した。	
矢不來10遺跡	集落跡	縄文時代早期後半・後期前葉	土坑・Tピット・焼土	縄文土器(早期後半・後期前葉)・石器		
矢不來11遺跡	集落跡	縄文時代後期前葉	土坑・Tピット・焼土・集石・遺物集中	縄文土器(後期前葉)・石器		

---

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第272集

北斗市

矢不來 8 遺跡 (3)

矢不來 9 遺跡 (2)

矢不來 10 遺跡 (2)

矢不來 11 遺跡 (3)

—高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成22年 3月26日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 江別市西野幌685番地 1  
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238

印刷 中西印刷株式会社  
〒007-0823 札幌市東区東雁来 3 条 1 丁目 1 番34号  
TEL 011(781)7501 FAX 011(781)7516

---